

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015

Youth Blog 2015

4月27日から5月22日にかけて、アメリカ・ニューヨークで、2015年核不拡散条約(NPT)再検討会議が開催されました。

ナガサキ・ユース代表団もニューヨーク入りし、会議の傍聴や様々な活動に参加しました。会議の全期間への参加は出来ませんでしたが、それぞれが独自のプログラムを組み、その活動報告を日々行っております。

[Takanobu's Blog](#)

[Yuka's Blog](#)



[Soichiro's Blog](#)

[Ayumi's Blog](#)



—

[Hayato's Blog](#)

[Mayu's Blog](#)



Minami's Blog

Yukari's Blog



Chisa's Blog

Tomoya's Blog

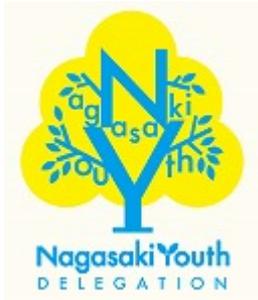


Jo's Blog

Tomoe's Blog



Youth Blog



核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015/takanobu-blog-2015

Takanobu's Blog 【核拡散防止条約日記】

No.5 Friday, 1 May

いよいよ僕にとって国連最後の日です。

今日の気になる会議はアメリカ主催の「核兵器廃絶の監視の国際協定」についてでした。とくにロシアとのNew Start 条約を強調し、いかにアメリカが核兵器廃絶を頑張っているのかという内容でした。

会議の参加者の中に日本の外交官の方がいらっしゃったので会議の後少し質問してみました。いくつかの質問の後気付いたのは、外交官たちは本当によく核兵器の恐ろしさや被害を熟知していて、決して核兵器の使用を前向きにとらえてはいない事です。そしてだれよりも平和について考え、精一杯努力しているのだなと感じました。

日本政府が核兵器の被害を軽視しているがゆえ、核兵器廃絶に対する取り組みが甘いのだと勝手に想像していました。ただそれは違いました。核兵器の恐ろしさを心底熟知しているがために、その核兵器の被害から日本国民を守るために、核の傘に依存し核廃絶にはあまり大きな声をあげないのです。

これまで自分がしようとしてきた核兵器の被害の徹底的な周知という行動が逆に核兵器を保持させる方向に働くことにもなりえると感じ、なんともやるせない気分になりました。

この世は甘くないです。

これで僕の国連での活動は終わりますが引き続き核兵器廃絶に向けて努力していく次第です。

[Go back to top](#)

No.4 Thursday, 30 April

今日一番心に残った会議は、スイスやスウェーデン、NZの各国代表による核兵器の危険性についてのものです。具体的な内容は、いかに核兵器が短い時間で発射できる状態にあるのか、またそれによる危険性についてでした。

発射システムへのコンピューターウイルス攻撃による誤射の可能性はやはりとても大きな不安要素となっているようで、特に強調して議論が進められていました。また、核弾頭をミサイルからはずして近くに保管しているだけで、実質的には即座に発射体制に移ることができる状態であることも、根本的な「緊張」の解決にはいたっていない原因の一つです。

この会合に参加し、いかにこの世界が核兵器の「緊張感」につつまれているのか実感しました。いつ核兵器が飛んできてもおかしくない。本当に一触即発の危ない世界です。

そんなことも知らずに平和に包まれた中でぬくぬく生きてきた自分が恥ずかしく、そしてもっと謙虚に平和を守るために努力している方々に感謝して生きていこうと思っています。

では。

Go back to top

No.3 Wednesday, 29 April

今日も朝からいくつかの会合に参加してきました。そのなかでも特にイランの政府関係者との話が興味深かったです。いわゆる宗教と法に関する問題です。一般的には法律を守ることが宗教の掟を守ることよりも大事なことです。しかし、まず第一にそれぞれが信じる宗教の掟を守ることが一番大事だと考える人々が世の中にはいるのだと知らされ、気づきました。つまり、それぞれが信じる宗教のために国際的なルールや法を犯すことがあっても不思議ではないのです。そのような地域ではどんな手を使ってでも自国を守り抜き、宗教的に大事なものや土地を守り抜くことが美德になるのです。たとえば核兵器を使い、異教徒から自国民を守ることも妥当だという考えに至るわけです。

この、信仰心による不都合が良いのか悪いのかは言えません。価値観の違いですから。ただこの問題を越えてまで交流を持ちたがっているのなら、双方の相互理解、並びに妥協案が必要です。お互いをよく知り、何がどう関係して他方の利害となっているのか深く知る必要があります。

「相互理解」は核兵器廃絶につながる重要なキーワードだと感じています。

おやすみなさい。

Go back to top

No.2 Tuesday, 28 April

今日は朝8時から各NGO団体の代表が集まる会合に参加してきました。ここで感じたことは、たくさん来ているはずの日本人の団体の参加者がいないということです。日本人が主催する会合にはほとんど日本人しかいません。こういう他の団体と交流できる場で宣伝すればもっと幅広い層から参加してもらえるのにと思いました。この前の週末に行われたデモ行進も、なにかやっばりまわりを巻き込もうという気が感じられず、ただ黙々と歩いているだけ。なにかこう、もっと外に発信する行動が必要だと思いました。NYに来て日本人同士で集まり、被爆者たちの話を聞き、もっと頑張ろうと言っておしまい。なんのためにNYに来たのだろうと疑問を感じています。通訳の人たちも一緒に来ている方々もいらっしやいます。「国境なき通訳団」の方々も懸命なサポートをしておられます。準備は完璧に整っているので後は怖気づかずただ主張するのみです。日本人同士で固まらずにいろんなところに散り、それぞれが行く先々で想いを発信しましょう。

もうひとつ。「若者が少ない」。このナガサキユース代表団がいかに画期的で、素晴らしい考えなのか気付かされました。そして、送り出してくれた方々に感謝してもしきれない思いでいっぱいです。

では、おやすみなさい。

Go back to top

No.1 Monday, 27 April

ついにNPT再検討会議が開幕しました。

午前10時30分から各国政府代表が読み上げる声明を傍聴しました。日本、アメリカ、ロシア、スウェーデン、スイス、マーシャル諸島など計20か国とNon-Aligned Movement (NAM)やNew Agenda Coalition (NAC)などの計4団体のスピーチでした。2点今日感じたことを書きたいと思います。

まず1つ目。このNPTという条約は役立たず。なぜなら核兵器保有国が核兵器保有の権利を守り、他の国に核兵器を作らせないための条約と事実上なっているからです。これは、各国代表の（特に核兵器保有国）のスピーチを聞いて良く分かりました。声のトーン、態度など実際に直接見るとものすごくその傾向がとてもよく伝わってきます。核兵器保有国は「これだけ削減を頑張った」「北朝鮮は脱退を取り消し、NPTに戻るべきだ」という所にしか目が向いていない、それしか伝えていないのです。NPTは核兵器を廃絶するための条約ではなかったのか？なんでこの会議をしているのか？議論及び主張の論点がずれている。そう感じました。

そして2つ目。アメリカ代表のスピーチは、ずば抜けて上手。あまりの上手さに感動しました。人間の本能的な欲求から考えると、より強い武器を持ち優位性を保とうとするのは自然な考えなのかもしれません。だからアメリカの核兵器を持つ主張が正当なことに思え、納得し、スピーチが上手だと考えてしまっているのかもしれません。ただ、間の取り方や声量、声の高低、テンポなどは本当に絶妙で本気で聞き入ってしまいます。それは悪いことではありません。むしろ賞賛すべき事です。ただ、スピーチのやり方で平等な判断が出来なくなることは避けるべきなので他国の政府関係者はこれを見習ってほしいと感じました。岸田外務大臣のスピーチもなかなかでしたが何か足りない。

今日感じたことはこの二点です。ほかにも書きたいことは山ほどありますがこのへんでやめときます。では。

Go back to top

No.0 Thursday, 23 April

ナガサキ・ユース代表团三期 天野貴暢です。

お昼に長崎を発ち、今は福岡空港で飛行機待ちです。

国連で活動できるという興奮、人類の滅亡に関わる問題に携わるという緊張、本当に有意義な活動ができるのかという不安。いろいろな想いが頭の中を駆け巡っています。

ただし、自分の平和へ想いをNPT会議へぶつけるという信念は揺らいではいません。

現地で一緒に活動するユースのメンバー、被爆者の方々、またこれまで自分に平和の尊さを訴え、伝えてくれた全ての方々の想いが僕の自信となっているのかもしれません。

それでは、行ってきます。

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015/yuka-blog-2015

Yuka's Blog 【Yuka's Insights in the 70th】

No.10 Thursday, 7 May

- NGO room発表本番、「世界に問うてみる」を実行して

朝～昼すぎ: NGO room発表の準備

15:00~18:00 : NGO room発表本番！

- NGO room発表本番、「世界に問うてみる」を実行して

ナガサキ・ユース代表団の主催にて、国連内の一部屋を借りて、3つのテーマについて発表を中心としたセッションを行いました。

発表をしてみて感じたこと。それは、発表を行ってよかったな、ということでした。

発表を終えて、ナガサキ・ユース代表団は国内外の様々な参加者から賞賛と、何より激励の言葉を得ることができました。また、メンバー自身も自分の限界に挑戦し、公の場で自分たちの考えを問うという貴重な経験が出来たと思います。

思い返せば1月末のミーティングにて、「発表して、世界に問うてみない？」という私のちょっと気まぐれな一言からユースとRECNAサポーターズの間で始まった企画でした。正直、完全なる見切り発車でした。

そんな中、こんなことを調べて発表したい、こんな人たちからアイデアをもらいたい、発信して政府を動かしてみたい等々、いろんな興味関心と意思をもつメンバーが集まりました。限られた時間と経験とで進めていく中で、正直「大丈夫かな?!」と思った瞬間もありました（それは私だけではなかったはず）。そんな中なんとか形にすることができ、こうして発信して「世界に問うてみる」ことができました。

問うてみれば、反応してくれる人が、たくさんいました。

セッション後に頂いた言葉で、印象的なものが2つあります。

それは、以前からユースを知っている方からの「去年から進化しているね、感心した」というお褒めの言葉と、別の方からの「これがスタートだね」という励ましの言葉。

これを胸に前を向いて行かなければという想いと、次のユースにバトンを渡しぜひさらに進化して行ってほしいという想い、その二つが今は心にあります。

(当日の詳細)

ついに本番当日。午前中に通しリハをする予定でしたが、各自の最終調整を優先することとし見送りに。事前に各グループの発表パワポとスクリプトは江島さんと手分けしてほぼ確認し終えており、あとは発表にてそれぞれが持てる力を出し、全体としては準備に抜け漏れがないようにするのみ。やはり当日なのでそれなりにドタバタはしましたが、そこはサポート組のメンバーの協力を得て、何とか本番へ。

いよいよ本番。会場はぱっと見たところゲストも含め30名ほどおり、座席はほどよく埋まっている感じでした。発表では3つのグループすべてが、自分達が3か月間かけて準備してきたものを堂々とプレゼンし、会場は拍手喝采でした。私も隣で「がんばれー！」と内心ドキドキしながら聞いていましたが、オーディエンスの方を見ると頷いたり相槌をいれたりする様子が見受けられてほっとしました。

平和教育の発表では、アンケートに基づいた長崎の若者の核問題への関心の低さや未来志向の平和教育の提案が示されました。日本政府が2010年に引き続き今回も軍縮教育の重要性に言及した作業文書（Working Paper）を出していることもあり、関心が高いものとなりました。

次の日本政府の政策に関しては、被爆国として非核化のリーダーシップをとってほしいという願いと、北東アジアの安全保障環境が好ましくないために米国の核の抑止力に頼る政策となっているというジレンマについて、政策に関する見識を披露し、市民社会の中にいる長崎の学生として出来ることを提案しました。政策に関して正面切って議論をするという非常に難しいトピックでしたが、自分達の中で納得がいく最後の最後まで、メンバーが桂子先生と共にロジックを詰め最高の発表を突き詰めた結果、あまり日本のプレゼンスがない中で特に日本について見識がないオーディエンスにとってよい学びのきっかけとなり、またその後のWorkshopへのよい橋渡しとなりました。

最後に、若者の核問題への関心についての発表グループは、被爆地・長崎の若者の核問題への関心の低さの要因をアンケートからあぶり出し、同時に非被爆地で核問題に取り組んでいる6名の若者をゲストスピーカーとして招き、エピソードを交えながら多くの若者を巻き込むための要因を話してもらいました。政治を専攻する学生や理系の研究をしている学生、NGO代表者など、様々なバックグラウンドと目的を持つメンバーから示唆に富むお話を共有していただきました。

発表に引き続いてはゲストからのフィードバックを頂きました。被爆者の平田さんから国内でも東京など被爆地以外の学校での被爆に関する平和教育の実施率が下がっている点について憂慮しているといった点や、日本政府担当者やその他のNGO代表者から若者への期待などを共有いただきました。その後は急ぎょ検討し直し入れることにしたWorkshopにて、北東アジアの非核化に向けて何がキーになるかをディスカッションしました。ここでは最終的に平和教育の重要性が示唆され、興味深い結果となりました。

私自身はというと、グループ発表の内容確認やゲストとの最終調整を優先したため、グループ発表は行いましたが、司会進行は結果的にアドリブ満載になってしまいました。が、どこかで鍛えた「強い気持ち」という武器でなんとか乗り切ることができました（汗）

この場を借りて、今回の発表を支えてくださった皆様に心から感謝いたします。本当にありがとうございました！そしてこれからもユースおよびRECNAサポーターをどうぞよろしくお願いいたします。

Go back to top

No.9 Wednesday, 6 May

●NGO room発表、飛び込み営業の巻

AM: Gov't briefing (アイルランド)、Main Committee 1傍聴

PM: NGO room発表の準備

明日はいよいよNGO roomでの発表！あれにこれにそれに、すべきことをお手玉状態で突っ走る感じです。

NGO room発表で私たちが苦労した一つが、広報の仕方です。ユースを既に知っている方々や長崎のときから活動を見守ってくださっているメディアのみなさんを招くのはもちろんです。ですがこの機会を活かして、ぜひ私たちのまだ知らない「世界」に発信したい、議論がしたい。よって私たちの知らない会議参加者に来てもらう必要があります。

事前の200枚強のビラ作成。配布は、会議前日に国連パスを取得するために列に並んだ時に、隣に並んでいたNGOの方に渡した時から開始しました。スキあらば、渡す。NGOの山盛りのビラが置いてあるブースにもちゃんと平積みしました。

そして今日は、飛び込み営業！桂子先生のアドバイスをもとに、本会議直後の議場で直接各国政府代表にビラを配ることにしました。ドキドキハラハラでしたが、発表の内容と「ぜひあなた方に聞いてほしい」という気持ちをメンバー有志がそれぞれ伝えました。

その結果はこちら。当日メンバー内で共有したメッセージを掲載します⇒

【Good news/報告: サイドイベントの宣伝】

先ほどMC1（本会議）終了後に議場でDelegates（大使）を捕まえて宣伝してきました！

以下、私が把握しえたコンタクトです。Officials（政府関係者）が複数来てくれる可能性が高まりました。

・NZ: Ms. Dell Higgle大使より、"We'll send someone to your event."（ニュージーランド政府からだれか出席するようにするわ。）

・モレイ議長（MC1議長で、去年のPrepCom議長）：「なんとか時間を作るように努力するし、作れたらサンドイッチをつかんででも行くよ」

・ Austria: Delegationメンバーより、"We'll do our best to come to your event." (できる限り参加するわ。) (BANgのクリスチャンの紹介。Thanks!)

その他、日本を含めた各国政府にピラ配りしてくれました。ありがとう!!!

彼らの期待に応えるべく、精一杯頑張りましょう!!

FBで共有すると、メンバーからは「すごい!」「やったね!」の声が上がりました。みんなプレゼンの準備に追われてお疲れ気味でしたが、政府関係者の言葉で一気にポジティブな雰囲気が生まれました。

あと30時間。あと24時間。あとxx時間。。。悔いのなきよう、あとは突っ走のみです。

Go back to top

No.8 Tuesday, 5 May

- エネルギー政策と原子力

AM: Gov't briefing (フランス)

PM: ドイツ人学生とのディスカッションセッション

- エネルギー政策と原子力

この日はドイツ人とのディスカッションセッションでした。これは去年の2期生の時に行われたものであり、今年で2回目となります。

今回のトピックはエネルギー政策、とくに原子力発電に関するものです。福島での事故と原発再稼働の是非という課題を抱える日本と、福島での事故を境に脱原発を急速に推進しているドイツという、ある種対極にいる国同士の話し合いで、お互いの国同士非常に興味深く話し合いをすることができました。

また、今回はユースの中での担当メンバーが事前学習会を開催したり、資料も手分けをして詳細に調べたものを準備したりと、気合十分!な企画となりました。

実際にドイツ人学生と顔を合わせてみると、お互い様々なバックグラウンドを持つ者同士、様々な角度からエネルギー政策について話をすることができました。私が一緒になったグループには、国際関係学(政治)や教育、工学やエネルギー政策を専門にしている学生まで多彩なメンバーがおり、なかなか話は尽きませんでした。

私が以前から気になっていた点に、ドイツ国内は脱原発しているが、結局国外から原発由来のものを含めエネルギーを輸入していて他者依存になっているではないかという論点がありました。それをぶつけてみると、「原発停止前でも、原発で使うウランは輸入したもので、ドイツ国内の自前ではなかった。他国にエネルギーを依存する必要性は、原子力であれそれ以外の手段であれ変わらない」ということを話してくれました。その

点は私にとって目から鱗であり、資源の少ない日本においても（自然エネルギーを自活しない限り）その点は変わりがないという、当然ではあるが見落としていたことに気づきました。

原発再稼働の是非が焦点になっている日本で、この課題について引き続き関心を持っていこうと思った機会となりました。

Go back to top

No.7 Monday, 4 May

●核問題とジェンダー

●Sharing — 共有すること

AM: Gov't briefing (オーストリア)、軍縮教育に関するセッション参加

PM: 本会議傍聴 – Main Committee 1（軍縮に関する委員会）、ユース内ブリーフィング

●核問題とジェンダー

この日初めてMain Committee 1（軍縮に関する委員会）の傍聴をしました。4週間の会議期間中、最初の4日間の各国の一般討論（General Debate）以降は、3つの委員会とその下部組織に分かれて議論が進み、最終的な文書を交渉・作成していきます。

印象的だったのは、一般討論（General Debate）の時と比べ、女性の発言が増えたことでした。一般討論は大使が発言することが多く、私が傍聴した限りでは、初の女性首相が誕生したニュージーランドの大使以外はすべて男性でした。しかしより実務レベルとなると思われるMain Committeeでの討論では、いくつかの国において女性の政府代表者が発言しており、非常に目新しく映りました。

この「目新しい」と思ってしまう状況を前に、核兵器問題は、軍事戦略上の問題であるという考えに留まる限りは旧態依然でありつづけるのではないかとふと考えていました。もちろん軍事作戦上の問題ではありますが、同時に核兵器が使用された場合は投下された地域の全住民のみならず全世界の人々に影響が及ぶという点において、単に軍事作戦上の問題のみの観点からは議論されることではないと考えます。それはまさに核兵器の「非人道性」（およびそれに付随する核兵器禁止条約に向けた動き）の議論と関連する点です。つまりその観点が70年弱疎かになってしまった理由のなかには、軍事作戦上の議論に留まってしまっていたことが推測されます。

もちろん上記のことは女性の不在と直接は結びつかないことであり、論理が飛躍しているのは十分承知の上で記しています。ただ少なくとも私が今までいた環境（以前の大学や勤め先など）を鑑みるに、女性が存在していることにより、議論のバランス（均衡）が改善され風通しがよくなるという印象があります。風通しがよくなると不透明性が低下し、一部の専門家の話ではなく、みんなの話になったり、そもそもそれってどうなんだろうという意外と本質的な部分が浮き彫りになったりという効用があると実感しています（もちろん逆、つまり女性多数の中で男性が存在する場合も然りであり、要はバランスなのかもしれません）。専門家ばかりでは視野が狭すぎて見えず行き止まりになっ

てしまいがちな点が見えるのが、外から入ってきて来た者であり、ジェンダーバランスはそこに寄与する要因の一つではないかということです。...と核問題をマクロからミクロに（少々強引に）引きつけて考えながら各国の主張を聞いていた午後でした。

尚、討議内容については、軍縮に特化した方策についての各国のスピーチを耳にし、素人であっても前週よりも具体的なものになっていると見受けられました。これからどう進んでいくのか。軍縮＝核兵器ゼロの世界実現への道筋はつくのか。RECNAの先生方の配信を楽しみに動向を見守っていこうと思います。

●Sharing — 共有すること

会議終了後の18時に、今回初めてメンバーと桂子先生が集まって、会議やサイドイベントといった内容に関して共有する時間を作りました。これは1期生であり今回はボランティアに参加された江島さんと私とでお話していたときに出た話で、提案したところ同意するメンバーがおり先生のご協力により実行に至りました。

実施した感想としては、とてもよかったです。まず何より、私たちユースが得た情報に関して、専門家である桂子先生から背景や追加情報といった補足や訂正を頂き、より正確かつ深い理解に繋げることができました。

また、ユースメンバーも時間的な制約があり各自別のイベントに出ていることや言語の壁があり、各人が得た情報をメンバー全員で共有することで理解度が上がりました。

加えて、メンバー内で情報を共有しようという雰囲気が出た気がしました。このミーティングを通じて、メンバー内で互いに情報共有することでメリットがあるということが少しでも感じられればいいな、この先や次の代にもつながってほしいなと思います。情報共有ができれば個人としても組織としても学びは倍増しますし、人に「伝える」ことで整理ができ記憶に残りますし、また互いにオープンに議論し質問しあえる土壌づくりにもなるのではと考え、今後に期待しています。

Go back to top

No.6 Friday, 1 May

●人とのつながり：伊藤前長崎市長とアラン・ウェア氏

●日本のNGOのプレゼンス（存在感）

AM: Abolition Caucus, Gov't briefing (メキシコ)

PM: 本会議傍聴 – Civil Society Presentations (NGOが本会議で発言できる唯一の機会)

夜: 長崎ばってん会参加

人とのつながり：伊藤前長崎市長とアラン・ウェア氏

この日の朝の私のミッションは、ある日本人ジャーナリストの方が海外NGOにインタビューをする際に“即席通訳”をすることでした。そのためこの日はお恥ずかしながら初めて8時過ぎからのAbolition Caucusに参加しました。Abolition Caucusとは毎朝NGOの主要

メンバーが集まりフランクに情報交換をする場所で、この前後の時間帯が多忙なNGO主要メンバーを捕まえるには絶好の機会なのです。

1人目は、アラン・ウェア氏。核軍縮の世界で知らぬ人はいない有名人で、核軍縮・不拡散議員連盟（PNND）国際コーディネーターを務めるニュージーランド出身の方です。質問事項は、現地メディアでのNPT再検討会議の取り上げられ方や、日本国内で挙がっている被爆体験継承の懸念についての考えなどで、私の至らない点もありながらもなんとかコミュニケーションのお手伝いをさせていただきました。（ニュアンスを伝えるのはなかなか難しいですね（汗））

話がひと段落したところで目に留まったのが、アラン氏のネクタイ。なんと折り鶴柄です。どうしてですかとジャーナリストの方が尋ねると、「これは伊藤前長崎市長からもらったものなんだよ。生前親しくしてね。彼はGreat leaderだったよ。」と当時のエピソードを語ってくれた。なるほど、そんな繋がりがあるのかあと正直驚きました。考えてみれば想像がつくものだけれども、つい1週間前まではネット上の人でしかなかった方を目前にし、（私は長崎出身ではないため在任中の伊藤前市長のことは詳しくは存じ上げないのですが）我らが長崎の先達である方との親交を感じることに不思議な力強さを感じました。こうしてリーダーたちの想いは結び繋がれていくんだなあと、感じ入った瞬間でした。

二人目は、ティム・ライト氏。核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）のアジア太平洋担当局長で、この方もこの世界で超がつくほど有名人です。本会議の展望について伺うと、非人道性の議論はここ数年で盛り上がってきたことで勢いもあり、楽観的な要素が十分にあるという趣旨を述べていました。これは会議を悲観視する大半の声に反していて驚いたとともに、勇気をもらいました。

即席通訳としての取材同行、とても楽しかったです。このような機会を頂きありがとうございました！

●日本のNGOのプレゼンス（存在感）

外交において、あるいは文化面において、日本あるいは日本人の存在感（presence）が低いというのはよく言われることだと思います。私自身も海外やそれに準じたグローバルな環境下で、ああ自分日本人だな（汗）と覚えることがあるのがこの点です。発言しない、自分の確固とした考えを持つとしない・述べない、議論を避ける、謙虚さ（humble）を（相手の意見を素直に受け止めるというよりも）控えめであると思っている点など...自戒を込めて記しましたが、個人においても外交においても共通する点があるのではないかと思います。

しかしこの日行われた本会議でのCivil Society Presentationsでは、その概念を打ち砕かれました。このセッションのモデレーターを務められていたのが、日本のNGOであるピースボートの川崎哲氏でした。この時間は本会議でNGOに唯一発現権を与えられた3時間なのですが、そのコーディネーションを一括されている方が日本人だったのが衝撃的でした。またそれだけでなく、川崎氏が昨冬にRECNAへ講義に来てくださった際に、（私が述べるのは大変僭越だと承知の上で記すのですが）情熱をドライバーにして理詰め核廃絶を如何に成しえるかを考え実行されている方であり、お話すべてがとても勉強になったのを覚えています。“Cool head, warm heart”という言葉が実に似合う方だな

あと、当時期末テストラッシュで文字通り頭がパンパンだったなかにも鮮烈な印象が残っています。もちろん戦争における唯一の被爆国・日本のNGOゆえの責務という見方もできますが、市民社会（Civil Society）が欧米と比較して成熟度に欠けると思われる日本において、国際舞台にて実際にその責務を担えまた実際に長年担っているplayerが（団体・個人として）いらっしゃるといのが、私の眼には非常に新鮮にまた心強く、希望を目にした瞬間でした。加えて、川崎氏だけでなく、RECNAという核廃絶において重要な役割を担っている日本の専門家が在籍し、またこの未知の第一線の方がゲストとして来て教えてくださる環境に私自身が身を置かせていただいているという非常な環境を改めて有り難いと感じた瞬間でした。

Go back to top

No.5 Thursday, 30 April

- 核兵器の非人道性、その重要性と実現手段の関係

- 若者が、想いを伝える

AM: Gov't briefing (米国)、オーストリア政府代表との非公式セッション、平和首長会議ユースフォーラム

PM: フィリピン政府代表との非公式セッション、本会議傍聴

夜: Nagasaki in NY参加

会議4日目。一般討議(General Debate)における各国の声明発表も終わりに近づきました。ユースメンバーの間には、一向に進んでいるように見えない軍縮への取組みに対し、この会議の信憑性や実効性への疑問を通り越し、諦めムードが漂っている様子です。

諦めや落胆は、期待の大きさの裏返しです。私自身も、会議参加前は被爆70周年という節目と、前回の2010年NPT再検討会議での最終合意文書とその後オスロ・メキシコ・ウィーンと3度行われた「核兵器の非人道性にまつわる会議」(Conference on the Humanitarian Impact of Nuclear Weapons)による非人道性への再焦点化があり、最初から会議が盛り上がるのではないかと少々楽観視していました。

しかしここは外交の場。利害関係が対立するなか、現状打破は一筋縄ではいかないのも無理はない。と、このころは少し冷めた（冷静な？）目で現状を見ている自分がいました。それはきっと以前、国際関係学を専攻していたときに、いくら考えたり友人と議論したりしても結局国同士のやり取りには割って入れない自分というちっぽけな存在を痛感した経験があったからだと思います。

ちょっと熱くなりきれない自分がいるのも悲しいなあと思いつつ、朝9時からアメリカのGov't briefingを聞きながら、核兵器の削減は努力しているしロシア次第で共に推し進める用意があるものの、無くすことはまだ時期少々（not ready yet）、という煮え切れないアメリカの立場を目の前にはっと現実に目が覚めたのでした。

- 核兵器の非人道性、その重要性と実現手段の関係

今回の会議の焦点の一つは「核兵器がもたらす非人道性」です。それは、核兵器は全人類に破滅的な結果をもたらすものであり、よって廃絶されなければならないものである、ということです。

...そんなことはわざわざ70年も経った今、改めて論議に持ち出すべき論点なのだろうか？当然なことすぎることはないのか？私自身、その論点を聞いたときはそう思っていました。ほかの大多数の日本人にとっても、少なからず広島・長崎の被爆の惨状を学んだことのある者にとっては、核兵器のもたらす非人道性は言わずもがなである点だと思われま

しかし今回の会議における「非人道性」の論点は、非人道性を根拠として、核兵器を「非合法化」していくという手法を含んでいます。非合法化の具体策は、「核兵器禁止条約」を制定することです。オーストリアを含め多数の国は、核兵器禁止条約を制定するという方向にNPT加盟国の同意を得て、最終合意文書にその文言を盛り込むことを目指して動いています。一方核保有国ならびに核の傘にいる国々は、この方向性には反対しています。日本はというと、米国の核の傘下にいることを重要視し賛成していません。戦争における唯一の被爆国でありながら。

重要である（根拠：what）ということと、その重要性をどう実現化していくか（手段：how）。この2点に大きなギャップを持つことは、核問題に限らず非常に普遍的なことであると思います。例えば政策に限らず、ビジネスにおいても、あるいは私たち学生の悩みの種（期待の宝庫？）である大学の授業方針まで、総論賛成各論反対が起こっている点かと思えます。「あなたが言っていることは理解（合意）する。でも、そのやり方には賛成できない。」という感じです。実は日々、よく耳にすることではないでしょうか。

相手を説得するには、何が必要なのか。私の頭の中では、ロジックでは詰めきれない、倫理観や大局観といった飛躍（ジャンプ）が必要である点だと感じています。

●若者が、想いを伝える

夜はNagasaki in NYというイベントが開催されました。長崎県人がホストとなり、NPT再検討会議に来られた日本人やメディアの方々、そして現地New Yorkerのみなさんに対し、長崎からメッセージを発信しました。登壇されたのは田上長崎市長、被爆者の医療に携わってきた朝長医師や、被爆者によるコーラス・ひまわりによる合唱、そして我らがユースの西田千紗さん、山中智絵さんはトリを飾りました。

西田さん・山中さんのスピーチは、とてもすばらしいものでした。被爆者やこれまで非核化に尽力された方々から受け取ったバトンを、しっかり受け取り次に繋げていきますという気概と熱意がひしひしと伝わってくるものでした。被爆者の方々や田上市長はじめ長崎市役所の方々やなどみなさん非常に感激した様子で、さらにユースメンバー自身もとても感化されていました^^

準備においては、西田さんは、去年のスピーチ以降1年間で感じたことや見聞きしたことなどたくさん伝えたいことがある中で、自分の気持ちが上手に伝わる言葉選びや相手に伝わる流れの組み立てに非常に苦心していました。山中さんは、初スピーチということでまず何をどう伝えればいいのか、また福島での貴重な体験やその前後の心の機微をどうスピーチに落とし込むのか奮闘していました。人に伝えるというのは本当に労力を要

するもので、準備は出発日前日のミーティングやNYに着いて会議と同時並行での追い込みなど大変なことも多かったと思います。しかしその甲斐があり、終わった後の二人はたくさんの人の感激と祝福で包まれていました。私自身もスピーチづくりを陰ながらサポートした者として、二人の熱と言葉が観客の心に伝わったのを感じて正直ほっとしました。私も二人の背中を見ながらいろんなことを学ばせてもらいました。

また同時に、以前ジャーナリスト・立花隆さんが年初に長崎大学にて特別授業をされた際に述べた、「熱意」と「言葉の力」の重要性を思い出しました。その時は「他人を巻き込むにはどうすればいいのか」という質問に対する答えとして「熱意」と「言葉の力」が大事であるとのことのお答えを頂きました。まさにそのことを体現する二人のスピーチだったと思います。ここで得た応援や賞賛の声を力に変えて、ぜひ長崎に持ち帰ってその想いを周りに広めてほしいなと思います。

Go back to top

No.4 Wednesday, 29 April

●ウクライナ情勢とNPTの意外な関係性

●9.11と福島をつなぐもの ~マウントサイナイ大学病院訪問~

AM: Gov't briefing (UK)、本会議傍聴、Mayer for Peaceイベント参加

PM: マウントサイナイ大学病院訪問

本日で本会議3日目です。朝9時からあるGov't briefing (*Gov't = Government) という政府とNGOとの非公式な会合があるのですが、参加していた世界各地のNGO関係者からは会議が進展しているというポジティブな発言は聞こえませんでした。またこの日のGov't briefingのゲストであるUK (英国) 政府代表も、開口一番、核軍縮が一向に進展を見ないことに対して会議参加者間での「失望 "frustration" が募っているのは理解している」と述べ、1日が始まりました。

傍聴席はというと、初日の1/10ほどに減り閑散とした状況。日本のマスメディアの方も、この日朝到着予定の長崎市・田上市長や安倍首相の訪米の取材でいらっしやらず、RECNA (長崎大学核兵器廃絶研究センター) の先生方含めその道の専門家らしき人がちらほらという状況でした。もちろん本会議の各国のStatement (声明文) は後ほどすべてonlineで確認できますし、また本会議と同時並行でNGO主催のサイドイベントが行われているため、その場に居なければならぬ必要性は少ないです。しかしながら本日はウクライナ、オーストリア、ノルウェーと、国際情勢やNPT再検討会議における重要な国々の発言があるため、私にとっては意外な静けさとして目に映りました。

●ウクライナ情勢とNPTの意外な関係性

ウクライナといえば、クリミア半島を巡り、欧米とロシアとの緊張関係が続いているのは周知の通りです。最近ではこの春にロシアのプーチン大統領が「当時、核兵器を使用する用意はあった」と発言するという衝撃が走りました。私の正直、当時その発言が現実のこととは感じられませんでした。本当に？核の脅威ってそんなに差し迫っていたものだったのか、と。

○クリミア併合時に「核の用意も」 プーチン大統領 2015.03.17

<http://www.cnn.co.jp/world/35061854.html>

そのウクライナが最初に登壇しました。予想に反せず、冒頭からウクライナ内にあるクリミア自治共和国へのロシアの攻撃を止めるよう、国際社会のプレッシャーを増すことを要求しました。

緊急を要する安全保障上の問題には、通常国連の安全保障理事会（Security Council: SC）にて話し合われますが、国連の他の会議の一般演説を通して国際社会への支援要請や当事国の非難という姿勢を示すというのは珍しいことではありません。ちなみに昨年のNPT準備会議（2014 NPT PrepCom）では昨年参加したOGから、会議開始からウクライナ情勢に関してより多くの国がロシアを非難し全体的に会議が紛糾し、会議の本来の趣旨である核問題の議論が進んでいるようには見られなかったと聞きました。

新しい発見だったのは、ウクライナ情勢が「核」問題と非常に関わりが深いという点です。

旧ソ連時代、ウクライナ・カザフスタン・ベラルーシの3国はソ連の領土だったため、ソ連軍の核ミサイルが配備されていました。しかし1990年に旧ソ連が崩壊すると、核ミサイルはそのまま放置されました。

そのままでは核の管理ができないため、国際社会は3国のNPTへの加盟を要請。一方小国の3国は自国の安全保障のために核の保持をするという選択肢も考慮したはずですが、しかし結果的に3国とも核兵器はロシアへ返送するという形で放棄し、非核国として1994年にNPTに加盟しました。

そのときにウクライナとロシアの間に結ばれたのが「ブダペスト覚書Budapest Memorandum」です。ロシアがウクライナの安全を保障することを条件に、ウクライナは核ミサイルを放棄しました。ウクライナの主権を尊重し、非核後の安全保障を担保するというものです。（ただ、ウクライナは解体後の核兵器の核物質であるプルトニウムは平和利用のためということと所有権を主張し、同覚書でも触れられています。）

しかしながら、現在ロシアはクリミア半島を占拠し、国が分断されています。ロシアはクリミア半島は併合済みで「自国の問題」であり、国際社会の非難は内政干渉であるとして取り合おうとしません。

この問題の解決の糸口を国家間の約束事である国際法に求める際、核問題が深く関与するブダペスト覚書という法的な根拠の存在があることを知り、核問題が外交に置いて深く関与していることを改めて感じた出来事でした。

●9.11と福島をつなぐもの ～マウントサイナイ大学病院訪問～

今回の渡航に際し、私の個人的な願いとして、2011年の大震災の時に東北へ支援に入られた方々とお会いしてみたいというのがありました。それは以前講演会等で、NYにいらした医師が震災直後に緊急支援のため福島を含めた東北地方にいち早く入られたというお話を聞いたことがあったからです。

マウントサイナイ大学病院へユースメンバーが訪問するのは、実は初めてではありません。去年の2期生は、マウントサイナイ大学病院が原爆によって顔などに障害を負った被爆乙女の整形手術を行った受け入れ先であるという観点から訪問していました。詳しくは、2期生でありOGとして今回3期生としても参加している西田千紗さんの去年のブログを参照ください（*1）

今年も訪問を快く受け入れてくださったのはロバート柳澤先生でした。ロバート先生はマウントサイナイ大学病院にて内分泌内科を専門として診療を行う傍ら、福島県立医大と協力して東北大震災の被災者の精神的サポートや医大生の研修受け入れを行っていらっしゃいます。特に被災者サポートについては、マウントサイナイ病院の9.11の被害者家族や生存者の精神的サポートプログラムでの実績とノウハウを応用されているとのこと。詳しくは最下段の論文に記載されておりますのでご覧ください（*2）

訪問前に疑問に思っていたのは、9.11と3.11の精神的サポートにおける関連性でした。大きな出来事後の精神的ダメージ面（心的外傷後ストレス障害：PTSD）は共通しているだろうことが想像できたのですが、テロと自然災害という原因面も、価値観や言語といった文化面も違う2つの場所に適用できる要素は何なのだろうかという疑問を持っていました。

その疑問を率直にロバート先生にお尋ねしてみました。すると、9.11の被害者は3.11の被災者の10年先をいく「先輩」として経験を共有することで生まれるものがあるのだということをお教えくださいました。

2001年に起きた9.11と、その10年後の2011年に起きた3.11。壮絶な経験をしたことは同じであり、9.11で大切な方を亡くされたご家族や生存者は、自分の過去を振り返りながら東北の被災者がおかれている時期に自らが経験したことを被災者の方々と共有することで、彼らの道しるべになっているのだと。また9.11の方々がご自身の経験をお話すると、普段は自分から進んで離さない被災者の方が話し始めるということもあるのだと教えてくださいました。

自ら言葉に表せないような辛い経験をしながら、人生の先輩として、ほかの人の痛みに共感をもって寄り添い、未来を照らす。

人との繋がりの方強さを感じた瞬間でした。

また今回は医学科生として訪問させていただき、同じ医学科生である西田千紗さん、1期生であり現在初期研修中の江島健一さんと私の3名で診療にも同席させていただきました。

急な訪問依頼にも関わらず快諾してくださったロバート柳澤先生や当日お会いさせていただきました先生やスタッフのみなさまに心から感謝いたします。

* 1：2期生西田さんのマウントサイナイ病院訪問記

<https://www.facebook.com/nagasakiyouth/posts/492981417470316>

* 2：（論文）サダコのおり鶴が繋げる9.11ニューヨーク同時多発テロから3.11東日本大震災への支援 New Yorkと東北の被災経験,お互いに学び,歩むこと



Statement by
Ukraine

Mayors for Peace Assembly 平和首長会議にて、田上長崎市長がスピーチ。日本のメディアが殺到していました。



マウントサイナイ病院にて。精神的ケアについてもっとお尋ねしたかったのですが叶わず... 次にまた訪れたいです。

Go back to top

No.3 Tuesday, 28 April

- 日本政府の政策に対し、被爆者・サーロー節子さんから発せられたパワフルな言葉
- 新しい動き？ : NAC (新アジェンダ連合) による作業文書(Working Paper 9)

AM: Gov't briefing (NAC)、本会議傍聴、NGO side event (核兵器と飢餓 by IPPNW)

PM:本会議傍聴

すっかりUpdateが遅れてしまっていますすみません...日々の活動はvividに心と手元のノートに刻まれており、これから遅ればせながら投稿していきます。

まずは、本号よりも前日（会議初日）のことになりますが、被爆者・サーロー節子さんの日本政府に向けたパワフルな発言を共有させていただきます。

●日本政府の政策に対し、被爆者・サーロー節子さんから発せられたパワフルな言葉

今年は被爆70年。日本から被爆者の方々もNYに多くいらっしゃっています。しかし平均年齢が79歳を超え、皆さん活動できるのは「今年が最後」と口々におっしゃっています。そんな中、月曜の初日の会議後に国連の1階ロビーにて、被爆者や2世3世によるレセプションが行われました。

その最後に広島の被爆者であり現在カナダ在住のサーロー節子さんがスピーチをされました。

彼女の目前には、アンジェラ・ケイン国連軍縮問題高等代表や各国代表者の一部、広島市・長崎市両市長とともに、日本の佐野利男軍縮大使など、この課題の主要人物が同席していらっしゃいました。

節子さんの言葉で、それまで和やかな雰囲気だった場がガラリと変わりました。

それは節子さんご自身の被爆体験や核兵器廃絶の平和活動をもとに、日本政府の核軍縮に対する煮え切れない態度を辛辣に批判するものでした。唯一の被爆国として核廃絶に向けたリーダーシップをとるべきなのに、核の傘下にいる政策のためそれを行っていない日本政府に対する意見です。

自分の故郷である日本の政府の政策に対する痛烈な批判です。しかも政府の当事者が目前にいます。私は鳥肌が立ちました。私の頭の中もその衝撃で揺さぶられました。

節子さんは核兵器の恐ろしさを述べるにとどまらず、日本政府は核廃絶に向けた明確な戦略がなく、70年間被爆者が命の限りを尽くして訴えてきた完全なる核廃絶の声を無視する「裏切り（"betrayal"）」であるとおっしゃいました。

節子さんは、被爆というご自身のいう特別な運命（"exceptional fate"）を強要され、若いころから平和活動家として日本や海外の同志とともにその人生の時間とエネルギーを核廃絶に費やしてこられました。政府に対して発言をされるのは、初めてではないはずです。

しかしそれを直接その場で聞いていた私の心には、言葉では表しきれない強い印象が残りました。

加えて、批判を面と向かって政府に（レセプションなので公式な外交の場ではないにせよ）オープンな場で言う、しかも日本国外でというのは、少なくとも私にとっては衝撃的な出来事でした。通常であればこのようなオープンな場での発言は、政府のメンツを潰し態度を硬化させるという逆効果にもなりかねない可能性もあります。しかし被爆者として節子さんが背負った運命とこれまでの活動、その他の大勢の被爆者の核廃絶への強い想い、そして使命感を目前にし、その力強さを感じたとともに私はどうこれを表現し理解していいものかここ数日頭の中を駆け巡っていました。

また果たして、日本において日本政府に対してものを申す存在はいるのか... 反対意見が面と向かって言える健康な社会と現実のギャップ、自分自身とのギャップを感じた一瞬でもありました。

●新しい動き？：NAC（新アジェンダ連合）による作業文書(Working Paper 9)

朝9時から、NGO主催によるGovernment briefing（政府による非公式ミーティング）に参加しました。ここでの発言はオフレコのため詳しくは紹介できないのですが、毎日1つの政府あるいは政府間グループが招かれ、NGO代表者のみならずその場にいる誰もが質問できます。

会議初日の歩み寄りや新しい動きのなさによる少々重い空気の中、NAC（新アジェンダ連合）を代表してニュージーランド大使が招かれました。

すると、NACは作業文書を提出し、3本柱の一つである核軍縮において定められている「効果的な措置」をどのようにするのか提案を行ったとの発言がありました。会場には少しばかり前向きな雰囲気広がったように感じました。私自身も、各国の一般演説を聞く限り動きが感じられなかったのですが、やはり会議の裏では物事が動いているのだと、当然のことですが、改めて感じた瞬間でした。これが現場で会議に参加している醍醐味であると、ワクワクした瞬間です。

詳しくは、我らがRECNA中村桂子先生がこちらにて発信されています。ぜひご覧ください。

☆RECNA NPTブログ 短信1：新アジェンダ連合（NAC）提案はブレークスルーを生むか？ <https://npt2015recna.wordpress.com/.../%e7%9f%ad%e4%bf%a11%e.../>

★補足

○日本の立場

あまりこの問題になじみのない方に少し背景をご説明すると、日本政府は唯一の被爆国ですが、同時に米国の核の傘下（"Nuclear umbrella"）にあり「核抑止論」に依って立っています。

「核抑止論」とは、核兵器の保有が、結果的に相手に攻撃することを思いとどませ、平和の維持に役立つという考え方です。「核兵器の存在が、平和の存続に有益である」一言でいうとそういう主張です。

日本の場合、北朝鮮や中国など北東アジアが困難な状況であり、日本が自国の安全保障を確保する手段として核抑止、つまり核の力に頼る政策を取っているという背景があります。

唯一の被爆国としての経験から（その程度に差はあるものの）被爆者を含む国民が核廃絶を望みながら、米国の核の傘下にいるという現実。これが日本の抱える矛盾です。

○批判点、

具体的には、節子さんは力強い声で下記に触れられました。

- ・昨年末にウィーンで開かれた「核兵器の人的影響に関する国際会議」における日本の佐野軍縮大使による発言は、「見当違い (“irrelevant”）」である

- ・昨年の長崎大学での岸田外務大臣の発言は、「誤解を招きかねない (“confusing”）」

- ・核廃絶に向けた法的枠組みの強化を求めるオーストリアの誓約に、日本政府が賛同しなかった

よって、日本政府はこれまで70年間被爆者が訴え行動を起こしてきたことを傷つけ (“undermine”）、裏切り (“betrayal”）である、と。

以上の点は、核軍縮に詳しい人にとっては馴染みのある点ですが、被爆地以外の日本では大きく取り上げられていないのが事実です。

これらの点は、今回の焦点の一つである核兵器の「非人道性 (“Humanitarian consequence”）」にも強く関連しています。詳しくはまたの機会に。



サーロー節子さんが登壇。最前列に松井広島市長(左から5人目)、アンジェラケイン国連軍縮担当上級代表(右から3人目)、佐野軍縮大使(右から2人目)。長崎の被爆者・谷口稜暉氏も(左から3人目)。



Gov't briefing with NAC。代表してニュージーランド大使(右の女性)が発言中。

[Go back to top](#)

No.2 Monday, 27 April

●NPTって何？

●初の会議傍聴

AM: 国連にて会議傍聴

PM: 国連にて会議傍聴、広島長崎平和アピール集会

夕: 被曝者らによるレセプションイベント@国連

NPT再検討会議2015が昨日いよいよ開幕しました。

今週一週間は、一般演説(General Debate)といって各国が順番に自国の主張を演説します。この日は日本、米露中など主要国に加えIAEA(国際原子力機関)らの演説がありました。

今回は初の会議傍聴の感想を共有します。

その前に、、、

●NPTって何？ (すでにご存じの方は飛ばしてくださいね)

NPTが一体どんな条約なのか、大多数の方はご存じないと思います。ということで簡単にご紹介させていただきます。

NPT(核兵器不拡散条約)は、核兵器を廃絶することを目的に1970年に発効された条約です。下記の「3本柱」で成立しています。

1) 核軍縮 (Disarmament/Abolition/Elimination) : 核兵器をゼロにする (核廃絶)。”垂直拡散” (Vertical proliferation) の防止とも。

2) 核不拡散 (Non Proliferation) : 定められた核保有国以外、核を保有させない。”水平拡散” (Horizontal proliferation) の防止とも。

3) 原子力の平和的利用 (Peaceful use of Nuclear energy)

これが不平等条約といわれる所以は、この条約の大前提として、核兵器を「持てる国」(核保有国)と「持たざる国」(非核保有国)という隔たりがあるためです。1967年時点で核を保有していた米露英仏中は「核保有国」として認められ、それ以外の「持たざる」国は核兵器保有国になることを禁じられています。もちろん、核保有国は「誠実に核軍縮交渉を行う義務」を持ち、自国における核廃絶の責任があります。一方で、「持たざる国」は原子力の平和的利用を「奪い得ない権利」として認められており、条約に加盟して一定の責務を果たせばIAEA等を通じてその支援が受けられる仕組みです。発展途上国にとって、あるいは安全保障上エネルギー確保を原子力なしでは他国に依存せざるを得ない国にとっては重要な権利となっています。

●初の会議傍聴

5年に1度の本会議よろしく、傍聴席は特に日本からのメディアを含めたくさんの人で埋まっていました。ただ会議場は一見すると人がまばらで、自国の演説時間になっても現れず順番を飛ばされる国もいくつか見られました。国際会議ということでどこか異常な緊張感を予想していましたが、私たちが思っているほどの緊迫感は少なくとも傍聴席からは感じられませんでした。

以下は私が感じるものがあつた日米演説のハイライトです。

○米国

現在1万6千以上の核弾頭がこの地球上に存在していますが、その大半を所有するのが米国とロシア。

その米国は終始一貫して、「三本柱」の2) 核不拡散は、持たざる国々にとって交渉の余地のない ("non-negotiable") 責務であるとその演説の大半を使って説明していました。2003年に一方的にNPTを脱退し核開発を続けていると見られる北朝鮮や、加盟国ではあるものの同様なイランの更なる規制の受け入れなどです。

また自国の1) 核軍縮については、安全保障上最低限の核配備しかしておらず、真剣に熱心に取り組んでいる ("serious and committed") ものの、国際社会における懐疑的な見方 ("skeptical from int'l society") が邪魔をしていると述べていました。

これは一見すると論理的で、かつJohn Kelly国務長官の自らの海軍における経験を交えながらの演説により、聞き手としてぐぐっとひきつけられるものがありました。が、中身は自国の核軍縮が進まない理由を国際社会や人類は争う生き物であるという"本質"のせいであると責任転嫁し、「持たざる国」の不拡散が先であるといった自己中心的な論点のすり替えであると私の眼には映りました。(いつものことかもしれませんが...)

もちろん軍縮も不拡散もどちらも等しく重要なのですが、等しく重要であるからこそ、自国が責任を持つ自国の核軍縮について行動で示してほしいとの願いは届くのでしょうか。

○日本

とはいえど日本政府も、唯一の被爆国として核軍縮に向け行動で十分には示せていないのが現状です。

外交は大きく「自国の安全保障」と「人道性」を確保することが重要ですが、その安全保障を日米安全保障条約に代表される日米同盟関係に依存し、「核の傘」(自国は保有しないが、同盟関係にある他国の核兵器の存在によってその他の国からの攻撃が「抑止」されているという思想・体制)の下にいる国です。

そのため、米国の顔をうかがいながら行動し、被爆国として核軍縮のリーダーシップを取れていないのが現状です。

今回は広島県出身の岸田外務大臣が日本の外相としては10年ぶりに登壇しました。広島長崎の惨劇と核のない世界を訴えている点は被爆国としての当然の声ですが、そのプレゼンスを十分に発揮し、核廃絶に向けて自らリーダーシップをとるに至る発言は聞くことができませんでした。

国内ニュースでは特に可もなく不可もない報道がされているように見受けられますが、被爆者や非核兵器国など核廃絶を強く願う人々からは落胆の声が多く聞こえます。

夕方のレセプションは、被爆者・サーロー節子さんから日本政府に向けた、非常に強く憂いに満ちたメッセージが発せられました。ここ数年で盛り上がりを見せている核兵器の「非人道性」に関わる論点です。

こちらはまた次号でじっくりお伝えさせていただきます。

それではこれから3日目の会議に行ってきます(´▽`)ノ



[Go back to top](#)

No.1 Sunday, 26 April

NPT会議前夜の日曜日、Peace Rally & Festival（デモ行進&お祭り）にみんなで参加してきました。

春風そよぐ晴天の中、NYの街を世界中から来たNPTにまつわる人たちとともに大行進。

実は参加前は、「デモ」なんて聞くと、怒りも入ってきてちょっと恐ろしいかも...と感じていたのですが、参加して思ったのは「楽しいかも~」という感覚でした。

人々が趣向を凝らした格好や、楽器を弾いたり踊りながら参加しているのがありますが、何よりそこで出会う人々との「一期一会」がとても楽しかったです。

笑顔がステキな熊本の看護師や、そうとは知らず通りがかってデモに加わってくれたNYの高校の先生、陽気なインド人の活動家etc...

こういう「楽しさ」が、個々人の活動を支え盛り上げる大きなエネルギー源の一つなんだなあ実感。やっぱり何事も楽しくなくちゃね。

顔合せの食事の後は、帰宅後は明日の初プレゼンを控えたメンバーの最後の追い込みをサポート。

彼らの晴れ舞台での活躍を楽しみにしています♪



みんなでNYの街を闊歩中。



メンバーと中国新聞のJrライター(高校生！)とのご飯会。

Go back to top

No.0 Friday, 24 April

乗り換え先のChicagoからこんにちは。

初めまして、長崎大学医学部3年の荒倉由佳です。

日本時間は早朝ですが、こちらは私たちの高まる緊張感を表したかのような、すこし肌寒い夕刻を迎えています。

初参加となるユース代表団の現地活動を目前に控え、私の今までとこれからの想いを共有させていただきます。

是非皆さんも、私達の旅路にご一緒してみませんか？

少し長くなりますが、お付き合いいただけるととても嬉しいです。

- 「君は一体NYに何をしに行くのか？」

出発前にたくさんの人から問いかけられた質問です。

その文脈は多様で、ある人は国連に行くらしいね、頑張っってね、と応援の声をかけてくれる人もいれば、

「核兵器廃絶なんて本当に実現できるの?!」と率直に質問を投げかけてくれる人もいました。

特に、私が以前別の大学で国際関係学を専攻し社会人を経て現在医学部で学んでいることを知る場合、なぜ「また」国際的なことを、よりもよって「医学とは一見関係のないこと」をしに行くのかと疑問に思っている人は少なくないと感じました。

ごもっともな疑問だと思います。私自身も応募前から意識している点です。

私の想いをここでお伝えさせてください。

一つは、一人の長崎県民として、長崎が原爆投下から背負っている宿命というべき核廃絶のテーマに私も共に向き合いたいという想いです。

昨年春に初めて長崎に移り住んで以来、街角やメディアなどで目にするNo More Nagasakisの声の大きさによって自分の街で起こる身近なこととして捉え始めました。

同じ長崎の地に住む被爆者ならびに2世3世の方々や、縁のある平和活動家の胸をお借りして、長崎というレンズを通して世界を見た時に自分がどう関わることができるのかを見出したいということがあります。

もう一つは、HPの自己紹介*でも述べたように、「正しいことを正しい、間違いを間違い」というのは大事なことではあるけれども、それだけでは人は動かないのではないかという疑問を解く鍵を見出したいという想いです。

以前の大学では学問という土台の上でべき論を友人とたたかわせ、社会人時代にはべき論を説くだけでは人は思うようには動いてくれないことを痛感した今、感じるがあります。

それは殊に国家の安全保障という重大で複雑な事柄は、もちろんべき論も大きなドライバーの一つではありますが、ある者にとっての正義と別の者にとっての正義がぶつかり合う中で一つの方向に物事を動かしていくことは、それだけでは容易なことではないという点です。

また、一人で出来ることは限られています。

自分の所属するコミュニティにおいて、如何に人を巻き込み変革へのmovementを起こしていくか。その鍵を見つけたいという気持ちがあります。

そして最後は、ユースやRECNAサポーターと共に私たちの考えや提案を世界に問うてみたいという想いです。

扉をノックしてみれば、明日見える景色は違って見えるかもしれない、と思うのです。

私たちは5月7日(木)午後に国連内の会場にてNGOとしてセッションを主催します。

”Society and Governments’ Attitude Toward the Nuclear Weapons: A Proposal From the Youth of Nagasaki”と題し、以下3つの発表を行います。

1) 「平和教育」の在り方：ユース主催の学内アンケートを元に現在の平和教育を問い直すと共に、学生による新しい平和教育の実践を紹介。

2) 若者の核問題や平和活動への「意識」：関心が薄い長崎の若者層の実態や、国内外で活躍する若手の平和活動家達のプレゼンから、大勢の若者の関心を喚起する上で重要な要素を分析。

3) 日本政府への提案：日本政府が今置かれた立場を整理し、核軍縮におけるリーダーシップを発揮するための一步を若者として提案。

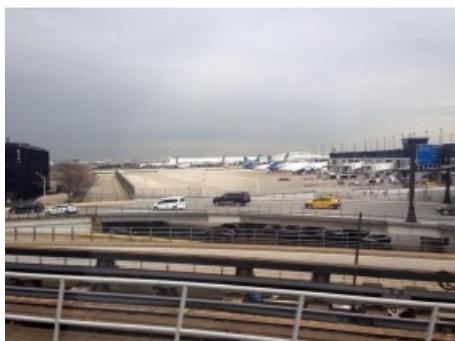
今回のユースの特長の一つは、本会議のVisitorあるいは国連へのMessengerとしてだけでなく、自分達の分析や提案をPresentする点だと思います。

私自身は2)のテーマを探りつつ、全体の黒子として、メンバーひとりひとりの考えや提案を伝わりやすく、時に既にメンバーの脳内にあるよい考えを引き出すことを試みつつ、一緒に一生懸命準備しているところです。

これから2週間、今目の前で動いている国際情勢の渦の真ただ中に飛び込んでみようと思います。

たくさんの素敵な出会いに恵まれますように。

*HPのメンバー自己紹介：https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/member_third



[Go back to top](#)

[このページのトップへ](#)

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015/soichiro-blog-2015

Soichiro's Blog 【NPT Blog】

No.11 Fri-Monday, 8-11 May

FINAL REPORT!!!

更新が遅れて申し訳ありません。

5月8日から11日まで何をしていたかまとめました！！

NGO room の発表も無事におわり、本当にホッとしている状況です。大きな失敗もなく無事に全てのプロジェクトを終えることができ、本当によかったと思っています。長崎大学内でアンケートやインタビューなどの調査に協力してくださった方々、ありがとうございました。平和教育の発表を終えて、ニュージーランドの政府関係者の方や他のNGO団体の方々などに興味を持っていただいて、平和教育のあり方に関してじっくり話すことができました。

このプロジェクトの企画が始まって以来、ゆかさんには本当に「おんぶに抱っこ」でいろいろなところで助けてもらいました。エクセルの使い方からパワポのチェックまで、本当にありがとうございました。感謝しています。

被爆者なき世界はもう目の前にあります。被爆者の方々のこれまでの、核廃絶への活動やその思いというのは絶対に無駄にははいけません。私たちが継承していかないとはいけません。その責任も私たちにあります。今回の発表では、被爆者なき世界を見据えた提言をしました。私たちの提言を、一部でもいいので自国に持ち帰り他のNGOのメンバーであったり、政府関係者と共有していただけたら幸いです。

今回、ナガサキユース代表团として2015年NPT再検討会議に参加して学んだものは山程あります。毎日が勉強で、なかなかその復習に追いつけないほどでした。しかしこのブログを書くことで、頭の中を整理し次の日また新しいことを吸収することができていたのだと思います。これから、核兵器の問題や平和について、どのような形で携わっていくかわかりませんが、今回のニューヨークで学んだことは絶対に無駄にはならないはずで、無駄にははいけません。また、この学んだことは自分だけのものとしてとどめておくのではなく、積極的に発信していきたいと考えています。

6月1日に報告会がありますが、来てくださる人にはニューヨークで学んだことを全て還元したいと思います！！

「今回のユースとしての活動で満足してはいけません。これが始まりです。」



[Go back to top](#)

No.10 Thursday, 7 May

今日、僕たちの集大成でもあるNGOroomのプロジェクトがありました。ナガサキ・ユース代表団に選出されてから、数十回のミーティングを重ねてきて、アンケート調査やインタビュー、またその集計に相当な時間をかけてきました。相当時間をかけてきた分、このプロジェクトに対する成功させたいという思いも相当ありました。結果的には大成功だと思います！！

僕は、このプロジェクトでは”Peace Educaton ~Is Peace Education regarding only the A-Bomb?~”という題名で「日本（長崎）の平和教育」について発表しました。発表の内容は日本の平和教育の現状と、それに対する提言です。現在日本では平和教育を行っており、日本の若者もその平和教育には満足しています。しかし、核兵器廃絶の可能性はどのくらいあると思うか聞いたところ、長崎県で小学校、中学校の教育過程を受けた人の75%が核兵器は廃絶されないと答えています。

被爆者の方々は、「核兵器は廃絶されるだろう、廃絶されてほしい」と信じて、このニューヨークの地にも来ている。

若者と被爆者の意識にこのような差があったままで良いのだろうか。

また、現在の核兵器保有国と核弾頭の数も聞いたところ、平和教育を重点的に行っている長崎県と、他の県を比較すると、結果がまったくと言っていいほど同じで、ほとんどの人が答えることができていなかった。

未来のこと（核兵器のない世界）をどのように実現できるか考えるためには、現在の知識は必要不可欠である。現在の状況を知ってこそ、未来のことは考えることができる。どうにかして、この現状を変えなければならないと思う。そうしないと、被爆者の方々の思いというものを無駄にすることになると思うし、自分たちの未来のためにも変えなければならない。

発表のあと、ニュージーランド政府代表団の方と話をしました。ニュージーランドにはPeace Foundationという団体がある。この団体は政府からの補助金を一切受けておらず、政治的な中立性を重んじており、学校や過程などの小さいコミュニティーから平和的な関係を築き上げることを目的としている。

基本理念はこのようになっている。

- 1) 平和教育とそのための教育者を支えるために、教育システムと地域の統合をはかる。
- 2) メディアがバランスのとれた報道をすることを推進する。
- 3) 情報やデータを提供し、政策決定、平和教育、外務政策へ影響を与える。
- 4) 平和の諸問題について意見交換、情報交換

まとまりのない文章になってしまいましたが、今度ぜひ一緒に食事でもと言っていたので、詳しい話も聞きたいので行ってみたいと思います！！

とりあえず今日は無事に終わることができて、安心しています。

みなさんお疲れ様でした！！！！



[Go back to top](#)

No.9 Wednesday, 6 May

今日、日本は世界76カ国を代表して、核不拡散・核軍縮教育などについての共同声明を発表した。日本はこれまで平和教育を行ってきたが、主に戦時中や原爆投下時の教育しかしてきていない。これは、同じナガサキユースのメンバーである川野早杜さんと僕で長崎大学生を対象にしたアンケート調査やインタビューで明らかになっている。終戦、原爆投下から今年で70年が経とうとしており、被爆者の方の年齢は平均して79歳で今年がNPT再検討会議に参加するのも最後だろうとおっしゃっていた。人は生まれてから死ぬ時も絶対に来るわけで、被爆者の方もいつかは亡くなる時がくる。これも、被爆者の方自身がおっしゃっていたことである。被爆者の方は、口を揃えて核兵器はなくなるべきであると言っている。これが僕たちの若者に託している思いである。

核兵器を廃絶するためには、様々な切り口からアプローチできると思うが、僕は平和教育に大きな役割を担っていると思う。過去のことを学ぶ平和教育、現在のことを学ぶ平和教育、未来のことを考える平和教育。具体的には、過去のことを学ぶ平和教育では原爆の被害や恐ろしさを学び、現在のことを学ぶ平和教育では核兵器に関わる国際情勢や、実際の核兵器保有国、核弾頭の数イメージすることで核兵器の脅威を認識する。そして、未来のことを考える平和教育では、どのようにしたら核兵器のない世界へ近づくのかを、一人一人が自分たちの問題として考える。このようにして段階的で、違う視点から平和教育を行うことで、現在の若者の平和に対する意識も変わると思うし、被爆者の願う核兵器のない世界へ近づくこと、僕は考えている。僕たちにはしっかりと被爆者の思いを継承し、実現していく義務がある。



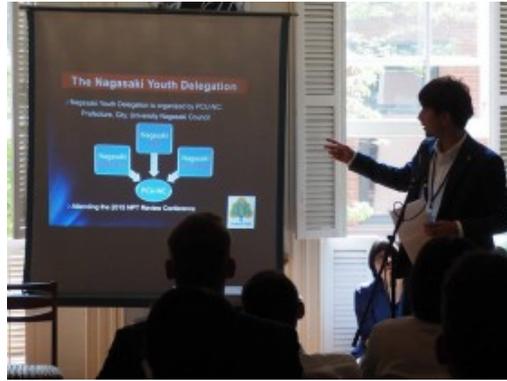
[Go back to top](#)

No.8 Tuesday, 5 May

今日のメインはドイツの二つの大学からきた学生たちと交流会です。僕は冒頭のナガサキ・ユース代表団の紹介の発表をしました。ヒロシマ・ナガサキアピール集会、平和首長会議に続き、ニューヨークでは3回目の発表だったので、緊張もすることなく発表することができました！人前で発表することは、もともと嫌いでもなく好きでもなかったのですが、数を重ねていくうちにだんだん楽しくなってきました！これも、ナガサキユースになれたから、このように感じるようになるようになったのだと思います。

さて、ドイツでは現在数個の原子力発電所が稼働していますが、数十年後には全ての原子力発電所の稼働を停止し、再生可能なエネルギーへ移行していきます。これに対して、日本は先日原子力発電所の再稼働を宣言したばかりです。日本も、環境にも良い再生可能なエネルギーへもっと大幅に移行して行って欲しいものです。

また、ドイツの学生は「ドイツはエネルギーに関しては世界のROLL MODELである」と、何度も言っていました。本当に、ドイツの学生のみんなが口を揃えて言っていたので、本当にそうなのかもしれません。世界の傾向に反して日本が原発を稼働させるなら、このように「原子力発電やその安全性に関しては世界のROLL MODELである」と言えるように、極限まで安全性を高めていかなければならないと、僕は思いました。日本には「私たちは世界のROLL MODELである」といえる、安全性を築き上げてほしいです。



[Go back to top](#)

No.7 Monday, 4 May

今日は1日本会議を傍聴していたり、NGOroomのプロジェクトに向けて準備。

そして、夕方からユース全体のミーティングがあった。これまでメキシコ、日本、オーストラリア、フィリピン、イランの政府関係者との会談があったのですが、国連内では全員が行動がバラバラなのであまり共有ができなかった。しかし、今回のミーティングで各国の政府関係者との会談の内容が共有でき、それぞれ、本会議では聞けないようなことを聞くことができたので、興味深い話が多く聞いたので非常に勉強になった。その中でもフィリピンの政府代表が話していたことが一番印象に残っています。

彼は、「核不拡散条約 (NPT) を進めるだけではいけない。核不拡散条約を大きな風船と例えると、その中にはインド・パキスタン問題などの諸問題があるから、たとえ核不拡散条約だけを見直しても、それは結果的にはあらゆる問題の解決策にはつながらない」と話していた。これは妥当なことかもしれないけど、考え方としては本当に重要な

ことだと思う。大きいことから解決しようとしても、その問題の中には小さい問題が必ずあり、大きな問題は小さい問題と関連し、小さな問題から発展していることがほとんどである。だから、どんなに核兵器を廃絶するという大きな問題を解決したとしても、世界の平和のことを考えると、より小さな問題を解決しなければ意味がないと思う。もしかしたらその小さな風船を一つずつ割っていくことで、あるいは小さくしていくことで、大きな風船も小さくなるのかもしれない。核兵器だけに焦点を当てて今まで、このNPT再検討会議にむけて勉強してきたが、小さな風船に焦点を当てて学んでいくのも良いのかもしれない。また、もしかしたらそこに核兵器廃絶に近づく、世界がより平和に近づく手がかりがあるのかもしれない。



[Go back to top](#)

No.6 Friday, 1 May

今日は普段入ることのできない、外交官の人たちが聞くところで会議を傍聴した。NGOからの意見を言う場があり、その中で韓国人の弁護士の発言が興味深かった。彼は韓国人の被爆者を代表して、日本の医療費の引き上げやアメリカに対し賠償を求めている。被爆者は被爆者でも、国が違ふとこんなにも立場が違ふのだなということの間近で見ることができ、新鮮さもあつた。しかし、日本の被爆者は核兵器のない世界への未来へ目を向け、我々の若い世代に対してどうにかしてその悲惨さや惨さを継承し、核兵器のない世界へ前進しているように思えるが、韓国の被爆者は「自分のために」「自分たちのために」補償や賠償金、謝罪などを求めている。これはしょうがないことだと言えるかもしれないが、被爆者の間でこのように目指す方向が違つてはいけなひと感じた。

日本の被爆者と韓国の被爆者の意見が正反対となっている。どちらがあっている、どちらかが間違っているというわけではないが、このままでは若者には思いは伝わらないと思う。

医療費問題や韓国の被爆者のことについてもう少し勉強し、彼らの言っていることがもう少し理解できるようになれば、僕自身の考え方も変わってくるのかもしれない。



[Go back to top](#)

No.5 Thursday, 30 April

今日の一大イベントは平和首長会議。平和首長会議とは世界160カ国・地域、世界6,649都市が加盟している組織で、市民の核兵器廃絶への意識を喚起するとともに、世界の恒久平和の実現に向けて活動している組織だ。沖縄、広島、福島の高校生も参加しており、それぞれの土地でそれぞれの視点から、核兵器廃絶という大きな目標に向かって活動している。

平和首長会議のそれぞれの発表の後、「平和教育の重要性」が取り上げられた。平和教育は重要だということはすでに分かりきっていることで、「どのような平和教育をするのか」が重要だと思う。例えば、小学校では過去のこと、中学校では現在のこと、高校の時には未来のこと（核兵器のない世界を実現するためにはどのようにすれば良いのか）を考える機会を設け、現在ではあまり行われていない未来を考える平和教育をするべきだと思う。

「私たちには平和に生きる権利があるのです！！」

夕方から夜にかけては地球市民集会に参加。チサちゃんやトモエさんの発表は本当に鳥肌がたつほど素晴らしかった。感動しました！お疲れ様！



[Go back to top](#)

No.4 Wednesday, 29 April

宗教の影響力はやはり、計り知れない。イランなどの中東の国では、もちろん法律はあるが法律より優先されるのが宗教である。法律の上に宗教があり、法律は宗教に基づいているといっても過言ではない。宗教は影響力はあるが、全国民には通用しない。一方、法律は宗教が違うといえど全員に適用する。では、どのようにしたら全員をある目標に向かった動きに巻き込むことができるのか。

今日は、宗教は本当に大きな力を持っているということを再確認できた気がする。また新しい視点で、核兵器廃絶ということを考えることができるようになった気がする。

We have the duty to fight against nuclear weapon.

写真は27日に行われたヒロシマ・ナガサキアピール集会の時のものです！ヴァージニア・ガンバ国連軍縮担当次席上級代表は、本当に気さくで優しい方でした！！



[Go back to top](#)

No. 3 Tuesday, 28 April

今日は初めて本会議を傍聴しました。

まだ1日しか傍聴していませんが、各国の政府代表によるstatementはどれも似たり寄ったりなのかな、という印象を受けています。一方、以前よりも”humanitarian impact”という言葉が頻繁に聞くようになり、核兵器の非人道性の動きが浸透してきているような印

象もうけました。これから果たして進展が見られるのか、不安が残ります。。。

午後からは、核兵器のもたらす環境問題に関するサイドイベントに参加してきました。普段、核兵器廃絶のことしか考えてなく、そのもたらす環境問題などはあまり考えたことがなかったので内容はとても新鮮でした。今までとは、全く違う視点から核兵器の脅威を学ぶことができ、核兵器のもたらす影響はいくつもあることを再度気づかされました。

明日も本会議を傍聴することがメインに成ると思うので、今日聞いたことはしっかりと整理して、しっかりと寝たいと思います。(笑)

Go back to top

No.2 Monday, 27 April

ニューヨーク滞在4日目に入りました！

時差ぼけもある程度なくなってきて、昼間眠くなることはなくなってきましたが、とにかく今日のためにニューヨークに着いてから夜な夜な準備していたので、その眠気というか、だるさが一気にのしかかってきています、、、

今日の一大イベントは、ヒロシマ・ナガサキアピール集会です!!!長崎にいる時からこの日のために発表の原稿を作ったり、資料を作ったりと準備をしてきました。国連の向かい側のホテルの会議場であったのですが、会場の中に入り来られる方々の名簿を見ると、バージニア・ガンバ国連軍縮担当次席上級代表、岸田外務大臣、広島や長崎の被爆者の方々など様々な方が来るということで、少し緊張してしまいました。ナガサキ・ユースからは僕ともう一人発表する予定で、それ以外のメンバーは国連内で岸田外務大臣による非核特使の紹介のため、この会場をあとにしなければならなかったのですが、なんと、メンバーの3人も残ってくれていました!本当に彼らには感謝しています。あのような大きな場で発表するのは初めてだったので緊張するかと思っていたのですが、彼らのおかげで全く緊張することなく発表することができました!

発表が終わってから、バージニア・ガンバ国連軍縮担当次席上級代表と話す機会がありました。彼女は僕たちに「素敵な発表でした。もっとあなたたちの話が聞きたいから、今度私のオフィスに来て話しましょう」と言ってくださいました。感激です!!名刺も頂いたので、今度アポを取ってガンバ上級代表とお話をしたいと思っています。

次は、30日の平和首長会議で発表があります。今回と同じような発表になると思うので、今回の反省を生かし、あと2日ですがしっかりと準備をしたいとおもいます。



[Go back to top](#)

No.1 Sunday, 26 April

今日は朝から国連に入るパスを取得しに行きました。天気も昨日に引き続き晴れ！小さい頃に見た国連本部と今回見た国連本部は、見え方がなぜか違っていたような気がします。今回はこの中で発表をしたり、本会議を傍聴するというのもあって、子供の頃見た国連より身近に感じました。明日から本格的に会議が始まりますが、どのようなステイトメントが発表されるのか、メディアには出ることのないところでどのような話がなされているのか、いま、本当にワクワクしています！！

午後からは、Peace Rally というデモに参加してきました。ナガサキ・ユース代表団に入り本格的に核兵器について勉強するようになり、僕はこの分野に興味を持つことができました。しかし、長崎で活動しているだけでは世界の人々がどの程度核兵器廃絶に関心があるのかわからなかったのが、世界の動きというものが全くわからなかったというのが、本音です。でも、今回のデモに参加してフランス、スペイン、アメリカなどの様々な国の人たちが参加しており、核兵器廃絶に関して世界中の人々が関心があるということが実感できたような気がします。

僕たちのプロジェクトの一つであるPDP(Peace Dove Project)にも多くの方が参加してくださいました！！これは、ゴール地点である国連近くの広場にテントを借りて行ったのですが、本当に様々なNGOの方々や、通りすがりの方々が協力してくれました。協力してくださった方、ありがとうございます！しかし、参加してくださった方の中には国連に入れない人たちもいたようです。このプロジェクトに参加してくれた全ての人々の思いを、5月7日のNGO roomであるプロジェクトで世界各国の皆さんに伝えたいと思います。さらに、この”Peace Dove”を日本に持ち帰り、世界の人々の考える「平和への思い」を伝えたいと思います！！



[Go back to top](#)

No.0 Thursday, 24 April

ナガサキ・ユース代表団 3期の秀総一郎です。

現在成田空港でニューヨーク行きの飛行機を待っています。

ナガサキ・ユース代表団に選出されて、もう5ヶ月が経とうとしています。勉強会やプロジェクトのミーティングを数十回行ってきて、本当にあっという間に時間が過ぎて行きました。なので、「もっと時間が欲しい」というのが現在の心境です。

ニューヨークでは、ヒロシマ・ナガサキアピール集会や平和首長会議でナガサキユース代表団に関するプレゼン、国連内のNGO roomで平和教育の重要性に関するプレゼンをすることになりました。今までとは経験してきたものとは比較できないほどの規模でのプレゼンになるので、もちろん緊張や不安は確かにあります。でも、これまで相当な準備をしてきたので、失敗を恐れず世界の人に私たちの活動や、平和教育の重要性を訴えてきたいと思います。長崎でみなさんに書いていただいた「平和に対する思い」も、しっかりと世界の人々に伝えてきます！！

では、行ってきます！！！！

[Go back to top](#)

[このページのトップへ](#)

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015/ayumi-blog-2015

Ayumi's Blog 【Another time will be coming】

No.11 Friday, 8 May

El último día en las Naciones Unidas, estoy cansada y contenta de la mejor manera en mi vida

(The last day in UN I am exhausted and happy in the best way)

ついに、国連での最終日。昨日NGOルームの発表が終わり、どっとした疲労感に襲われる中、今朝メンバーの半分は帰路につきました。少しだけさみしい気がします。

今日はRECNAの先生方が長年研究されていた北東アジア非核兵器地帯へ向けた包括的アプローチへの提言についてのフォーラムがあり、残りのユースメンバーで資料配布などのお手伝いをしました。あいにくほかの重要な会議と時間が重なってしまい、人が少なかったのですが、中国の政府関係者が来てくださったことや、意見を国連で発表したということに大変意義があると思いました。このイニシアティブがじわりじわりと広がる少しのきっかけになったと信じています。

なんとなく、この二週間を振り返るととてつもなく充実していました。この二週間が私にとってどんな意味を持ったのか。

まず、NPTに対する悪い意味での裏切り。これはUNに来て生で見聞きしたからここまでリアリティをもって感じられたことだった。核問題に対する興味があってここまで勉強してきたからこそそのショックだったし、自分にとっての大きな気づきだった。そしてやはりNPTの中でも諦めずに声を上げ続ける国の存在や力強いメッセージで核なき世界へリードをしているNGOの存在。この会議での傍聴が失望に終わらなかったのはまさに彼らの熱意を間近に見ることができたから。そしてユースの活動を通してこの「壁」ジレンマにぶつかってほしかった、でもここで諦めたら本当に「ゼロ」、私たちが変えていけることがたくさんあるっていうけいこ先生の想い。授業でもレクナでもお世話になってきた先生、一核廃絶へのファシリとしての強い気持ちを見せてもらったことで、私たち学生と同じ立場に立って真剣に向き合ってくれていることが伝わって本当に嬉しかったし、たくさんの勇気もらった。核問題はもちろん、それに関連して勉強したいことが山のように増えた。

学部を越えたユースメンバーとの繋がり。こんなにもすてきな仲間ができて、感謝ばかり。毎日国連から帰っても核問題のこと、人生のこと、話が尽きなくて本当に刺激し合える人たちに囲まれて最高に幸せな二週間だったし、これからもその繋がりを大切にしたい。

最後に。こんな素晴らしい機会を与えてくれ、応援してくれた、長崎のみなさま、RECNAの先生方、その他すべての方々に感謝の気持ちを伝えたいです。そして、勇気を出して一歩踏み出した自分にも感謝です。本当にありがとうございました。

ここからがまた始まりだ—————！！！！

p.s. NYでのすべてを終えたので、明日はいよいよバック・トゥ・パナマです。二年ぶりに家族（パナマの家族）に会いに行きます。スペイン語非常に心配．．でもスパングリッシュ（English + Spanish）でなんとか乗り切りまーす。では、adios!!

そして最後の最後に、ここまでたくさんのお手を助けてくれたみんな大好きけいこ先生へ感謝の気持ちを込めて、ヒロシマのKokoさんの言葉を添えて。



[Go back to top](#)

No.10 Thursday, 7 May

記憶を遡る...

今日はPeace BoatとHibakudha Storiesによる企画での簡単なスピーチ、みんなが以前から時間をかけて準備してきたNGOroomの発表がありました。（NGOroomの方には直接関わっていないので、省略します。発表はコンテンツが充実していて、とても見応えのある素晴らしいものでした。ぜひ、報告会に来て、その内容を確認してください！）

Peace BoatとHibakudha Storiesの企画にてのスピーチは最初ナガサキユースの簡単な紹介にする予定だったのですが、思いの外ゲストスピーカーのパーソナルストーリーが多くなるとのことだったので、ユースの一メンバー歩海を感じることを発表しようということになりました。

なんとなく、話したいことと言われれば一番に思いついたことはやはりこの再検討会議に対するある種のショックのようなものでした。なので、私が感じたdepressionについて率直に原稿を書いてみました。内容は、簡単にすると、今まで自分が核問題に取り組んできて、でも実際世界から明日にでも核兵器がなくなるわけでもない自分に対する無力感のジレンマ、更にこの会議の傍聴に来て悪い意味で会議の静けさや政府の言うことに対するショックな気持ちなどです。もちろんその中でポジティブな面としてNGOの大きな力や、NPTの中で頑張っている国々(非人道性の観点や軍縮においてP5に対して物怖じしない姿勢の国々)のことも取り上げました。でも、言いたかったことは前者の方だったと思います。

私はこのスピーチが終わったあと、自然と自分の意見を客観視していました。なんとなく、このNPTに対する無気力感というのはここに集まっている多くの核廃絶へ向けて動いている人たちがずっと味わってきたことなんじゃないかと、思いました。そして、そのモヤモヤを越えたところに、みんなはいるのだと気付いた気がします。あたりまえのことかもしれませんが、私にとっては、ここまでのプロセスを踏んではじめて腑に落ちたことでした。

先生が「そう感じるのはごく自然なこと。私だけじゃない。多くの若者が感じていること。でも、ここでやめたら、本当に【ゼロ】。少しの可能性を信じて続ける意義がある。これまで社会を変えてきたのはいつだって市民やそこに住む人たちだった。それはこれからもそうなんだよ。今回ユースに参加して、その【壁】にぶつかってほしかった。これからも一緒に頑張ろう」と言ってくださったのが、本当に感動して、涙ぼろぼろでした。笑言葉にはうまく出来ないです。

私が話したことはオーディエンスからしたら、なんら平凡なことだったと察します。でも、これだけ自分の考えたことを人に聴いてもらえる機会があったことにとてつもない感謝です。

明日はいよいよ最終日！何が待ってるかな

Go back to top

No.9 Wednesday, 6 May 【The time has come】

あいいうえお。NGOルームの発表とPDPの完成とPEACE BOATの簡単なスピーチに追われて、ギスギスしてる感じが拭えないです。慣れないアメリカでの生活、会議場から帰ってもずっと動きっぱなしで、頭がショートしてます。

休憩も兼ねてBlogを投稿します。

今日は朝からgovernment briefingに出て、そのあとはMain Committee|||(原子力の平和利用)の会議を傍聴していました。会議では先週のGeneral assemblyと同様ステートメントを読み上げる感じに進んでいました。このような国際会議に初めて出る私としては、会議自体が前に進んでいるのか、それさえも見極められないです。この感じでいくと、22日に合意文章が出せるのか、不思議でしかたないです。そもそも2010年のアクションプランがどの程度履行されたのかも、怪しいです。会議がカオスなのか、裏で何か動いているのか、モヤモヤは膨らむばかりです。

その他にはレクナ教授が出すリアルタイムNPT blogを読んで会議の要点を復習したり、レクナ教授で以前は原子力委員会で働かれていた達次郎先生とお話ししたりしていました。

個人的に気になっていたMOX燃料のことはすべてクリアーになりました。どうやら日本原燃のネットで見た、2017年10月に完成予定とされていたMOX工場の情報は本当らしいです。場所は再処理施設のある青森の六ヶ所です。再処理施設とMOX工場が地下で繋がっているらしく、使用済み核燃料を地上に出すことなく移動出来るそうです。このような仕組みをとっているのは世界でそこだけだと言っていました。現在、MOX燃料を受け入れ可能としている施設は全国で4-5箇所だそうです(福島3号機もそのひとつです)。原

子力委員会や政府が圧力をかけても、最終的には県知事がYESと言わない限りは原発をはじめ、MOX燃料も燃やせないようになっているそうです。その仕組みを安全保障協議会(?...覚えていないので、また正しい名前がわかれば書き直します)というらしいです。実際、MOX燃料はウランの一部分をプルトニウムに替えているので、中性子の量が濃縮ウランよりも多く、事故があったときに放射線の被害が大きくなるという研究結果があるそうです。あと、原子炉の中もMOXように変える必要があるそうです。話を聴いていると、ウランよりも少し複雑な印象を受けました。受け入れに反発する自治体も多いそうですが、MOXが本格的に動き出せば受け入れざるを得ないところも出てくると予想されます。もんじゅのことに對しても、これから5-6年かけて運転をしていく方針だそうです。もんじゅは93年に完成して2年動かしたあと停めていて、そのときから現在まで年間およそ200億円を費やして維持しています。思わず、「意味あるのかなあ〜、完成する見通しもないのに」と溢れた言葉に先生も苦笑い。笑

私もこの手のことにあまり詳しくないので、日本に帰ってから原子力の物理化学の分野は詰めていきたいです。

あんまり書きたくなかったのに、こんなにたくさん書いてしまいました(^_^)

p.S. 明日はみんなでパーリナイ！写真は、けいこ先生です♡



Go back to top

No.8 Tue s day, 5 May 【The time has come】

Hoy hacia tan calor como el verano..

切羽詰っているのじゃなくて、努力しているんだ！！

(明後日のN G Oの発表のスピーチの暗記中に)

今日の名言 b y ゆかり一ぬ

二週目に入り、目に見えない疲れが溜まっています。いろいろ反省することがあります。あと少し。ちゃんと朝からgovernment briefingに出て、しっかり会議を傍聴します。

今日は朝からドイツ学生とのディスカッションの準備でところに余裕がなかったと思います。

ディスカッションは軍縮教育家のキャサリンさんの旦那さんの家で行われました。ドイツからのグループはダルムシュタット工科大学とハンブルク大学から来ていた学生で構成されていました。お互いのグループに関する簡単な紹介と、お互いの国のpeaceful use of nuclear energy policyについてのプレゼンをした後、小グループに分かれてディスカッションをしました。physics,engineeringを専攻している学生が多かったので、民生利用の話でも専門的な話だったので、意見を言うことが難しかったです。

ドイツは現在8基ある原発のうち、福島事故を受けて4基を停止している状態です。2022年までには原発ゼロにすることが決まっています。4基を今も動かしているのは、震災時に保有していたプルトニウムをフランスの工場で変えてもらったMOX燃料として消費するためです（実際、MOXに再処理する際にウランを混ぜるので、結局プルトニウムは出てしまうそうですが、量は減らせるそうです）。ドイツ学生はそのことに対しておおむね賛成しているようでしたが、結局核エネルギーからシフトするためにはしばらく赤字になること、これからどのくらい発電に費用がかかるのか正確には計算できていないこと、フランスとの国境沿いにある原発事故のことなどの懸念がありました。以前はウランを海外から輸入していたし、現在主に発電に使用している天然ガスもロシアから輸入しているということも言っていました。国の政策に対する一般のひとの意見を聴くことは、なかなか出来ないことなので、貴重な機会だったと思います。

ここからが本当に書きたいことです。

ディスカッションのあとに個人的にひとりのドイツ人とお話ししました、そこで話したことを少し書きたいと思います。

ドイツのホロコーストと被爆者のお話です。一番大きく感じたのは、政府の伝えようとする意識の違いです。日本ではそれこそ原爆のこと「被害を被られた事実」は多く語られることに対して「被害を被った事実」はあまり語られません。私は高校のとき世界史の授業は柳条湖事件の始まりが「どこからともなく銃弾が飛んできて、それが日本兵にあたった、それが中国人の仕業だった」と教わりました。私は幸い他の教材で勉強していたのでそのことを信じることはなかったのですが、中には信じてしまった人もいます。あと、長崎にある民間人によって建てられた岡まさはる記念館のことも館長さんは「ずっと記念館の存在を知ってもらうために看板を立てる話があるけれど、長崎市がそれを許してくれない」という話をされていました。日本はまだまだ加害面に対する意識が低いと思います。橘隆さんは「真の平和運動は黒の死体（被害を受けた事実）からではなく、赤の死体（加害の事実）から生まれなければならない」と言っていました。私も、強くそう思います。

ドイツでは、毎日どこかの局がナチス時代のドキュメンタリーを放映していて、それこそ証言は聴こうと思えば簡単に聴ける環境があるそうです。学校でもそのことはよく教えられることだと言っていました。それは、政府が「2度と同じことを繰り返してはいけない」という強い思いがあるからだと言っていました。ドイツ人はナチス、ホロコーストの黒い歴史を恥じているし、罪悪感すら感じると言っていました。

他にも、日本人は韓国人や中国人どう思っているのか、自分たちがしてきたことに対する責任や罪悪感を感じるのかなど、様々な考え方をシェアしました。

今日はこのくらいにしておきます。PDPの最終仕上げをしていこうと思います。

p.s. 最近日本の再処理工場計画についての疑問が多いです(2017年にMOX工場完成って、本当なのかな)。金曜日のワークショップでいろいろ質問したいと思います。知らないことだらけで、、、ちょっとパニックですが、日本に帰って勉強したいことが増えたと思ってstill前向きです！

Go back to top

No.7 Monday, 4 May 【The time has come】

NPT 開幕から二週目に入りました。一週間にわたりおこなわれてきたGeneral Debateがようやく終わり、今週からMC (Main Committee) でNPTの三本柱についてそれぞれ別の会議場で話し合いが進んでいきます。この一週間で感じてきたNPTに対するモヤモヤを晴らすべく、初日への期待が大きかったのですが、残念ながらこの日会議に少ししか出られませんでした。

というのは、明日に控えた交流会のことで予想以上に時間がかかってしまったからです。ドイツ人学生と明日の打ち合わせをしていると、どうも話が合わない・・・。お願いしていたプレゼンの内容ともどうやら大きく違う様子。でも今更作り直してもらうのは無理だということで、スライドを少し内容に沿ったものを増やしてもらうという妥協点に至りました。

このちょっとした話し合いの場でも、「日本人だな私たち」と思わされるところが多かったです。思ったことを言葉にすることを躊躇してしまったり、(もちろん英語力云々の問題もそうなんですが)「伝えたい、伝えよう」とする姿勢が海外の学生と比べると弱いのです。「海外の人たちは自分の意見をひとに伝える練習を日本人よりもはるかにしてきている、でも気持ちの面で負けないように、言い負かされないように」という言葉をアメリカ人とおこなったアートワークショップの初日で言われたことが頭の中に思い起こされました。

明日は、ドイツ人とのディスカッション、気持ちの面で負けないように言いたいことが伝えられたらなと思います。そして明日こそはMCの傍聴をしっかりしたいです。

p.s. 日曜日はみんなでブロードウェイのアラジン鑑賞し、夜は江島会にて美味しいお肉に舌鼓。束の間ウィークエンドは最高でした。昨日に舞い戻りたい気分はさておき、また一週間ガンバローウ！！

Go back to top

No.6 Friday, 1 May 【The time has come】

NPT = 無気力、自己満足

各国のNGO（ピースプラネット、アンフォードゼロなど）代表者が政府関係者に直接物申すNGO presentationに参加しました。どの団体のスピーカーも、核廃絶にとっても熱心で「ABOLISH NUCLEAR WEAPONS RIGHT NOW」という声が何度も何度も会議場に響いていました。NGOの人たちがNPTのファシリテーターなら、明日にでも核兵器禁止条約は出来そうだと、彼らの熱意に圧倒されていました。彼らは共通して、NPTで核兵器国に軍縮を任せたら何もすすまない、ならば他の方法で、自分たちのちからで進めていかなければならないと強く主張していました。

続きはまた明日書きます。明日はドイツ学生とのディスカッションがあるので、夜な夜なパワポを準備しています ^^

[Go back to top](#)

No.5 Thursday, 30 April April

朝、平和首長会議で他のユースメンバーのプレゼンを見届けたあとは、宇宙人（ふみくん、ゆかり一ぬとともやくんの許可を得たよ）の特別授業を見にNYニュージャージーにある日本人学校育英学園に行きました。私は、授業の構成で前日の夜中まで悩んでいる彼を見ていたので当日はうまくいくのかドキドキしていました。授業の構成を考える段階で、自分の伝えたいことを伝えるためにはどんな教材が必要なのか、話し合いのテーマはどうするのがいいのか、どんな言葉を用いたらいいのか、高学年の子たちにはどのくらいの話なら受け取ってもらえるのか、考えることが盛りだくさんで、一緒に考えることがとても楽しかったです。いつも何気なく受けている大学の授業も、先生たちの工夫が詰まっているのだと実感しました。生徒の子どもたちが、二時間もの授業を集中力を切らさずに、何枚も紙に一生懸命学んだことを書いている姿がとても印象的でした。とてもいい授業になったと思います。

夜は、JAPAN SOCIETYでちさみそとともえちゃんのスピーチを見てきました。

私たちが核問題に取り組んで、核廃絶に繋げていけるモチベーションがNYに来てから毎日少しずつ集まっていると思います。二人のスピーチでは、カナダのデミトリさんがファシリテーターとなって市民レベルで核問題に人々を巻き込んだ結果、アメリカの戦術核をすべて取り除いたという例が出てきていました。このお話は、以前医学部に橘隆さんが来てくださった際に初めて聴いたものです。また、思い出すことが出来ました。このかけら[piece]が集まって自分の中で[peace]をつくっていきたいと思います。

[Go back to top](#)

No.4 Wednesday, 29 April

今日は朝から本会議に出てきました。この日頃から、会議の内容が頭にあまり入ってこなくなったような気がします。それは、ほかのメンバーがブログに書いているように、多くの国のステートメントが似ていて単に聞くことに飽きてしまったからだと思います（この前日のブログにどう似ているのかを書きます）。昨年度後期から全学モジュールで「核兵器のない世界を目指して」の授業やRECNAやユースの活動を通して核問題の勉強をしていくなかで、核兵器は本当に廃絶できると信じてきた。けれど、この本会議で

政府のステートメントを聴いていると、その希望が徐々に薄れていくように感じます。まだ、NYでのすべての日程を終えたわけではないので、結論づけることは今はしません。

このモヤモヤをある2人のひとに話してみました。1人は某RECNA教授、もう1人は長崎と広島でおこなわれたワークショップでの作品作りのヘルパーさんとして来ていた広島出身の写真家の方です。そのとき考えたことを書きたいと思います。

教授は10年間この問題に関わってきた中で、この分野に関する多くの国際会議に参加してきた、だからそれらを踏まえたらステートメントのどの部分を特に注意して聞く必要があるのかがわかるし、政府代表のちょっとした言動の変化にも気づくことが出来る、と言っていました。政府の多くがステートメントの中で「もっと効果的に、確実に核軍縮をおこなう必要がある」というようなことが多分に聞かれたけど、具体的な措置や手段がその場で述べられるわけではなく理想論を展開しているに過ぎないと感じてしまいました。でも来週からは各クラスターに分かれて、話し合いが行われるそうなのでそっちに期待したいと思います。もう1人の写真家さんは、核問題に関わって5年ほどになるそうで、2010年に行われた再検討会議の他、何度か国際会議にも参加したと言っていました。その方にとっては今回の再検討会議は2回目になります。5年たっても「何も変わっていない、ずっと同じことを言っている、これは茶番だ」とまで言っていました。核兵器の話に世のひとを注目させておいて、水面下ではもっと強力な大量破壊兵器を作っているんじゃないか、だとしたらこの会議は不毛だと。なんとなく、それを聴いている少しだけ悲しい気持ちになったし、それと同時にどこか納得している自分もいました。この気持ちを言葉にするのは難しいです。

また気が向いたら書きます。

Go back to top

No. 3 Tuesday, 28 April

今朝も、Japan Societyで行われたキャサリンさんの”Hibakusha Stories”の特別授業を見ってきました。

今回のゲストスピーカーは、昨日に引き続くサーロウせつこさんと山下やすわきさん、そしてなんと、、、トルーマンの孫のDanielさんも来ていました!!!

公演の中でダニエルさんのお話が印象的だったので、少し書きたいと思います。

彼は祖父のことが大好きだったと言っていました。でも、彼の決断がヒロシマ・ナガサキで20万人以上もの命を奪ったと考えると、複雑な気持ちになると言っていたし、自分自身が負い目や責任を感じる時があると言っていました。祖父から一度も原爆の話は聴いたことがなかったと言っていました。なので、彼が最初にその事実に触れたのは教科書や先生を通してだったと言っていました。それから広島の子さんの千羽鶴の話を知ったり、広島や長崎へ来たりしたそうです。初めてface to faceで被爆者の方とお話をしたのがサーロウせつこさんとだったと言っていました。彼は、自分の祖父が犯した罪により傷ついた”被爆者”に会うことがとても怖かった、そしてサーロウさんも自分に会うことがとても嫌だったのではないかと話していました。実際サーロウさんは、横に立つのも最初は嫌だったと言っていました。

ダニエルさんの話が終わってから、彼はサーロウさんの手を握り笑顔で「but now we're friends. 」とっていました。

私は今日まさかダニエルさんに会えると思っていなかったのも、とても驚きました。彼の揺れる気持ちを聴き、本当に貴重な体験だったと思いました。

本会議には午後から参加しました。やはり、各国のステートメントが似てるなあと感じました。もちろん、核兵器保有国と非保有国（その中でも日本のように核の傘にある国とそうでない国、非核兵器地帯に入っている国とそうでない国では違うのですが）とではいうことも変わってきます。保有国や核の傘の国であれば、DPRKへの不満は少なからず出てくると思います（これはある種多国間で共通の'敵'を決めておいて、攻撃することで自分たちの課題から目をそらせる作戦）、あとは核軍縮に前向きである姿勢をちらっと見せるようなコメントをします（実際にどこまで本当なのかはわかりません）。さらに、北朝鮮やイスラエルなどのNPT外の保有国に対する警告としてFMCTの設置を促すようなコメントも出てきます（結局核軍縮はする気がないけど、これ以上増やそうという気もないから、nuclear productの生産が制限されることはP5にとっては大きな問題ではない）。逆に非保有国である開発途上国や小国、非核兵器地帯内の国であれば必ず核軍縮が進んでいない、もっと効果的に進める、ちゃんと進めたことを証明する方法を考えるなどのP5に対する不満が多く聞かれます。

会議中に出てくる専門用語は勉強してきたにも関わらず、結構忘れていたりするので昼休憩などにけいこ先生に聞いたりしています。ずっと英語で聞いていると、脳みそが停止したみたいは何も情報が頭に入って来なくなるので、たまに出てくる南米の国はスペイン語で聞いて、気分転換をしています。

p.s.夜は3月末から一週間かけて長崎と広島で行われたArt Workshop for Peaceで知り合ったNew Yorkersと再会しました。久しぶりにキャノンやノーテにあえて、とっても楽しかったです！！



[Go back to top](#)

No.2 Monday, 27 April

ついに、会議が始まりました。

今朝は早くからキャサリン・サリバンさんの組織する”Hibakusha Stories”による特別授業の様子を見に、UN International Schoolへ行きました。アメリカの学生たちが、被爆者のお話を聴いてどのような反応をするのか、また、どのような質問を投げかけるのかとても興味がありました。

アメリカの学生たちが、被爆者の方(広島出身のサーロウさん、長崎出身の山下さん)の話が終わってからスタンディングオベーションをしていた姿にとっても感動し、涙腺が緩んでしまいました。質問タイムでは、ひとりの日本人学生が「I think eliminating nuclear weapons doesn't really solve the problem... 技術革新が進めば、核兵器よりももっと強力な兵器が出てくる。そうなれば核兵器廃絶は意味があるのか。」という質問をしていました。その質問を聴いた瞬間にサーロウさんの表情が曇り、会場に緊張がはしりました。サーロウさんは答えるかどうかを考えているようでした。結局、その質問に対してはキャサリンさんが代わりに「今この時点で、核兵器は最も高い殺傷能力を持つ兵器であり、だからこそ廃絶しなければならないと考えるのは当然だ。」というような回答をしていました。キャサリンさんが答えた後に、サーロウさんが「Your question upset me...」と言っていました。日本人の学生が言ったその質問は、大学の授業でも何度か聞いたことがあるし、純粋な疑問だったと思います。でもそれは、被爆者の方からしたら自分たちを苦しめた兵器の廃絶を目指さない理由を考える意義が見出せなかったのかなと思いました。その質問をした彼も、私も、サーロウさんや山下さんのように被爆したことがないので、彼らがなにに対して怒りを感じたのか、本当の意味では理解出来ないと思いました。

会議初日は、P5の代表格アメリカロシアから、注目のマーシャル諸島やエジプト、日本など聴きどころ満載なラインナップでした。

多くの国がステートメントの中でpeaceful use of nuclear energyの重要性(いわゆる原発の推進)、IAEAの機能性の高さを評価していました。核拡散(原発の普及)はNPTが抱える根本的な問題であることは条約が発効された当初から言われていたことで間違いのないのですが、その矛盾を会議でこうも見せつけられると、なんともいえない気持ちになりました。

今は適切な言葉が思いつかないので、また気が向いたら書こうと思います。

P.S. 夜はみんなでスーパーに買い物に行き、大量の食材をゲットしました。夜ごはんにはパスタとサラダを作って、みんなで団欒して楽しく食べました！青春？笑

Go back to top

No.1 Sunday, 26 April

昨日は人生で初めて”デモ”というものに参加しました。参加したのはNPT review conference に先立って行われた”Peace & Planet Rally, Festival” というもので、NYCの会議のことを知らないひとたちにすこしでもそのことを伝えるために行われるものです。

これまで、自分が核問題の勉強に取り組んで来て、たくさんの廃絶に向けて動くひとたちと会ってきました。昨日は、その私が会ってきた何十倍、何百倍ものひとたちを目の当たりにして、とても感動しました。こんなにも、多くのひとたちが一人ひとり平和へ

の想いを抱き、核兵器廃絶を願っているのだと思うと、心の底からちからが湧いてきました。

私は核問題を勉強していく中で、いつもどこかで「こんなに勉強したって、明日に核兵器がなくなるわけじゃない」という言ってしまうあたりまえの事実についていつもジレンマを抱えていました。廃絶されると信じていても、それが目に見えることはないことに、やるせない気持ちでした。そう考えたとき、世界の核兵器廃絶へ動く多くのひとたちはなにに動機付けられて普段活動をしているのかをずっと知りたいと思ってきました。

そして、その答えは昨日、私が見たその光景そのものでした。約8000人ものひとが、そこに集まるその光景に勇気をもらいました。平和への想いが、集まってひとつのかたちとなって目に見えるということが、どんなにステキなことか、身を以て実感しました。

P.S. PDP(Peace Dove Project)の件で海外のテレビ局から取材を受けました。質問の中で「Do your parents know about nuclear issues you are learning? Are your parents supportive?」など、家族のことを聞いてくれました。プロジェクトのことだけでなく私自身に関する質問をしてくれたことが素直に嬉しかったです。日本では、自分が関わっている事業のこと以外はあまり聞かれないので、取材もアメリカと日本ではちがうと思いました。

Go back to top

No.0 Friday, 24 April

インチョン空港にてトランジット待ちです。初渡米にドキドキワクワクしています。

昨日は電車の中で広島でのワークショップの際に頂いた、スティーブ・リーパーさんの講演文を読んでいました。そこに何度も出てきた、リーパーさんの想いが詰まった”the time has come”というフレーズを今回日記のタイトルにしたいと思います。今日は、「核兵器のない世界へ」また一歩踏み出した、私にとって特別な日です。

振り返れば、昨年春から長崎に住みはじめて授業、レクナの勉強会、ユースの勉強会、広島でのアートワークショップを通して本当に多くの核問題についての勉強をしてきました。それでも、まだまだ全然足りてないと今この瞬間も感じています。核問題は人道的な側面、外交的な側面や科学的な側面など、さまざまな顔を持つ非常に難しい問題で、そのどの側面も核兵器のない世界を目指す上で必要不可欠な知識です。国連で政府代表を始めとする様々な分野の専門家や各国NGOのファシリテーターなど、多種多様なバックグラウンドを持つ人たちと交流をする中で、多角的な側面からの捉え方や考え方を吸収出来たらと思います。

不安も多いですが、、、今こうして核問題に関われていることへの感謝を胸に、自分なりに出来ることを頑張ろうと思います!!!

p.s. けいこ先生にはやく会いたいです

Go back to top

[このページのトップへ](#)

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015/hayato-blog-2015

Hayato's Blog 【ぼくのNPT】

No.9 Thursday, 7 May おわりはじまり

今日で国連最終日となりました。

この二週間で、多くのことを学びました！

まずは

NGOルームの発表！

みなさんお疲れ様でした！

今まで準備して、考えて、考えて、考えてきた成果を出し切ったのかなと思います。

火曜日に交流会をしたドイツ学生のみんなも来てくれて、すっごくいい視点だったし、本当良かったと絶賛していました！

この発表でぼくは様々な人に助けをもらい、今回の発表をすることができました。本当に感謝します。ありがとうございました。

NGOルームでの発表内容は後日の「報告会」でのお楽しみで！

話は戻って今回感じたことは、

なぜ核兵器は無くならないのか...

今でもよくわかりません。

どこどこの国はあっているとか間違っているとか、理想形は固まりつつもそこまでのプロセスが難しいように思えます。

わからない中でも希望は見えました。

「ツナガリ」です。

国と国とのツナガリ、有志のツナガリはこのNYで力強いものを感じました。以前あった海外の友達と再会でき、また新たなつながりを広げることができました。

今の世の中だからできることを、最大限に生かすことが今後ぼくができることじゃないのかなと思います。

今回のNPTを通して理解よりも『発見』が多く、ナガサキ・ユースとしてNPTに参加できて本当に良かったと思っています。

最後にこのブログをみてくださったみなさんありがとうございます。

みてくださった中には、核兵器など今ままで関心がなかった人、ユースメンバーの友達など様々な方が読まれていると思っています。ぼくたちの活動に少しでも興味をでも持ってくれたら、幸いです！

核兵器の問題は身近な問題です。ぜひこの機会に考えてみてはどうでしょうか！

ぼくもまだまだ勉強不足です。いろんな視点から学んでいきたいです！

また、夏にはちょっと今回の発見を生かして、何か行う予定です！

おわりではなくあらたなすたーとがはじまる予感です。

We are the front runners...



[Go back to top](#)

No.8 Wednesday, 6 May 集大成前静けさ

明日がとうとう国連最後の日となってしまいました。2週間ほんとに早いものです。

振り返ると長くなるので、とりあえずは明日の「プレゼン」です！

このプレゼンに相当の時間を費やしてきました。

僕たちのトピックは「平和教育」。

3月から4月にかけて、アンケートやインタビューを行い準備してきました。

準備から分析など多くの人の助けがあり、今に至っています。感謝しています。

この自分が平和教育についてやっている原動は何か？

やはり、それはこの核兵器に関心をもった理由が平和教育の差だったからだと思います。長崎出身の友達と何気ない会話に出てきた、登校日の話や89の言葉にできない雰囲気心うたれました。

なぜ、同じ国なのにこんなにも差があるのか？

なぜ、同じ世代なのにこんなにも差があるのか？

普段意識しない気持ちが生まれました。

そこが今の活動の原点でもあり、原動力でもあります。

また、彼にも感謝の言葉を言いたい。調査を共に行ってきた秀くん。本当に熱い人間で、彼のおかげでここまでこれた気がします。ありがとう。

明日は張り切って頑張ります！

応援をよろしくお願いまーす！

『長崎の若者が世界を変えます』



Go back to top

No.7 Tuesday, 5 May 直線の先に。

「セキュリティ」結構頻繁にこの会議に出てくる単語です。

セキュリティは本当にセキュリティなのか？

人間の技術は完璧なのか？

何もかも見抜けているのだろうか？

そのセキュリティの言葉が疑われたのはご存知のとおり、3.11

原発は止めた方がイイという国とじゃあセキュリティをもっと向上させよう!とする国

この問題は本当に難しい。

自分もメディアに左右され、自分の考えは曖昧。

何が正のか？

本当に難しい。

今日はドイツの学生たちと『原発』のについてディスカッションしました。日本の視点だけではわからない点にも気づくことができました。

なんとなくですが、ドイツは事故が起きた後の汚染問題や次世代に影響する面を考え、日本は直近の影響（コストなど）を考えている傾向があるのかなとも思いました。

ドイツの学生は日本の政府の動きや市民の考えなどに興味を持っていて、なぜ日本は原発を再稼働を進めているのか！と疑問に思っていました。なぜ？なぜ？と聞かれるとますます、謎は深まりますが、おそらくその謎を探っていく最後に交わる根本がわかるのかなと思います。

平行線では問題は解決しないので...



Go back to top

No.6 Monday, 4 May 準備！

今週が私たちの本番だと感じています。

明日はドイツの学生とのディスカッション、そして7日には準備してきたNGOルームでの発表を行います。

ドイツとのディスカッションでは日本とドイツの原発政策を比較しての内容となります。「原発」は平和利用の面や市民が動かした面などがあり、私たちの中にもそれぞれの意見があると思うので、明日はお互いに意見が飛び交う交流会でしょう！

NGOルームでは、自分と秀くんで「日本の平和教育」について発表します。3月から4月にかけてアンケートとインタビューを長崎大学で行い、その分析結果と提案をプレゼンする予定となっています。長崎県内の学生と県外の学生にはどんな意識の違いがあり、その内容は何が起因しているのか？平和教育を通して見抜く内容となっています。ぜひ成功させたいと思っています！

また、あまりに日本での原爆に限定して考えていた自分がいたことに気づかされました。強制連行され、過酷な仕事をさせられ、被爆し、帰国後も差別を受けてきた海外の方は多くいる。何重にも心身的に追い込まれた、追い込ませた歴史があることも今後は意識して考えていきたいです。

残りの日数も三日となりました。

1日1日何か一つでも得れるように頑張ります！



[Go back to top](#)

No.5 Friday, 1 May Sekai Ni Mukete

本日はプレゼンテーション第1弾として「若者をまきこむ！」を代に話をしました。

核兵器に関心を持たないのには必ず理由があります。

ぼくも実際去年の夏までは関心を持つことはありませんでした。

しかしきっかけがあり、今に至ります。

きっかけはそれぞれの価値観や興味と結びついており、ぼくの場合は友人のひとこと。

きっかけはたくさん作れるし、無限大にあると思う。

趣味や仕事、尊敬している人、授業、テレビなどダイレクトな関心ではなく、あるコトやモノを介した関心が今後の若者に興味を持たせるためには必要かなと感じています。

このブログを見た方にはその方なりの趣味や何か大切にしているモノあると思います。そのコトとどう核兵器の問題に導けるかを考えて欲しいです。

素晴らしいプレゼンターに囲まれて、有意義なセッションとなりました！



[Go back to top](#)

No.4 Thursday, 30 April つたえ、まなび、またつたえ

まず、題名を毎回変えてしまいすいません。今回から自分の感じた、素直な気持ちを綴っていくために題名は【ぼくのNPT】とします。

今日はマンハッタンを少し超えた、ニュージャージー州の育英学園にお邪魔しました。海外の学校で学ぶ日本人の小学生たちは平和や核兵器についてどんな印象を考えを持っているのか興味がありついていくことにしました。

授業は我らのフミ先生が指揮し、長崎で行われている平和教育と今後の将来必要な考えのヒントを学ぶことができる内容でした。学生たちは自分の想像以上に原爆のことを知っていました。なかには想像を膨らまして、今の自分では考えられないような意見や質問をしていました。新鮮さを忘れていました。

新しいアイデアが今後の活動で大切なので、ニューヨークでも長崎でも多くの方に話しながら、発見していきたいです

そして今夜は長崎県人が開いた集会に参加しました。

被爆者の方々に形成された「ひまわり」の歌を聴き、ともに歌い、また被爆体験談を直接聞くことができました。被爆者の方の熱いオモイを感じると共に、残りの滞在するニューヨークで今以上に頑張らなければ！と気付かされました。

あと、今日のプレゼンのお二人はお見事というか、もう本当に凄かった！



真剣に話をきく小学生たち。好奇心旺盛で、考えも素晴らしかった。

『先駆者と先駆者』

ひまわりの歌声と背中から伝わる何か。圧倒されました。



Go back to top

No.3 Wednesday, 29 April オモイと思い

今日は会議から離れ、同時に行われている各イベントののに通いました。

各国が核兵器について話している中で、各国それぞれの立場から話される内容にどれだけ理解することができるか。

核兵器は必要ない！核兵器は必要だ！

減らしていく努力と増やさない制約のNPT。

技術的向上、セキュリティー強化！

押せ押せの期待が続く得られない、大きな結果。

70周年を迎え、今見え始めた核兵器の非人道性。

じゃあ始めようじゃないか「核兵器禁止条約」！

隣国の関係わかってる？

禁止？制約は戦争を招くのでは？

だったら今後どうしていくべき？

2020年また同じ結果？

など、今日1日で政府の方やNGOなどの市民の方の意見が多く聞けました。

正しい答え？を探している中で、自分らも考え、躍動したい。

んー。

今日は頭を整理してあしたへ



[Go back to top](#)

No.2 Tuesday, 28 April んー。

二日目朝からお昼までは傍聴とプレゼンの準備をしていました。

一発目から驚いたのは参加者の数。そんな人数ではじめても...

これはグローバルスタンダードなのでしょうか？疑問に思いました。こんな風になるのも、この会議の重要性を感じていないから？すでに、文章を読めるから？

形式の会議にならないことを望みます。

午後からは核兵器使用における私たちの環境の変化についてのサイドイベントに参加しました。国を守るための核兵器も、使った後は国を守れないほどの影響があることを知り、それでも持つ必要あるのかと感じました。(Nuclear Winter)

んー。





[Go back to top](#)

No. 1 Monday, 27 April 本日から

本日からとうとうNPT再検討会議が始まりました！

5年に1度のこの会議にこれたことには非常に良かったと思っています。今年は被爆70周年ということで、長崎からも多くの方々が参加されていて、昨日のデモにおいても必死に核廃絶を訴えかけていることに心打たれました。

またデモでは日本の方だけではなく、海外の方も参加されていて強い思いを共有しました。前半からあまりよろしくない雰囲気となっていましたが、この会議で今まで70年間核兵器反対を訴えかけてきた被爆者の方々を安心させることができるように、大きな進展を望みます。

自分は5月7日まで、この会議に携われるので長崎に胸を張って変えられるように毎日全身全霊で頑張っていきたいです。

まずは、5月1日のプレゼンです！





[Go back to top](#)

No.0 Thursday, 23 April いよいよ

ナガサキ・ユース代表団三期生 河野早杜(かわのはやと)です。

幸先

韓国で待ち時間を使って、韓国の学生と次のプロジェクトについて話してきました！去年のちょっとした話が実現に向けて進んできていて、自分の思いを内容は詰まっても試してみるものだなと感心しました！

さて、去年の12月にナガサキ・ユース代表団に任命されてとうとう出発することとなりました。思い起こせば、勉強会やミーティング、遺構巡りに、ゲストの方との意見交換など色々な視点から今回の会議に向けて学ぶことができました！やる気・自信満タンです！

会議は来週からなので、まだまだ時間があります！

今一度自分に何ができるのか？を改めて考えて、アクティブにクリエイティブに頑張ってください！

[Go back to top](#)

[このページのトップへ](#)

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015/mayu-blog-2015

Mayu's Blog 【'How I feel' In....】

No.16 Sunday, 10 May

ラストblog

時差ボケからの覚醒(°□°)

日本に帰ってきました(^x^)!

(blogの更新が遅くて日付が錯誤していますね(T_T)すいません)

□帰国後の私の頭の中◇

- ・若者を巻き込みたい→若者に何をさせいの？
- ・核問題、化学兵器など他の大量破壊兵器と比べられないのでは？
- ・歴史と現在やっぱり違う。
- ・長崎が変わると東京が変わると、どちらが効果的か？
- ・世界は本当に市民社会で動いてる。

でも私はその市民社会の一員じゃない。ここで言う市民社会とは、驚くほど賢く、強い意志をもち、その能力を認められた有給のNGOの人達のことなんだなーって。本当に自分で感じたのか、どこで吹き込まれたのか忘れたけど、今はこれに完全支配されてる(@_@)

- ・ユースを応援して下さった皆さんはこれからのユースに何を求めているのだろうか？

まずこれらを解消しなきゃ(・o・)

□ありがとう□

この活動で得た一番大きな収穫は偉大な先輩と尊敬出来る仲間や先生方(・o・)!

一人ずつに対する今の気持ちを書きます。

*ゆかさん なんでも出来ちゃうのに一步引いて私達をサポートしてくださいました(^O^)
ユースのサイドイベントに至っては、ゆかさんなしではほとんど前に進まなかったんじゃないかってくらい!!

私はアンポンタンなので本当にたくさん迷惑かけちゃいました(T_T)

* ちさちゃん 同い年とは思えないほどしっかりとした文章やスピーチにビックリ！
なのにちょっと抜けてる所があって親しみやすい同級生(^x^)

* ひで 多文化社会学部で英語ペラペラ！とっても面白いのに真面目な一面も！平和教育への想いに圧倒されました。

* はやと ユース1のエンターテイナー！ 初対面の人とも壁を作らずどんどん前に進める所、見習わなくっちゃ(~o~)

* ともや 不言実行が本当に似合うメンバー。大きな事を言って何も出来ない人もいるけど、彼は真逆。知らないうちにどんどん進化してる！

* ひろちゃん 読書家の天使(^O^)ネイティブチェックなどでお世話になりました。才能溢れる彼女をこれからも陰ながら応援したい！

* ともえ 同じ学部で同じ学年。なのに性格も興味も全く違う(^O^)時にそれが不思議で面白かったです！

ニューヨークでともえの公衆衛生への強い想いに触れて、これらかも頑張ってもらいたいな
ーと思った(^x^)

* あゆみ ユースのアーティスト(^O^)PDPプロジェクト、本当にあゆみんのセンスが光ってた！

あゆみんはとても人間らしくて素敵だなー。

* じょー 静かそうに見えるけど、話してみたらとっても楽しい♪未来の外交官に乞うご期待！

* ふみ 我らがふみ先生！去年の夏はスーパーマンすぎて圧倒されてたけど、一緒に活動してるうちに、人間らしい面に気づき、いつの間にか本気で応援してた(^O^)NYで先生をする日を楽しみにしとこう！

* あまにい だいふお兄さんだから長崎では近づきにくかったけど、NYで真剣に傍聴しているのを見て、いつのまにか尊敬の眼差しを向けてた(°□°)！blogもぶっちぎりで面白かったです！

* みなみさん 北東アジア非核兵器地帯に詳しいユースのお姉さん(^x^) 今は帰国後報告会の準備を引っ張ってくださってます！敵を作らない天才(°□°)見習わなきゃ！

ニューヨークではみなみさんの傍聴への愛をたくさん感じました！

* パスカル 核問題のモヤモヤを気軽になんでも話せる(^O^)

法律の事とかに詳しくって本当に頼りになるレクサポです！ユース主催のサイドイベントにたくさんの時間を割いて協力してくれたことは一生忘れない(>_<)これからもその才能を生かして”新しい平和活動”を貫き通してほしいな！

* ゆかりーぬ ぎゃー(@_@)

ゆかり一ぬは去年の夏から一緒にレクナで活動してきた、ユースでも共に頑張ってきた仲間です！ユース直前はうちに泊まり込んでプレゼンを作ったりしたよね(T_T)

ゆかり一ぬは頭の中にある疑問を素直に表に出すのが上手くなって、横で聞いて「よく言った！」って思う時がたくさんあったな。これからも彼女のわくわくワールドを楽しみたい！

*かりん とってもしっかりしてて、人前できちんと意見が言える所を私は見習わなきゃ(T_T)

これからは楽しみの私のかわいい後輩ちゃんです！

*江島さん ユース1期の大先輩。仕事をストップしてわざわざニューヨークに来てくださいました。私と同じ立場だったら出来なかっただろうな(>_<)

各イベントのビデオ撮影からユース主催のイベント（発表）の準備の追い込みまでサポートしていただきました。ピーク時には桂子先生が言いにくい注意をしていただいたり、帰国後の今でもユースそのものを良くするために尽力されています。

自分の立場を理解して、なにをすべきかを明確に理解されて（それだけじゃないけど）なんだかずっと圧倒されてました(@_@) 私と数歳差とは思えない。

*広瀬先生 本当はとても忙しいのに、学生の素朴な質問にも喜んで答えてくださってありがとうございます(>_<)なんだかんだで、ユースになったのも、真珠湾に行ったのも先生の影響です(^O^)! これからもお話し聞かせてください！

*桂子先生 桂子先生には感謝してもきれないくらい(>_<)先生はレクサポ時代からずっと私達の活動を暖かく見守ってくれました(T_T)

アドバイスも最小限。私達をきちんと成長させてくれる先生です！

そんな先生に大学時代に出会えてよかった。大好きだー(^x^)!

皆さんと一緒に活動できて本当によかったです(^O^)!

この経験はずっと大切にします!!

今までblogを見てくださった皆様、1大学生の活動を暖かく見守ってくださりありがとうございました(>_<)

ニューヨークでくじけそうになったとき、皆様の”いいね!”に励まされました(^-^)

ps:帰国翌日は時差ボケで悩んでいましたが、それ以降は何だか覚醒しちゃいました(笑)

帰国してから完全朝型人間です(^x^)

専門の薬学の勉強も楽しくなってきました♪

夏までに真珠湾のことや国連での出来事をきちんとまとめようかなー(o^^o)

[Go back to top](#)

No.15 Saturday, 9 May

また帰ってこよう

とうとう最終日。

今日は朝から飛行機に乗るだけです(^-^)

空港までは節約のためにエクスプレスバスを使います。

ニューヨークに来たときはバスに酔っていましたが、帰りは全く酔わなかった！ちょっとタフになったのかな（・o・）？

真珠湾とニューヨーク、絶対また来よう・・・ビッグになってから(笑)

Go back to top

No.14 Friday, 8 May

国連最終日

RECNA FORUM

-北東アジア非核兵器地帯-

今日はレクナの先生方の北東アジア非核地帯に関するフォーラムがありました。

このフォーラムはサイドイベント会場ではなく、本会議が行われる会議場で行われました。どうやら在ニューヨーク日本政府代表部が後援したみたいです。（違ってたらごめんなさい）

会議場を貸し切っていたので、今日だけは政府代表が座るイスに座れました（・o・）！

簡単に言うと、大きくては立派な会場で、一流の専門家達が核廃絶に非常に有効な提言を行う、といった感じです。

誰でも簡単に価値を理解できると思うのですが・・・人があまりこなかった(T_T)

どうやら、他のイベント（IAEA?）と被っていたようです。

※よって参加者は少数精鋭でした。

そのような状況でも中国の若い政府代表の方はいらっしゃっていました。しかも自分から発言もされていました。

一方で韓国の政府代表の姿はありませんでした。

果たして韓国は北朝鮮の非核化に本気なのか？

南北統一したときに北の核がまだあったら、本気で無くすことができるのか？

レクナからの提言はこちらから見れます。

<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/asia>

フォームの後は桂子先生にお別れの挨拶をして、友達とおいしいハンバーガーを食べに(・o・)!

山場(昨日のユースのイベント)を超えてほっとしたのでしょうか? なんだか本当に幸せだったな(o^^o)

この二週間を振り返ると、本当にメンバーとべったりだったなー(^x^)

宿泊は他の団体と違って激安シェアルーム。

夜までユースの仕事を一緒にやったり、美味しいご飯作ってもらったり、核問題や人生を語ったり・・・

あー、明日帰国だ(・o・)

Go back to top

No.13 Thursday, 7 May

とうとう(・、・)

ギリギリまで準備準備準備。

桂子先生にも先輩方にも迷惑かけてしまいました(T_T)

イベントの全体像は他のメンバーのblogに任せて、自分達の発表について書きますね。

「日本政府がもう少し核廃絶に向けて頑張れるにはどうしたら良いか？」

□私たちがなりの答え□

・政府レベル

日本政府の言い訳である「周辺環境の改善により、核の傘の役割を減らす」です。

具体的には中国にアプローチして、DPRK(北朝鮮)の核問題を解決といった内容です。

・市民レベル

長崎は中国との交流がほかの県より深い。この”土地の利”を生かして、市民レベルで長崎-中国の信頼関係を築けるのでは？

長崎大学にも200名以上の中国人留学生がいるので、私たち長大生にもできることがあるよね、といった内容です。

大声で英語を使って発表するのは生まれて初めてでした。表面上、所謂「よい経験」を
しました。しかし見えないところで”人間として”学ぶことがたくさん（・
o・）!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

反省点がありすぎて、あまり良い事を書く気になれません(T_T)

その夜、先輩と話しました。

その中で素晴らしい先生方や先輩方がすぐそばにいることに改めて気づきました。

先輩との話のうち最も心に響いたのは「初対面の人とくだらない話ができる価値」で
す。

私は日本語ですら初対面の人と話さない上に、日常生活でも数人の友達と話せばもうお
腹いっぱい。おもしろい!と思った人とだけ話して、あまり感心のない人とは話さな
い。思ってもないことは絶対言わないし、何故かそれにプライドを持っていた。

でも、これって本当に悲劇的なんですよ（・・・）

私のすぐ側には「話せる」人がたくさんいます。彼らから学ばなければ・・・

なにはともあれ、今まで泥臭く一緒に頑張ってきたゆかり一ぬとパスカル（レクサポ 豊
田君）に本当に感謝です(>_<)

そしていつも素敵な笑顔をくれた果鈴ちゃんにも感謝(^-^)!

本当にありがとう(T_T)

Go back to top

No.12 Wednesday, 6 May

準備準備準備準備（・・・）

今日は”特に”先輩方（ユース3期ゆかさん&ユース1期江島さん）に本当に助けていただ
きました。どんなに感謝しても足りないくらい(>_<)

ところでなんの準備かと言うと、国連のカンファレンスルームで行う”ナガサキ・ユース
代表団主催”のサイドイベントの発表の準備です。

このイベントには多くのユースメンバーと長崎で一緒に核問題に取り組んでいるレクナ
サポーター（レクサポ）からの有志が関わります。

私はユースの中原さん（ゆかり一ぬ）とレクサポの豊田建主さんとチームを組み（途中
からレクサポの牧島果鈴さんにも手伝っていただきまし）以下の課題と向き合いまし
た。

「日本政府がもう少し核廃絶に向けて頑張れるにはどうしたら良いか？」

ありきたりな話題ですが、真剣に考えると面白い題材です。

考えてるうちに、北東アジアは一般的に状況が悪いと思われている中東アジアと同じくらい・・・いや、それよりもっとひどい安全保障環境状態なのでは？と思えてきました。毎日の生活では気にならないけれど、端から見たら私達の住んでいる地域は緊張感の漂った核兵器だらけなんだなーとひしひし感じる訳です（・・・）

平和ボケとはまさにこのこと。

海外でボランティアもいいけど、日本の若者はまず、自分の国も大概危険な状態にあることに気づかなければいけないと思いました。

今日は傍聴そっちのけでひたすら準備してました。明日はいよいよ本番（・・・）

Go back to top

No.11 Tuesday, 5 May

エネルギートーーーク(°□°)

withドイツのお兄さんお姉さん

今日はドイツの大学生と互いの国の原発について話しました。

正直言って、原発問題にあまり興味を持たない自分がいます。なぜかは分かりませんが。

日本人は外国人＝ディスカッションが得意と思いがちですが、ドイツ人学生の中でも議論に積極的に参加していた人もいたし、そうでない人もいました。

私のグループはドイツ人4名と日本人2名でした。

日本人勢は皆理工系学部の学生だったので、自分達自身も強く原発に反対出来ていないことを話しました。ところがドイツ勢、皆工学部の学生なんですよ（・・・）！ でも彼らは原発には絶対反対でした！

私もドイツ人学生みたいに おもいっきり反対したい・・・でも・・・できてない。

いったい何が私をこうさせているのでしょうか？

ディスカッションの後に、私たちナガサキ・ユース代表団が国連で主催するサイドイベントの案内を先輩がしてくれました（・・・）

その時に、長崎の多くの若者は意外と核問題に関心を持ってないというフレーズがあったのですが、その言葉が発せられた瞬間、私に向けられたドイツ人学生の視線が痛かったです。

多くの日本人が原発に強く反対できないどころか、核問題にもあまり興味のないことにたいして、あきれた顔をしたように思えました。

原発の話、まだよくわからない。

核兵器の話は論外だが、原発の技術を開発したことは何にも悪くはないのでは？人間が過去の偉人たちと同様に知恵を振り絞っただけ。

エコエコエコエコ (・o・)

そもそも人間は環境を汚しながら生きてきたでしょ？

今は、さすがにこのままでは人類が生き延びれないことを悟り、環境汚染という概念を作り「エコ」を叫びだしたって所でしょうか？

こんなことになるくらいだったら、原始人のような生活を続けておけばよかった。人間だって所詮1動物でしかない。

妙にポル・ポトチックなことを言っちゃう自分が怖いな。

これ以上はもう考えまい。

とにかく、私の浅はかな知識では「エコ=いいこと」という風潮の中、環境に優しいと謳った原発を受け入れてしまったように思えます。

エコの名のもとこれ以上危険な物を受け入れないようにしよう。

こうして人類は一つ一つ学んでいくのかしら？ (・o・)

Go back to top

No.10 Monday, 4 May

国連マジック♪

以前広瀬先生から冷戦時の国連マジックについて授業中に聞いたことがあります。

国連マジックとは私が勝手に作った言葉です(笑)国連での不思議な出来事を指しています。

授業中に聞いた話は冷戦時の話で、国連事務次長との面会にアメリカとソ連がダブルブックキングされた、という内容です。

表向きは秘書の手違いですが、そんなわけない(笑)

公に話ができない登場のアメリカとソ連に場所を提供したのでしょうか。

国連が最悪の状況を改善するのに役立ってくるのだと知り、国連の存在価値を自分なりに納得しました。

(・o・)

実話今日、国連マジック見ちゃったんです！最悪な状況を打破、とまでは行きませんがわくわくするようなマジックでした♪

ここで言えないのが残念ですが、表にでない部分でも国連のいたるところで素晴らしい仕事がされていることを皆様に伝えたいです！

NPTを分たら・・・？

今日傍聴しながら、ふと思ったこと。

なんで3つも柱（議題）があるのか？

NPTが核軍縮と核不拡散、そして平和利用の3つの柱から成り立っています。それでもNPT＝核軍縮を進めるものだと思ってきたため、核軍縮より平和利用を押し国々のステートメントを聞いた時、もどかしい思いをしていました。

昨日から会議が3つに分かれて、少しそのもどかしさは薄らぎました。

後から3つに分けるなら最初から3つに分ければいいのに（・o・）！

傍聴しながら、ふとそう思いました。

何が言いたいかというと、3つの柱のせいで各国が論点のバラバラなステートメントを出すくらいなら、最初からそれぞれ3つの柱のステートメントを1つずつ作ればいいのに！ということですね。

それを友達に言うと「それだとNAM(非道名所国)が核軍縮を強く言わなくなり、さらに平和利用を叫ぶのではないか？」と返ってきました（・、・）

確かにNPT成立当初は3つの柱を作らなければ核軍縮の枠組みすら作れなかった状況だったのかもしれませんが、今は少し状況が変わっています。

重複している国もありますが、NAM以外にも核軍縮に積極的なグループがいくつかあります！

せめて核軍縮だけでもステートメントを独立させて、もっと前進できないのでしょうか？

こんな事を考えながらも、核軍縮から論点を乱す3つの柱は、皮肉にも核軍縮を進めるにあたって必要不可欠だという意見に妙に納得してしまう・・・

また後味の悪いblogになっちゃった・・・

Go back to top

No.9 Friday, 1 May

傍聴席&ばってん会

今日から会議が3つに別れます。

核軍縮、核不拡散、そして平和利用。

核軍縮会議の傍聴席に座ると・・・

ななななななーんと！そこにはNPTに加盟していないはずのイスラエルのプレートがっ（・o・） ;;;

実はイスラエル、20年ぶりにオブザーバーとして来たそうです！ただ来るだけではなく中東非核兵器地帯に対して結構積極的に活動しているようです！

なぜびっくり（・o・）なのか。

と一っつても、ざっくり簡単に説明すると・・・

NPT再検討会議は元々20年間限定の条約でした。しかし、20年目の1995年、NPT無期限延長が決定され今に至っています。

「無期限延長 = P5（米露英中仏）のみの核保有という不平等な状況を維持する」ということでP5にしかメリットがありません。

そこで事実上核保有国のイスラエルを含めた中東アジア非大量破壊兵器地帯（核兵器を含めた）に関する中東決議を条件に加えました。P5意外の多くの国は、この条件があることでNPT無期限延長を受け入れました。（他にもいろいろあるよ！）

さらに2010年のNPTで中東非核兵器地帯に関する会議を行うことが合意されました。

なの会議の参加を拒むイスラエルのせいで会議がいつまでたっても行われぬ！

結局今まで全然話が進まなかったんです。（これに怒ったエジプトは2013年のNPTの開始早々帰ってしまいました。北朝鮮のように脱退しないことを祈る・・・）

この状況でNPT未加盟のイスラエルが傍聴に来てさらに行動を起こしている、というのがどれだけ「びっくり！」なことか！！

皆様と少し共有できたら嬉しいです♪

ばってん会さんとお食事（・o・）

NY在住の長崎出身の方々から成るばってん会さんのお食事会がありました！

NYに羽ばたいたただけあって、皆様とても生き生きとされていました！

我らが田上市長もいらっしゃっていたので、真珠湾で感じたことを話してみました。

-真珠湾は日本を受け入れる準備はできていた。長崎はどうか？-

2015年被爆70年を理由にオバマ大統領に平和記念式典に来ていただきたい、と言う声をよく聞くのだが、彼を受け入れる準備が長崎にはないように思えます。

人気者で引っ張りだこの田上市長、私なんかのお話に耳を傾けていただきありがとうございました（・o・）

効果はあまりないと思うけど(笑)

お話しできてよかったなー！！！！

Go back to top

No. 8 Thursday, 1 May

国連のサイドイベント会場の傍にICANによるデジタル展示があります。

タッチ式の大型スクリーンに世界地図が示してあり、一カ国に一つボタンがあって、タッチすると「その国が核廃絶に向けてどのような取り組みをしているのか」また「各声明文への署名状況」が分かります。

その日フィリピン政府との面会予定があったため、フィリピンがオーストリアプレッジに賛同していることを確認しにその展示へ向かいました。

すると中年のおじさんがなんだか楽しそうにポチポチしてました（・o・）！！

急いでるのにな～・・・内心そう思いながら近づくと、彼は「君の国どこ？」と聞いてきました。JAPAN・・・と呟くと、彼は目を輝かせ彼の知っている長崎に関する知識をもの凄い勢いで語り出しました（・o・）；；

「長崎に着たら？」と言ってナガサキ・ユース代表団の名刺を渡すと、彼も慌てて名刺を渡してきました。

私は名刺をあまり見ずに「NGO?」ときくと「かぶあめんとー」と返ってきて、もうびっくり！彼はボツワナの政府代表でした(笑)

国連って本当におもしろい！

政府の人間って遠い存在に感じていたけど、国連だと案外すぐそばにいる(笑)

話したついでに、第4回目の非人道性会議が南アフリカであることを伝え、「近いから行くでしょ?」と言ったら、なんだかこねてた(笑)

非核兵器地帯だからといって、皆が皆オーストリアプレッジに署名してあるわけではありません。アフリカもしかり。

彼の国ボツワナも賛同していません。

共同声明とは違い、オーストリアプレッジはただの1国のプレッジなので交渉はできません。オーストリア政府は「交渉できないからすべての国が賛同するなんて思っていない」とのこと。日本政府の方も「あんなの（交渉不可能なもの）に賛同するのはプライドのない小国だけだ」とおっしゃっていました。

長崎の想いとしては賛同してほしい（・o・）!!!!

でもこれが核問題でなかったら？

「食料の問題」だったら？

交渉のできないものに安々と署名する政府であってほしい？

これが最近の私の悩みの種です。

ちなみに、ICANのデジタル展示はこちらからもご覧頂けます。

<https://npt.icanaustria.at>

ps ボツワナ政府の方の話が長くて、結局フィリピン政府との面会には間に合いませんでした(笑)

Go back to top

No.7 Wednesday, 29 April

国連のロビーwith広瀬先生

更新遅くですいません

「日本政府」って誰？

昨日、日本政府の方がロビーでのんびりされていたので思い切って話しかけてみました。

彼は以前フェルーキ議長が長崎にいらっしゃった時に引率されていた方だったので、案外気軽に話すことができました(・o・)！

話した内容は、「中国ってどうなの？」といった感じです。

彼は安全保障環境が・・・難しいよね・・・所謂いつも通りのことを答えられていました。

学生相手だったからなのか、それともOFFの時間だったからなのか、「具体的に何がどうなのか？」という質問をしても、同じような回答を繰り返していました。話聞いててもしょうがないかなー(・o・)と思っていたら、なんと彼の「個人的な」長崎と中国に関する話を始められました！

彼曰く

「東京から見ると、長崎は中国にだいぶ寛容だ」とのこと。実はこれ、私たちのサイドイベントでも触れる内容なんです。日本政府代表団の彼の口から出たのがビックリでした。

私たちがサイドイベントで触れる「長崎と中国」は、日本の安全保障環境改善のために日本政府は中国にアプローチしてみればどうか？-私たち長崎市民は出島から続く長崎の土地の利を生かして市民レベルで関係を築ける、といった内容です。

それに比べて彼の言った「長崎と中国」は市民レベルの方だけだったのですが、なんだか言い方がいかにも東京の人って感じでした(・o・)

なんというか、長崎が中国に浸食されてるから、中国に寛容なんでしょ？って感じ(笑)！

確かに長崎に住んで2年の私には、日本長崎としての文化が何かと言われると何も答えられません。

しかし、だからと言って「あなたが言う程、寛容でもありませんよー！」と言うのが私の感想でした（・o・）

ただ、「長崎と中国」という話を自ら進んでされた事に、ほんの少し希望を感じました。

少し話を戻します。

ナガサキ・ユース代表団の活動を通して政府の人間の個人的な意見を聞く機会が何度かありました。

今回のように1東京の人間としての意見から、政府の方針と自分の想いのギャップに悩んでいるなど様々です。

話を聞くと、政府の人間といえども私たちと同じ個別の意見を持った人間なのだと思います。

私が話した政府の方々以外の政府の人間も同じように個人的な意見を持っていることでしょう。

ではいったい長崎でよく耳にする「日本政府」とは誰の意見を指しているのでしょうか？

NPTなど核問題を扱う国際会議の政府代表団？

それとも彼らが会議の内容を、報告する東京にいる外務省の人々？

岸田外務大臣？

もしかして安倍総理大臣？

まさか、国民全体？？？

うーむ（・o・）分からん。

この類の問題で悩んだら広瀬先生110番！

早速聞いてみると、「それが政治学の難しいところ」だとコメントいただきました。（文章が違ったらごめんなさい）

日本政府を批判することは必要だと思います。

しかし皮肉にも相手が誰なのか明確できないのはちょっと悲しいのかな・・・

なんだかまとまってないけど、これが今の私の現実。

あー、半年後ぐらいに読んだら絶対に恥ずかしいパターンだ(>_<)

ではでは。

[Go back to top](#)

No.6 Tuesday, 28 April

国連本会議場傍聴席 & サイドイベント会場

NPT2日目。

午前中は昨日と同じく傍聴。先日のデモで感じた活気や昨日の本会議場で味わった期待感はどこへやら・・・NPTが始まって2日の本会議場にあまり活気を感じられませんでした。もしかすると元々NPTを含め国際会議とは実にシンプルなもので、私が期待し過ぎていただけなのかもしれないのですが・・・

私は会議場から出て、昨日発表されたステートメントを読みました。

日本だけでなく、いくつかの国が「被爆70年」という単語をステートメントに入れていました。他にも「第二次世界大戦後70年」や「国連創立70年」といった言葉が見られました。特に驚いたのが中国のステートメント。国連創立70年の次に「70th the end of the World Anti-Fascist War」と続けていたことです。NPTで言っちゃうんだー（・o・）と思いき、かなり驚きました。ちなみに毎度おなじみのChina dreamもちゃんと入っていました。中国のステートメントはここで読めます。（英語）

http://www.un.org/en/conf/npt/2015/statements/pdf/CN_en.pdf

午後からNGOが主催するサイドイベントに参加しました。内容は「もし核戦争が起きたらどんな気候変動が起こるのか？」というもので、日本語版で何度か同じようなものを見たことがあったので、いろいろ考えながら見ていました。専門家が時間と労力をかけて調べた「核戦争による影響」を目の前で必死に説明している状況で「気候変動とかを証明しないと前に進めないような核問題にもううんざり（・ω・）そんなことしなくてもダメな物はダメじゃん！」「確かにこの問題を自分の問題だと捉える事は大事だけど、この問題自身がその問題に近づいてくる人々の関心を削いでいる！」と結構投げやりな考えに至ってしまいました。何というか、開始2日目にして先の見えないこの問題に絶望しかけていました。

プチ絶望後、bang（若者中心のNGO）の笠原はんなさんから、彼女のblogに長崎の声を取り入れたいとのことで、ちょっとしたインタビューを受けました。話した内容はblogに書いているようなことです。彼女は留学先のニューヨークの大学で原爆展を行い、そのゲストスピーカーとしてbangの方を招待したことがきっかけで今回のNPTに来たそうです。海外でこの問題に取り組んでいる日本人とお話するのは、この旅が始まって2回目。彼女を見てハワイの浅子さん達の事を思い出し、私のプチ絶望感は少し癒されました（・o・）



Go back to top

No.5 Monday, 27 April

国連本会議場傍聴席

真珠湾からblogを更新していません（・o・）

言い訳をすると・・・

私は自然が豊かな美しい場所で悲しみの歴史と向き合ってきました。

それなのにニューヨーク、ゴミだらけで車のクラクションが本当にうるさい(;・v・)

この街で多大なる損害を与える核兵器について真面目に議論しているのかと思うと何とも言えない違和感を覚えました。

私はハワイからニューヨークという環境の変化を簡単に受け入れることができず、しばらく自分が感じた事をまとめる作業を避けていました。

NPT3日目、ニューヨークにもやっと慣れ、自分の気持ちときちんと向き合うことができるようになったので今から溜めていたblogを順に投稿します（・o・）

NPT1日目。

とうとうNPT本会議がはじまりました。

まず各国の主張であるステートメントを立候補順に発表する所から始まります。各国と言ってもかなりの数があるので、これが一週間続きます。2階部分の席からそれを聞くのを所謂「傍聴」といいます。発表者と傍聴席の間はかなり距離があるので、当日券であわててミュージカルに入った客の気分がします。冗談抜きで双眼鏡が必要（・o・）！

今日は初日という事もあり、ステートメントを発表する国は主要国ばかりでした。

日本からは岸田外務大臣が来られていたからでしょうか？注目の集まる午後1番に発表していました。そしてその次にアメリカのジョン・ケリー国務長官。日本とアメリカが続いてステートメントを読むのはなんだか気持ち悪かったです。事実2人はその後仲良くワシントンに行って「2+2」閣僚会合に出席されたそうです（・o・）

岸田外務大臣が発表した日本のステートメントはここで読めます。（日本語）

http://www.un.org/en/conf/npt/2015/statements/pdf/JP_jp.pdf

この中に（会場にいる若者には議場で立ってもらおう）とあるのですが、ここでナガサキ・ユース代表団をはじめとする20名ほどの日本の若者が傍聴席で立ち上がりました。このことは事前に連絡されており、さらに私達は指定の場所に座るように指示され、立ち上がる合図を傍聴席にやって来た2人の政府関係者から受けました。実際に立ち上がり会場からの拍手を浴びた瞬間「あ、私達使われたんだ（・o・）」と思いました。というのは、今回の日本政府のステートメントは核兵器の非人道性の所で自国の具体的な政策を述べることなく、不自然な程すぐに若者の話を始めたのです。私には、最新の核兵器

の非人道性のアプローチに積極的になれていない点を若者で誤魔化していると思えませんでした。岸田外務大臣が英語でスピーチを始める直前に日本語版のステートメントが配布されたのはびっくりしました（・o・）

日本について1つ。日本政府のステートメントの冒頭部分で岸田外務大臣が自ら広島出身であることをアピールしていました。長崎広島にとっては歓迎すべきことですが、なぜアメリカとの関係を重視する安倍首相が被爆70年を迎えるこの時期に広島出身である彼を起用した理由がよくわかりません。被爆70年の重要性を認識した上で政府として具体的に動くつもりはないから、長崎広島をなだめるために広島出身の外務大臣を起用したのでしょうか？もしくは、岸田外務大臣以外に適任がいなかったのでしょうか？ぜひとも首相の意図が知りたい。

午後のマーシャル諸島の発表は冒頭で「日本の被爆者」がニューヨークまで来たことに触れているのが印象的でした。彼らが日本の被爆者に寄り添える理由はアメリカの核実験場だった過去を持ち、彼らの国にも被爆者がいるからだと思います。

マーシャル諸島がピンと来ない方でも「マーシャル諸島のビキニ環礁で行われた水爆実験に衝撃を受け、デザイナーがあのだ胆な水着をビキニと名づけた」という話を知っている人も多いのでは？（・o・）

なんとそのマーシャル諸島、核保有国を核軍縮義務違反で国際司法裁判所に提訴しています。核実験の被爆国として自国ができることを懸命に取り組んでいるのが伝わります。では戦争被爆国である日本は・・・？このことは後に書きますね。

前日に行われたデモの写真と皆が移っている写真などを一緒にアップしますね♪



[Go back to top](#)

No.4 Friday, 25 April(NY時間)

真珠湾&戦艦ミズーリ

ハワイからニューヨークに無事に到着しました。

前回のハワイblogの続きです。

アリゾナ記念館と戦艦ミズーリで見たものを紹介している途中でした。

- ・見覚えのある光景-時計&被害-
- ・戦艦ミズーリに残る傷跡-神風特攻隊-
- ・2度目の開国
- ・真珠湾で愛されている禎子さんの折り鶴

□見覚えのある光景-時計&被害-

“attack”（攻撃時資料博物館）という展示コーナーで目にしたものです。

日本の日の丸が入った零戦やアメリカの戦艦、そして不発弾として回収された魚雷の展示がありました。その奥に長崎原爆資料館でよく見かける「死体」の写真や「止まった時計」を見つけました。長崎広島原爆と真珠湾奇襲攻撃、日本では全く異なる出来事として捉えられる傾向にありますが、原爆資料館と似た展示を目の当たりにして、それらは根本的に戦争被害という面で同質の物なのだと感じ、日本が抱えている極度の「被害者意識」を考えざるを得ませんでした。

（被害面を強調する展示があった訳ではない。特に人的被害の展示は指で数えるほどしか置かれていなかった。）

□戦艦ミズーリに残る傷跡-神風特攻隊-

戦艦ミズーリ、そこで日本の降伏を証明する、降伏文書調印式が行われました。

第二次世界大戦の始まりを象徴する沈んだ戦艦アリゾナと、終わりを象徴する戦艦ミズーリは海のなかで顔を合わせています。この戦艦ミズーリは、地下部分が博物館のようになっています。驚くことに神風特攻隊の展示がありました！ここは日本なのか？となんだか変な気持ちになりました（・o・）

神風特攻隊の展示の由来は、1機の神風特攻隊が沖縄海域で戦艦ミズーリに衝突（攻撃）したところから来ています。その零戦は衝突直後にボロボロとなり、後方部が搭載していた爆弾と一緒に海へ散り、前方部だけが戦艦アリゾナに落ちてきました。そのせいで火災が起きましたが3分程で消されたとのこと。水兵が掃除に取り掛かろうとすると、零戦操縦者の上半身のご遺体が見つかりました。

敵の死体。水兵達がそのまま捨てようとする、船長が水葬（水兵の正式な葬式）をするように言いました。水兵達が反発すると、「いくら敵と言えども、戦艦ミズーリにここまで近づけた操縦技術と国のために命を顧みず勇敢に戦った姿勢は尊敬に値する。私

は船長としていつか君たちにそのような命令を出す日が来るかもしれない。その時は彼のように勇敢であってほしい。」と船長が答え、水葬をすることになりました。零戦の操縦者のご遺体は一晩戦艦ミズーリで過ごすこととなりましたが、その晩一部の水兵達があり合わせの布を縫って当時の朝日国旗を作り、水葬の際にご遺体にかけてそうです。

素敵な話ですが、このような類の話は決して戦争を美化するものではありません。

人は誰しも悲しみを経験しているから戦争被害者（原爆などによる一般人の被害者）のことを自分と同じ人間だと捉えることは簡単です。でも兵士（加害者）を自分と同じ人間だと捉えることは難しいことではないですか？難しいというよりあまり気が乗らない？しかし戦争を考える上で、自分は当時の兵士と同じ人間で、自分も加害者になる可能性があることを認識する必要があるのではないのでしょうか？戦争中の加害者間の人間らしい話を聞くことで、彼らが自分と同じ人間であることが理解できるのではないかと思いました。

現在も衝突による船のゆがみが残っています。写真を載せておきますね（・o・）

□ 2度目の開国

東京湾に錨を下ろした戦艦ミズーリ。そこは降伏文書調印式の会場となりました。この場所、実はペリーが2度目に浦賀に来た時と同じ場所なんです（・o・）！アメリカは2度目の開国を日本に求める、というスタンスだったのでしょう。それを象徴するように、アメリカ側は本土から「ペリーが黒船で実際に使用した国旗」を取り寄せ、それを掲げていました。その話をガイドの方から聞いた時、アメリカがそのような演出をしたということに当時の日本との圧倒的な差を感じ、なぜこのような演出をしたのか？という問いですら考えたくなくなりました。

この降伏文書調印式にはもう一つ秘話があります。この場に登場した日本代表団の中には、命の保証が無いかもしれないと、遺書を書いて臨んだ方もいました。彼らが戦艦ミズーリに到着すると、そこには溢れるほどのアメリカ兵が待ち構えていて、さらに日本代表団が通る道には身長180cm越えの体格の良い人がぎっしり並んでいました。敗戦国という負い目と物理的な身長差のため、日本代表団の歩くスピードはアメリカ側が考えていたよりもだいぶ遅かったそうです。このとき通訳として日本代表団に入っていた方は「こんなにも人の視線が怖いものだと初めて知った」と回想されています。

（重光葵の義足の件はアメリカ兵の足にデッキブラシを括り付け、何度も何度も歩かせて4分程あれば机までたどり着くことを計算していた。そのため6分前に日本代表団を戦艦ミズーリに乗せた。*戦艦ミズーリでの日本語ガイドの説明より）

このような状況で始まった降伏文書調印式、日本政府代表団は「自由と寛容と正義の精神」という言葉の入ったマッカーサーのスピーチに驚きを隠せなかったそうです。通訳の方は後に回想録で「自分の耳を疑った。もし自分達があの立場だったら同じことが言えただろうか？」と記しているそうです。（*戦艦ミズーリでの日本語ガイドの説明より）原爆のことばかり勉強している私にとって、その後の話を聞くのはとても新鮮でした。ガイドさんの話や日本に関する展示から当時の日本が国としてどのようなものだったのかを垣間見ることができました。そして、当時の日本に「自由と寛容と正義の精神」という概念を理解するのに困難があったことに虚しさを覚えました。

□真珠湾で愛されている禎子さんの折り鶴

ハワイから書いたblogのほとんどに出ている禎子さんの折り鶴。

実際に見てきたので、写真を載せますね（・o・）

折り鶴は小指の先程の大きさで、ガラスケースのペトリ皿の上で力強く、しかし可憐に佇んでいました。

関連のお土産もたくさん販売されており、そしてそれを購入しているのが日系人だけではないことから、彼女の折り鶴は真珠湾にきちんと受け入れられていて、そして愛されているのだと感じました。

長崎では海外の人が原爆を知らない事に驚き、知らせようとかむしゃらに頑張っている方々をよく目にするのですが、以前から説明仕様のない違和感を覚えました。今回の真珠湾訪問でその違和感がはっきりしました。自分達の持つ悲しみを感じてほしいのであれば、自分も相手の悲しみを受け入れなければならない。それは想像するよりずっと難しく、しかしその先には思いもしなかった平和への突破口が現れる、私はこう思いました。まだ上手く説明できないのですが、このことをユース代表団の仲間やRECNAの仲間達と少しずつ話していきたいです（・o・）

長崎を違う視点から見る事が出来ると思い真珠湾を訪れたのですが、結果的に長崎だけではなく、日本を違う視点から考え直すことになりました。

NPT前に真珠湾に来ることができて本当に良かったです。

この経験は私に大きな「何か」を与えてくれました。

その「何か」は明日から始まるニューヨークでの活動を通して見つけます。

宿泊から送り迎えまでお世話をしてくださったピーターソン先生、

真珠湾を案内してくれたジャッキー小島さん、

初日に交流してくださったジェイミー小畑さんとアダム・コールドレンさん、

ピーターソン先生を紹介してくださった小泉さま、

その小泉さまを紹介してくださったRECNAの中村桂子先生。

このような素晴らしい機械を与えてくださってありがとうございます。

心から感謝いたします。



[Go back to top](#)

No.3.5 Friday, 24 April(ハワイ時間)

真珠湾&戦艦ミズーリ

前回のblogに大切な写真を付けていませんでした。

ごめんなさい。搭乗ギリギリであたふたしていたんです(・o・)

アリゾナ記念館の死没者名簿の写真とアリゾナ記念館から戦艦アリゾナを見下ろした写真などをここにのせますね。





[Go back to top](#)

No.3 Friday, 24 April(ハワイ時間)

真珠湾&戦艦ミズーリ

Aloha!

本日ハワイ最終日。

ピーターソン先生とプナハウschoolで署名を集める予定だったのですが、諸事情でキャンセルに(・o・)

それからお世話になった先生とお別れして、今はハワイ空港で飛行機を待っています。

少し時間があるので、前回のblogに書ききれなかった「真珠湾で私が見たもの」をここに書きます。大きく4つに分けてみました(・o・)!

(ネーミングセンスが悪くてごめんなさい・・・)

- ・今も生きている戦艦アリゾナ
- ・見覚えのある光景 (時計&被害)
- ・戦艦ミズーリに残る傷跡-神風特攻隊-
- ・2度目の開国

□今も生きている戦艦アリゾナ

戦艦アリゾナとは、日本軍による真珠湾奇襲により負傷し、今でも真珠湾に沈んだまま保管されてある戦争遺構のことです。

アリゾナ記念館とは、その沈んだ船の上に十字架を描くように建てられた白く細長い建物のことです。ここに行くためにはボートに乗ります。

戦艦アリゾナから今もなおオイルが流れ続けていることは有名ですが、実際に見るとかなりの衝撃を受けます。

オイルの模様が次から次ぎに変化しているのです。

それは皮肉な程、美しいものでした。

この建物「悲しみ」のデザインは一切入れられていません。それは感じるものだから省いたのだとパンフレットにありましたが「省いた」というよりそこ（底）にあるから余計な手を加えなかったのではないかと思います。

建物の奥に死没社名簿があります。両サイドには生命の木と呼ばれる彫刻が施されており、太陽の光がそこから差込、戦没者に温もりを与えているようでした。

写真では伝わらないのですが、実話ここオイル臭いがとてもきついんです。

美しい空間のオイルの匂いが、過去の出来事を私たちに語っていたのです。

残りの3つは飛行機の中で書いて、ニューヨークに着いたら投稿しますね！



[Go back to top](#)

No.2 Thursday, 23 April(ハワイ時間)

真珠湾&戦艦ミズーリ

Aloha!

今日は真珠湾にあるアビジターパークとリゾナメモリアル、そして戦艦ミズーリに行ってきました(・o・)! 昨日一緒に夕食を食べた、ジャッキー小島さんに案内していただきました!

長崎原爆資料館に多くのアメリカ人が訪れているのを肌で感じていたため、自国が被害を与えた場所に行く、という行為自体には全く違和感を感じていませんでした。しかし開園前からずっと並んでいたため、周囲のお客さんとの距離感が変わらない時間が15分程あり、どうしても周囲に目が行ってしまいました。私の周りにはどう見ても日本人（アジア系）ではない客さん達ばかりで、なんとというか、「私は日本人だけど大丈夫かな・・・」「もう日本人ってばれたかな？」「これからNPTに行くのに悪い影響うけないかな・・・」などという不安でいっぱいになりました。

長崎ではアメリカ人を含めた外国人観光客に長崎を訪れてほしい、という風潮がありますが、実際自分がその立場になった今、そう簡単なことではないのだと痛感しました。

それからジャッキーさんのおばあさんの事前の交渉により無事にチケットを入手した私達は、時間を忘れ、時には意見を交わしながら展示物に見入っていました。

見ているうちに展示物が被害面だけではないことに気がつきました(・o・)!

アリゾナ記念館にも戦艦ミズーリにも

真珠湾奇襲前の日米の歴史（ペリーの時代から）、当時の世論、真珠湾奇襲をした元日本兵の動画、戦死者の出なかった戦艦ミズーリに傷跡を残した神風特攻隊、降伏文書署名に関する秘話、広島原爆、佐々木禎子さんの折り鶴、当時の日本兵の所有物

といった展示があり、しかもお土産屋さんにも関連した商品があり、それらは展示物の1つとしてきちんと受け入れられていたのです。

禎子さんの親族の願いを受けトルーマン大統領のお孫さんが率先して活動されて真珠湾による禎子さんの折り鶴を受け入りが実現した、と前回のblogに書きましたが、受け入れ成功のカギはトルーマン大統領のお孫さんだけではなかったようです。もう一つのカギはタイミングでした。

ちょうどその時期、真珠湾では「戦争によってどんな結果がもたらされたのかを日米両国の立場から見直し、『和解』というテーマに焦点をあてて、活発なディスカッションや交流がおこなわれる企画を提供する*」という活動に力を入れ始めた時だったのです。
*奇跡はつばさに乗って（源和子作）より

ピーターソン先生曰く、それにより3年前から展示内容が変わってきたようです。

なんだか長くなっちゃったので、続きはハワイ出発報告と一緒にしばらくしてから書きますね(・o・)!



[Go back to top](#)

No.1 Wednesday, 22 April(ハワイ時間)

ハワイ:ピーターソン先生宅

Aloha!

驚く方も多いと思います。

私は現在ニューヨークではなくハワイに来ております。

ニューヨークに行く前にハワイを訪れることは、ナガサキ・ユース代表団の志望動機書を書く段階から決めていました。

なぜハワイなのか？

それは長崎を違う視点から考えることのできる真珠湾の存在に惹かれたからです。

現在長崎は平和都市として成り立っていますが、戦時中は軍事都市として機能していました。長崎で作られた魚雷がハワイの真珠湾攻撃に使用されたという話がそれを象徴しているのではないのでしょうか？

まあ堅い話はおいといて・・・(・o・)

今日の出来事について紹介したいと思います。

計画当初は思ってもいませんでしたが、RECNAの先生の素敵なコネクションのおかげで、ハワイで原爆関連に関わっている方々と交流を持つことに成功しました。

去年までプナホウschoolで日本語教師をされていた、ひろみピーターソン先生。（先生のお宅に泊まらせていただいています(・o・)）

その先生の最後の教え子であり、現在ハワイ大学で勉強されている、ジャッキー小島さんとジェイミー小畑さん。

彼女達の友達で、ハワイ大学院でアジア（主に日本）の研究をされている、アダム・コールドレンさん。

長崎出身であり、ハワイで原爆展を1人で始められた、浅井真砂さん。（子供さんが大学生）

彼らと一緒に手巻き寿司を片手にたくさんのお話をしました。

□特に印象的だったものを紹介しますね。

- ・ You did it first.からの大きな変化
- ・ 心のケアのない被爆講話は暴力である

□You did it first.からの大きな変化

これは浅井さんがハワイの小学校の歴史の授業の自由研究で原爆について話し始めた瞬間の出来事です。担当の先生が血相を変えて一言。

「You did it first.」（日本が先に真珠湾に戦争を仕掛けてきたということ）

当時の浅井さんは驚き、口をつぐんだそうです。

今日の浅井さんは当時のアメリカは原爆に対して極力触れたくなかったのでは？と回想されていました。

そんなアメリカに変化が起きました。

日本で平和の象徴とされている千羽鶴が広島原爆による白血病で亡くなった佐々木禎子さんが病室で作り続けた折り鶴に由来していることをご存じですか？

日本では知らない人も多いと思いますが、アメリカでは授業で用いる副読本に彼女の話があったり、禎子さんのお兄さんや甥っ子さん（佐々木雅弘さん、裕滋さん）が熱心に活動されたりしているので、案外知られているようです。

そんな禎子さんの折り鶴、なんとここ真珠湾にあるアリゾナ記念館に展示されているんです！

今から約3年前の2012年の夏、

原爆投下を命令したトルーマン大統領のお孫さんが長崎と広島での平和式典に出席されました。それだけではなく、彼は被爆者のお話を聞いたり、日本の高校生達との交流も持たれたそうです。

そんな彼に禎子さんのお兄さん達が「真珠湾に禎子さんの折り鶴を寄贈したい」とお願いすると、すぐに協力してくれたそうです。

自国が被害を受けた場所に自国が被害を与えたことを意味する展示をすることに、なぜ彼は協力したのか？彼にはこんなエピソードがあります。

彼は来日したとき、広島の高中生から「日本は敗けると分かっていたのに、なぜトルーマン大統領は原爆を落としたのか？」という質問を投げかけられました。

私は現在被爆地で生活しているからでしょうか、全く違和感を感じません。

それに対して直接的な回答はされませんでした。

しかし冷静に考えると、彼にそのような事を聞いたところで何も良い方向に変わりません。むしろ憎しみが増えるでしょう。

彼はお互いが非難し合っては平和は作れないことを理解しており、事前に佐々木さん達とその質問には答えないことを話し合っていたのです。

非難し合っては平和はつくれない。この想いが真珠湾に禎子さんの折り鶴を受け入れることにつながったのではないのでしょうか？

No more Hiroshima (Nagasaki). といえばRemember Pearl Harbor. と言う。

禎子さんの折り鶴受け入れは、いつまでも平行線を辿っているかの様に見えた両者の主張の、架け橋になっているのでは？と感じました。

またその架け橋は長崎と広島が「非難し合っては平和はつくれない。」という概念をきちんと理解し、それを目に見える形で示すことで、初めて完成するのでは？とも思いました。

□心のケアのない被爆講話は暴力である

これも浅井さんのお話です。

彼女、実は被爆2世なんです。

なんというか長崎にいと、被爆2世の方々＝使命感にあふれていて、力強い発言をされる方というのが頭に染み込んでくるのですが、彼女を見ていると全くその様な感じがなかったのです、言われるまで気づきませんでした。

思い切ってそのことを話すと、思い出話をしてくださいました。

浅井さん小学生の頃、少しだけ長崎にいたようで、いわゆる平和教育や、8/9の全校集会を経験されています。8/9の全校集会で「毎年毎年」学校の先生方がソ連などに核実験への抗議文章を送ったことを紹介しているのを聞き、抗議文を送るだけに甘んじていてそ

の先を考えない姿勢に嫌気がさしたそうです。

そのような先生方と被爆講話を聞いたり原爆資料館に行ったりしたとき、小学生の浅井さんが精神的にきつくなっても、物理的に嘔吐などをしない限りそのまま何もしなかったそうです。

ハワイに戻りボランティア活動を通して、人に幸せを与える素晴らしさを学び、それから父親の死をきっかけにハワイで原爆展を行うことを決めたそうです。

浅井さんはハワイの人達に原爆展を1度見るだけではなく、興味を持ち続けてもらいたいと思い、ボランティアで学んだ、人に幸せを与えることを年頭に置き、原爆展の企画に取り組まれたそうです。

その結果、日本で行われている原爆展とはだいぶ異なったものとなりました。

浅井さんが工夫されたことは被爆講話（おそらくビデオ）の後はきちんと心のケアを行ったこと、原爆に対して被害者意識のない（あたりまえですが）アメリカ人が原爆のことに興味を持ってもらうために、「被爆」より先に「核実験」をキーワードとして挙げたこと、そしてそれらの情報源を科学的知見に基づいたデータにしたことです。戦争を知らない若者に効果的だったとおっしゃっていました。

これはアメリカ向けの工夫ですが、被爆者なき日本（世界）で十分に力を発揮するものだと思います。

* ここでいう科学的知見とはこの動画のような感じです。

<iframe width="420" height="315" src="https://www.youtube.com/embed/ykW_2YRQOpE" frameborder="0" allowfullscreen></iframe>

この原爆展を開催するために、浅井さんは広島や長崎の知識人達1人1人にデータの使用のお願いをしたそうです。その中で熱心に相談に乗ってくださった方が、私がいつもお世話になっているRECNの中村桂子先生だったそうです。市民の力の大切さを理解されているのだと、改めて桂子先生を尊敬しました(・o・)!!!

まだまだ書きたい事があるのですが、かなりの長文になってしまったので今日はここまでにします。

明日は真珠湾と戦艦ミズーリに行ってきます！





[Go back to top](#)

No.0 Friday, 22 April(日本時間)

成田国際空港

今日長崎から出発した、ナガサキ・ユース代表团3期生の川崎真由です。朝から出発して、ようやく成田国際空港に到着しました！

今はこれから始まるであろうナガサキ・ユース代表团としての素敵な経験に思いを巡らせ、心を弾ませています！

そのナガサキ・ユース代表团とは、ニューヨークの国連で開催される「NPT（核不拡散条約）再検討会議」への積極的参加を行う長崎の若者の団体のことです。（詳しくは公式HPをみてください）

ここでは「私から見た」ナガサキ・ユース代表团3期生の全体像を紹介します。

<出発前>

- ・過去のステートメント（国連で発表する各国の主張）での勉強
- ・核問題に取り組んでいるNGOの方々や外交官の方との勉強会
- ・NPTフェルーキ議長との意見交換
- ・国連内でナガサキ・ユース代表团が行うイベントの準備
- ・国連内外で他のNGOが行うイベントでのスピーチやプレゼンの準備
- ・いろんな人に平和についてメッセージをもらいアート作品にする準備

などなど・・・

<アメリカ滞在中>

- ・ 本会議の傍聴
- ・ 各国政府との交流
- ・ NGOが国連内で主催するイベントへの参加
- ・ イベントでのスピーチやプレゼン
- ・ アメリカでも平和についてのメッセージをもらい、日本のものと合わせてアート作品を作成する
- ・ ドイツ人学生とのディスカッション
- ・ 日本人学校での授業
- ・ 国連内でナガサキ・ユース代表団が主催するイベント
- ・ 会議のない土日に核兵器や戦争関連の博物館などへの訪問

などなど・・・

<帰国後>

- ・ 長崎大学での一般向け報告会
- ・ 長崎県・長崎市・長崎大学への報告
- ・ なんらかの形で核なき世界の実現のための活動に関わっていく（募集要項より）

私が今思い出したものだけを列挙したので他にもまだあると思いますが・・・それはこれから更新される各メンバーのblogを見てチェックしてください♪

私個人はナガサキ・ユース代表団として、この中の活動の一部に取り組みます。取り組む内容はこれから順を追ってこのblogで報告します。

とにかく自分に出来ることを毎日こなしていこうと思います。どうぞ温かく見守ってください♪

それではいってきます(^O^)!!!!

日中首脳会談が気になるなあ・・・

[Go back to top](#)

[このページのトップへ](#)

長崎大学 核兵器廃絶研究センター (RECNA)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015/minami-blog-2015

Minami's Blog 【feeling】

No.9 Sunday, 3 May

日本に帰国する。昨日は、9.11ワールドトレードセンター跡地を訪れ、予想以上の大きさ、人の多さに驚いた。ここで、この場所で、飛行機がビルに...と想像したとき怖くなり途中で考えることをやめてしまった。

想像する。

その場所で想像すると思わぬ怖さに襲われた自分にびっくりした。

もしかしたら、長崎を訪れる外国の方もこのような気持ちになるのだろうか...。想像することを無意識に避けていたものも、現場を目の前には見ざるをえない。一気に押し寄せてくるものがあると思う。

それでも...色んな人に長崎にきてほしい、と思う。ここに“生きていた人達がいたこと”に想いをはせてほしい、と思う。

2回目に参加させて頂いたユースでの活動は1回目とは見え方が違うことが多かった。日本政府に対する見方も、被爆者の方に対する見方も、平和に対する捉え方も。

でも、NPTの会議場には昨年と変わらず“動いている世界”と“人の想い”があった。核軍縮や不拡散という難しいテーマであり、国家の安全保障に関わる大切な問題。しかし、淡々と流れる外交交渉の中にも“人の想い”が溢れていた。

NPTは一つの条約でしかないが、これは常に動いているものだと思う。決して止まることなく、いつも動いている。“人の想い”とともに。“人の想い”と共に動いているから、これからも動き続けるだろう。外交官はロボットではない。人だ。2期生で見えるものが変わったのはこれに気づいたことが大きい。国家の問題だからどうしようもない、わけではない。外交交渉に関わっているのは人だ。だから、非人道性の問題も議論の場が上がってきたのだと思う。今回の再検討会議後、新たな法的枠組みができるのか、前進が見られるかはわからない。少なくとも後退だけはしないよう、しっかりと見守りたい。

支えて頂いた本当に沢山の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

p.s今年も帰国したらすぐに蕎麦をたべます

[Go back to top](#)

No.8 Saturday, 2 May

午前:アポリッションコーカス

ガバメントブリーフィング(メキシコ)

bangのサイドイベント

本会議傍聴(核軍縮)

午後:NGOプレゼンテーション

ばってん会

プロジェクションマッピング

♪NGOプレゼン♪

午後から会議場でNGOプレゼンテーションが行われた。会場は、昨年再検討会議が行われたところだ。傍聴席から会場に入ると、議場内の空いている席であればどこでも座っていいと言われた。わーい(^w^)外交官が座っているところに座れる...ん？政府の人は？？本会議場より小さいはず...なんでそんなに空席が。会議場は日本人が多かった。普段は、同時通訳も英語、フランス語、スペイン語...などだが、この時だけは、日本語もそのなかの一つに加わる。このなかにもどのくらい政府関係者がいるのか興味深いけど...よくわからない。日本政府、ニュージーランド政府の関係者は参加していた。どのような気持ちで聞いているのだろうか。若者からのスピーチは長崎に留学にきていたサムソンも行っていた。NGOスピーチは、各方面から、核兵器廃絶の必要性を訴えていた。被爆者や田上市長のスピーチもそのなかには含まれていた。被爆者の訴えは、やはり強い。気迫がある。あと数年後ここでスピーチをしているのはだれなのだろう...。被爆者の思いを、科学的根拠がさらに強く後押ししているように見えた。議場で動かされていたものは、“人のこころ”だった。ニュージーランド政府は、被爆者に対し、“最後の力を振り絞って我々と会ってくださる機会を作ってください”と述べていた。そこにはあたたかい空気が流れていた。

数年後、この場で被爆地の若者がスピーチの一人に加わっていたらいいな～

psばってん会の皆さんありがとうございました！！

p.sすごい人から学んできたんだな...と思った。ありがたい。長崎でなんとなく学んできたことが生きている。わかる。つながる。そして、いまそれが目の前で起こっている。動いている。

写真撮影を求められていたのにはさすがに...笑いがー。

Go back to top

No.7 Thursday, 30 April

午前:ガバメントブリーフィング(アメリカ)@C

平和首長会議@C

午後:ニューヨーク育英学園訪問

♪平和首長会議♪

今日は、本会議...ではなく会議場の外へ...外へ。NGOルームで行われた平和首長会議に行った。高校生の熱いand初々しい訴え...そして、ユースの仲間のカッコよすぎる発表。広島の高校生たちをみると、“ヒロシマ”というプライドと責任を感じる。私が伝えなければ！継承しなければ！と。んーすごいなあ...と圧倒された。

♪ニューヨーク育英学園♪

今日は、午後からニューヨーク育英学園に行った。最近、頭が凝り固まっているなあ...と感じることが多かった。ニューヨークに来る直前に、育英学園に行くことを決めた。原点に帰って、全く違う刺激を受けたいとおもった。

育英学園は、明るく伸び伸びとした環境だった。思ったことはたくさんある。ツッコミも鋭かった。

長崎のきのこぐもの写真を見た子供達に自由に意見をいうよう求めると、“ブロッコリーみたい”という意見が出た。それもひとりではなかった。おーなるほど。とおもった。いい！いいよ！という気持ちだった。大人に押し付けられるのではなく、自由な発想のなかで、様々な事実に対する自分の気持ちに素直に答えていくなかで、核兵器にたいする思いを築いていくことが理想だとおもう。長崎に住み、私も様々な刺激をうけた。と同時に、“ナガサキ”ということに圧倒...圧迫されることもあった。徐々に自身の意見や疑問をストーリーに伝えることに抵抗を覚えるようになった。被爆者の思いをつなぐことは大切。継承は重要。でも、全ての若者が担わなければならないわけではない。その選択を選ぶ権利は私たちにある。ナガサキで育ち、平和教育を受け、大学になると離れていく若者も多いように感じる。押しつけるのではなく、自らの自由な選択のなかで自らの視点で平和を捉え、伝えていくことを許せるような環境が、この問題への関心、さらには今後の継承にも大きな影響を与えるような気がするな...

Go back to top

No.6 Thursday, 30 April

♪CNS♪

昨日、本会議後CNS主催の食事会に行ってきた。てっきりアメリカ人が多いのかと思っていたら、最初に話した人はアメリカ人だったものの、つぎは韓国人、その次はインド人、そして日本人！

CNSは核軍縮を専門に勉強する研究センターらしい。そこに通っている日本人とはなしていた。日本の核政策についてどう思うか、NPTをどのような視点でみているのか、CNSでどんなことをしているのか、外務省など政府の中からのアプローチとNGOなどの外からのアプローチをどう捉えているかなど話をした。

核軍縮問題はおもしろいですか？と聞いたとき、彼女は満面の笑みで

おもしろい！本当にこの道に進んで良かったともう！

と話していた。おもしろいと話す彼女をみて嬉しかった。(もちろん次元は違うのだが...) 私もこの問題の動きがとてもおもしろいと感じている。おしたり、ひいたり、時には小学生の喧嘩や、いじめのようにも見える動きもあって...“外交”というとても難しく、感情というよりは学問的なことをやっているのだと思うが、人と人とのやり取りのような温かみやとげとげした発言がみてとれることもある。淡々と進んでいるように見えるが、ここにいると感じることは多い。

彼女に率直に感じていたことをぶつけた。

非人道性の動きがなぜ今更注目されるようになったのか、非人道性の動きやNACの新しい枠組みの動きもあるが非核兵器国の国が頑張りただ枠組みだけが増えていってしまわないか不安であることなど。非人道性の動きの高まりは2010年以降のトピックであるが、私はそんなこと、前からだれが考えたってわかっていたはず...なぜ今更高まっているのだろう、と感じていた。CNSの彼女によるとやはりオバマさんのプラハ演説を含む、アメリカの軍縮関係の偉い人の発言から流れがきていると教えてくれた。またもやアメリカか...

NPTは多くの矛盾や不平等性を抱えていることを勉強した。(そもそも、この世界のいろんなことが不平等だと思うのだが...国連の常任理事国とか)NPTではこの不平等性をマイナスな側面から聞くことが多いが、実際は、この不平等があるために成り立っていることも多いように感じる。今回の話だってそうだとおもう。プラハ演説がオバマさんだったから影響力も強かったわけで。今まで築いてきた歴史や他国との関係性って大事だなと思う。(これがあるから、むずかしい。)

彼女は日本政府のステートメントについて、日米安保がある中でどの程度強い言葉で核軍縮をアピールできるかだと思う。とはなしていた。そういう風に見たことはなかったな...言葉のチョイス。日本のステートメントをもう一度読み直してみようとおもう。

もっと英語ができれば、もっと深い話が海外のひとともできるのに...。メンタル!!

P.s長崎にもこんな素朴な、率直な疑問を気軽に話せる核問題を専門に勉強している学生がいればいいのにな～

Go back to top

No.5 Wednesday, 29 April

午前:アポリッションコーカス@C

ガバメントブリーフィング(イギリス)@C

会議傍聴@M

昼:広島サイドイベント

午後:会議傍聴@M

♪NPTはどう進むのか♪

ここに来る前、長崎でステイブンリーパーさんとお話しすることがあった。そのとき、私は真っ先にこう質問した。“今後NPTはどうすすむとおもうか、限界を迎えているのではないか”と今回、メンバーの中にも同じようなことを感じている人がいるように感じる。リーパーさんは、昨年NPTについて、“原発を認めているからね...”と話されていた。今回のNPTは果たしてどんな新しい動きが見られそうなのか、画期的な変化が望めそうなのか、ニューヨークに来る前に分からなくなった。NPTは多くの問題点を抱えていると先生にもきいた。では、NPTは終わりか...と考えるとそうではないとおもう。この条約がなければ...もっと状況は悪化していた可能性だってある。このことを踏まえた上で、では、今後NPT外の他のどんな取り組みが必要なのか、ここで私たちができることとはなんなのか。リーパーさんは、NPTはこのままいくだろう。大切なのは周りを盛り上げていくこと。一般市民が興味をもっていくことだと言った。対人地雷禁止条約のときのように、周りから固めていって、持てないような社会を作っていくことが大切といていた。

デモに参加したとき、ひとつ疑問に感じたことがある。“一体これは誰に向けてやっているのか”ということだ。日本だと、国会議事堂の前でやるなら議員さんに届く可能性があるから、政治に直接影響を与える可能性が高いかな...などとおもっていた。しかし、デモの最終地点は国連前であったが、当日は日曜日で休日。本当に一般道をおもっていた。だれに伝えたいのかな...。今、このことを思いだしたが、一般の人に関心を持ってもらうためなら大きな意味があるかもしれない。わざわざ日本から100人は軽く超える人々がニューヨークにきている。命がけでニューヨークに渡米した人もいる。メディアも日本のひとが多く、本当にニューヨークのひとにとどいているのかな...と疑問が残る。いや、届いていてほしい。今日、同じホテルの人から、デモの様子が新聞に載っていたと聞いた。お！どこの新聞社だろう！こちらではどのように報道されているのかとても興味深い。

Go back to top

No.4 Wednesday, 29 April

午前:アボリションコーカス@C

ガバメントブリーフィング(ニュージーランド)@C

会議傍聴@M

昼: モントレーのパネルディスカッション見学

午後:会議傍聴@M

おはようございます。

♪ニュージーランド♪

昨日は、朝からアボリションコーカス後ニュージーランドのガバメントブリーフィングに参加しました。ガバメントブリーフィングは、NGOが借りている部屋(会議室のようなところ)に政府関係者を呼んで、NGOと政府関係者が直接話ができる時間のことです。今回話題に上がっていたのは、ワーキングペーパー8と9について...内容は難しい...法的枠組みを作る...というような話なのはわかったけどー。ワーキングペーパー8と9ってな

に??...ハテナだらけだったのでランチタイムに先生に解説をおねがいして...ニュージーランドが所属しているNACというグループが、これからどうやって核軍縮等を進めていくかという提案のなかに4つくらい案があり、そのなかの一つがワーキングペーパー9だということまではわかりました。その案というのは、とりあえず枠組みをつくって動き始めよう!というものだということ。これから、つづきの解説をきいて深めます...

♪NPDI♪

今日の一般演説ではNPDI諸国がたくさん演説をしていました。ナイジェリア、カナダ、UAE、オーストラリア、ドイツ、フィリピン、トルコ...。日本の核政策のひとつのキーワードは“step by stepアプローチ”ですが、NPDIの国のなかにも同じワードを使用している国がありました。NPDIは、ひとつのグループで、去年は広島でその会議が開かれたことでも話題になりました。NPDIは、日本とオーストラリアが先頭を切って作ったグループです。そのこともあり、私は、NPDIはてっきり核の傘の下にある国の集まりであると思っていました。しかし!これはまったく違いました。2010年のアクションプランをきちんと行うためにできただけのグループだったようです...。難しいー。知らなきゃいけないことがたくさんあります!

私は、NPDIは核の傘の下にある国の集まりだと思っていたので、どうしてメキシコやフィリピンは非核兵器地帯に入っているのに、プレッジへの参加も表明しているのに他の核の傘の国は入らないのだろう...日本にもあらたな希望が...とおもったのですが、そんなに甘くはないですね...。

♪おばちゃんandおねえさん♪

今日、ガバメントブリーフィングのときに驚いたことがあります。ニュージーランドの代表は女性!彼女が連れてきた仲間も女性2人と男性1人。遅れてきたメキシコ政府の人が到着したときには、まるでランチに遅れたママ友の会話みたいな...普通のおばちゃん。真っ黒のスーツではなく、ショツツキングオレンジのジャケットを着たり、おしゃれな仕事着に身を包み、NGOと真剣な話を、難しい話を、時にはポップに話していました!NACの国々...本当に仲が良かった!

本会議が始まって、今日は女性のオンパレード★ニュージーランド、ルクセンブルク、フィリピン、オーストラリア、デンマーク、ナイジェリア...議長も女性で、その横の国連軍縮問題高等代表も女性!ベージュのスーツに、緑の服、色も鮮やかでしたよ~

p.s英語もっとわかりたい...

↓早く着き過ぎてだれもない議場...



Go back to top

No.3 Tuesday, 28 April

午前:会議傍聴@M

昼:マーシャル諸島に関するサイドイベント@C

午後:会議傍聴@M

♪おはようございます♪

朝国連内を迷子...すると目の前に去年の議長ロマンモレイさんが！！去年非核兵器地帯に興味をもつきっかけを作ってくれた一人です。元気が湧いてきました！さて、いよいよ会議が始まりました！去年よりも広い部屋でした。

♪非核兵器地帯♪

まず、中東の非核地帯に関する話から...ほぼ全ての国が中東の非核地帯について触れていました。中東の非核地帯・非大量破壊兵器地帯に関しては、2010年の合意文書のなかで2012年に開催することが記載されていました。しかし、中東の情勢の悪化などのため開催が延期されました。現在も、中東非大量破壊兵器地帯の実現にはいたっていません。このことに関しては、どの国も強い関心を持っていることが伺えます。多くの国が、非大量破壊兵器地帯の実現にむけてサポートしますと発言していました。また、中東の非核化の動きのなかで、どの国が鍵となっているのか、どこに突破口が見出せそうか、中東以外のどこの国が強くなりリーダーシップを取れそうか、イランのみならず、周辺諸国の国の動きにも注目していきたいとおもいます。

♪マーシャル諸島♪

マーシャル諸島は去年の核保有9カ国(米、露、中、英、仏、パキスタン、インド、北朝鮮、パキスタン)をICJ(国際司法裁判所)に提訴しています。このなかには、核保有が疑われている国も含まれています。なぜ提訴したのかというと...簡単に言うと核軍縮をちゃんとしていないじゃないか！それはNPTの条約違反じゃないか！ちゃんとしなさい！ということです！NPTの第6条には“核軍縮に関して誠実に交渉する”との記述があります。(誠実に...条約等を読んでいるとこのようなあいまいな、何通りにも解釈できるような言葉に遭遇することがよくあります...むずかしい。)

昨年のNPTステートメントのなかで、マーシャル諸島がこの内容に触れたとき、私が傍聴をしていたなかでは、一番盛り上がった瞬間だったように思います。今朝のサイドイベントのなかでは、マーシャル諸島が起こした裁判の現在の進行状況について、今後期待される展開についての発言がありました。現在進んでいるのは、このなかで3つ。イギリス、インド、パキスタンに対する裁判のみです。今後どのように他の6カ国と裁判を進めるのか、また、マーシャル諸島に賛同し、ともに裁判を起こす国がでてくるのか注目です！

午後のマーシャル諸島のステートメントのなかでは、特にこのことに言及する発言は見られなかったものの、ビキニ沖で被曝した話などを交えながら、被爆者は今もなお苦しんでいることや、非人道性の話など、昔核実験場であったマーシャル諸島ならではの強い訴えがあったように思います。

Go back to top

No.2 Monday, 27 April

午前:国連の入場許可？申請

午後:デモ行進に参加、国連前の公園にブースを出す

日曜日は、核兵器廃絶に関するデモに参加しました。

デモを実際に見ることも、参加することも初めてだったので何もかもが新鮮でした...

何より驚いたことは、若い人が多いこと！日本人が多いこと！

行進する前に、様々な国の人がスピーチをされました。ステージのすぐ近くでそれを見たとき、足元がぞくぞくするような感覚になりました。(広島市の松井市長もスピーチされました。)私が特にぞくぞくしたのは、ドイツのブラウン？さんの発言でした。

Let us taking a work everything for peace,peace is our future, peace is our vision,vision come to a reality.

という発言です。(英文に起こしたものにミスがあったらすみません。)

平和とは、ビジョンであり、それは～現実になる。と。力強く彼がそう言ったとき、すごい...と思いました。ことばがズトンと落ちてきました。

そして彼は同時にこうも言っていました。

let us trusting any goverment .

自らがちがう！と思うことを訴えることは時には必要だとおもいます。でも、伝え方や訴え方があるのではないかと感じるようになりました。相手を責めたり罵ることも一つの方法だけど、他の方法もあるのではないかと思います。日本政府の核政策を考えると、政府への怒りをぶつける...ではなく、政府を信じより良い方向に進むようサポートする。共に進む...という観点の方が私の感覚にはあっているような気がしました。日本の核政策はステップバイステップではありますが、決して核兵器廃絶を完全に否定しているわけではないと私はおもいます。たしかに日本の核政策には矛盾もあると思いま

す。では、どうすればこの矛盾を解消できるのか、より良い方向に踏み出せるのか、日本政府の立場に立って考えると見えてきたこともこの、ユースの活動の中で多くあったと振り返りながら書いています。

Go back to top

No. 1 Sunday, 26 April

午前:国連下見

午後:イントレピッド海上航空宇宙博物館

今日は、気になっていたイントレピッド博物館へ。たまたま出発直前に見つけたこの博物館。日本軍とのことも展示されていると口コミにあり、さっそく見学してきました。

近づくとすぐに大きな空母が。ん。。。圧倒されました。一目見てカッコいいとおもってしまいました…。

今回、ここに行くことを決めたのはなんとなくとても惹かれるものがあったからですが、、、なんとなく惹かれたのはどうしてかな...とふりかえるとこんなことがあるかもしれせん。

今回がユース代表団2回目ということで何度も考えていたことがあります。昨年までは、核兵器はダメだから、ダメなものはダメだからという前提のもとどのように日本、そして世界が動くべきか考えていたようにおもいます。しかし、原点に改めて戻るか、、、そもそも

平和ってなに？

戦争ってなに？

核兵器ってなに？

を考え直すようになりました。

私が2年生の時初めてレクナに来た時に、一期生だったEさんから“核兵器がどのようになくなっていくのか各自がそのシナリオを持っていることが必要”というようなことを(間違った解釈ならすみません。)言われたことを覚えています。当時は、そんなことを要求するなんて...難しいな...できるわけないじゃん!とおもっていました。しかし、今回学習を進める中でその必要性...?シナリオが欲しいな...と思っている自分がいました。シナリオを考える中で、この原点に戻ったような気がします。

平和とは。戦争とは。

核兵器とは。

何を無くしたいのか。

何を守りたいのか。

今後世界がどうなって欲しいのか。

日本はどうなって欲しいのか。

そう考えたときにどれに対しても答えを出せない自分がいました。平和とは一般的にどういうもので、核兵器のしくみはどうなっていて…。核兵器はだめだからだめ…え？理由はそれだけ？と自問自答していました。こんなことをいうと怒られそうですが、核兵器をただなくせばいいとか、戦争がなくなればいいとかそんな問題ではないようにおもったのです。医療職の卵としては核エネルギーの医療での利用も外せないですし、科学技術の発展という意味から考えても…。んー。

先日、韓国に行く機会を頂いたときに、一人でぼんやり考えていたことがあります。韓国に住む彼らは兵役がある、軍事訓練がある。戦争や武器がもっと身近。実際に軍事訓練をするなかで武器を触ったことがあるかもしれない。

じゃあ私は…刀以来の武器を身近で見ることはありません。銃を握ったことも、ましてやそれが使われる瞬間を見たことはありません。核兵器をこの目で見ることは不可能だとおもいます。しかし、戦争という漠然としているものに対してあまりにも無知であり、知りたい、改めて考えたいと思いました。

日本に生まれ育ち、核兵器も、日常生活で銃もない環境にいるが故に知らずに来たことがある、と強く感じました。一方で、武器を使用したことがありながら、もしくは使用できる技術や道具のある環境にありながら、それを使用しない人々の“想い”に興味がありました。

見えないものに対する危機感と、使ったことがある経験も含めてうまれてくる危機感と。

これが行きたいと思った理由の最も大きなものです。

ここからが本題です…w

が…突然現れた日本人のおじさんとおばさんとの話が面白いのでここで一時中断します。

p.sホステル楽しいです。昨日はcare giver(日本のヘルパーさんのような仕事?)をしているアメリカの学生と話をしました。

在宅で生活されている利用者の方の話や、妹も看護師を目指している話などなど興味深く、1時間以上夢中で話をしていました！

おじさんが朝ごはん分けてくれました！目玉焼きと醤油！！の美味しさに感動…（；；）
幸せ



[Go back to top](#)

No. 0 Friday, 24 April

まもなく長崎空港を出発します...

今回は羽田空港からトロント経由でニューヨークに行きます！！

2期生のときは、また違った緊張感で昨日はそわそわ落ち着かず。大丈夫かな...と不安です。

2期生のときは、“非核兵器地帯”に希望を持ち、非核兵器地帯のことを考えるのが楽しくて仕方なかった。2期生を終えた時、“青く澄んだ空色”の気分になりました！今回はどんな色が見えるのかとても楽しみです！

今回も、前回と同様本会議場で議事を追っかけたいと思います...特に注目は北東アジアと中東の非核兵器地帯について英語は苦手...ですが、ステートメントを読みながら...がんばります！！

これまで支えて下さった多くの方に感謝します。ありがとうございます！

いってきます！

p.sめんたいじゃこ天を食べて元気を充電中です...



核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015/yukari-blog-2015

Yukari's Blog 【ゆかり一ぬNPTdiary】

No.11 Saturday, 9 May

「全日程を終えて...私が得たもの。

—不安と不安と不安...。そのすきまからちょっと希望が...見えた...かなあ？」

まだまだブログ書いてない分がいっぱい残っているのですが全日程を終えてのこのよくわかんない感情が薄れないうちに記録しておきたいです。(ちょう長くなっちゃった！2000字！時間のあるときよんで！にやり)

今回NYでの生活までを終えて得たものは大きく二つ。

1つめは不安と不安と不安...。の部分、笑、周りのメンバーのすごいところと自分の足りないところが見えたこと、です。ユースのメンバーはみんなそれぞれ素晴らしい能力個性をもつ人ばかりでした。英語が堪能だったり人の心に響くスピーチができたり人を引っ張るのがすごかったり面白い視点を持っていたり...。それが現地での活動に活かされていて...というか現地での活動から見えてきた...。私は彼らをこころから尊敬するし逆にしぬほど羨ましくもあって。向こうではいっぱい助けられて。ほんで自分の嫌なところがいっぱい見えてきて。

こんな中で私は足を引っ張ってたな、、、

私は彼らのためとかユースのために何かできてたのかな、、、

とか、そんな彼らの成長だとか彼らが“何か”をつかんでいくのをすぐ傍で感じて。

自分は何か変わったのか、“何か”つかむことができたのか、、、

これが私の不安と不安と不安と不安の正体...ですね...笑

こんなに自分に自信が持てなくなっちゃうのも私の悪いところですよ。後でメンバーに「私のすごいところは???」って無理やりにでもいわして無理やりにでも自信持つ！笑

2つ目は、こんな私でもつかめたことがあるかな...希望、の部分、“世界“を見る目が大きく変わったこと...かなあ。NPTという小さな窓から大きな大きな”世界“の一部を垣間見て圧倒されている...今はそんな気分です。「どうして日本は核兵器廃絶に積極的になれないの?!」「日米の関係って?」「核兵器の問題のゴールってなに?」いっぱい疑問をもて今回の会議に参加しました。結果「日米の関係ますます謎...」「米口の関係って何?」「資本主義と共産主義の対立って何?」「核廃絶を訴えて国にどんなメリットがあるの?」「国のメリット、国益ってなに?」「国って何?政府って何?」...ともっとよくわかんなくて複雑そーうな疑問がむくむくで手におえない感じです。。。

核兵器は今のところ人類最強の武器！力の象徴でもあり、反面大きな悲しみの象徴でもある。戦争をなくさないと核兵器はなくならないような気がするし、核兵器をなくしても戦争はなくならないのかもしれない。...というか戦争って何？　なんで？そしてなんのために？人は戦争をするの？　「核兵器はどうしてなくならないのか」一つの問いがたくさんの深遠な問いを引き連れてくる...。”世界“は大きくて深くてそしてすごく狭いような気もする。

「我思う、ゆえに我あり。」　核問題や戦争の問題が差し迫った、深刻で真剣な問題なことは、わかる。でもその深遠な問いの入り口に立って好奇心を持ちちゃう自分を押し殺すことはできない...。怒られるのはわかってるけど...。デカルトの言葉を借りればだってそれが人間で、私だもの。だけど怒る人に安心してほしいのは、私はなんだかまわりまわってやっぱりヒロシマ・ナガサキの主張は忘れずに、たとえどんな主張に出会ったとしても、こころに刻んでおきたいと思っています。理屈でどうこう、できるものではなくてやはりすごく大切なことだと感じるし、それを押し殺すことも消すこともやっぱりできないので...

最後に、このプロジェクトが始まってからの半年間、んーそれよりずっと前から...　こんなことを考える機会と素材、お金ややる気とか...自分の身を削りながら、もろもろ全部くださった桂子先生にまずは大きな感謝を。私のデモのブログの投稿にわざわざ個人的に送ってくださったコメントはNY期間中自分に自信がなくなって折れそうになるときの密かな心の支えでした、笑

それから一緒に勉強してきて、NY現地で見たこと感じたことについてあーだこーだいえるユースメンバーがいたことも大きかったです。けんかしたりもしたけど...自分と違った視点を持っているから...たまにうっとおしいけどそれ以上に一緒にいておもしろい...

それからそれから親を始めTVでゆかりちゃんみたよ！て応援してくれた長崎の親せきや友達FBでいつもいいね！くださる方々、私の漠然とした質問に丁寧に答えてくださった方々、たくさんのお金を投資してくださったCPU協議会、長崎県民市民大学...んーよくわかんなくなってきたけど私とユースを支えてくれたひとたちみんなに心からの感謝を。県に市に大学に...貢献できる人になるって期待？に沿えるかはまだわからないけど...。ここからがスタート、らしい。

あ、10年後くらいにユースのOB・OG会したいな...

Go back to top

No.10 Thur s day, 7 May

NGOルーム本番

—直前まで修正修正...みんなが読む練習するなか、修正修正...

—読む練習たくさんしたしドイツの時より落ち着いて読めたなり。

NGOルームを通して学んだこと考えたこと今までさんざ書いてきたから省略。NGOルームの準備・発表を通して考えたことがほぼNYにきて考えてきたこと！とってよいです。(私のブログNo.6.No.11)。

NGOルームは最初から最後まで大変で私最初から最後まで役立たずでなんかいろんな人に申し訳なかったです。

Go back to top

No.9 Tuesday, 6 May

NGOルーム準備

発表予定の内容はざっくり

—問題「どうして日本は被爆国なのに核兵器廃絶に積極的になれないのか。日本政府は核の傘に頼っている。そのせいで核兵器廃絶に積極的ではないのでは。」

—提案「中国との関係を足がかりに北朝鮮や北東アジア地域の信頼情勢改善していこう、中国との交流深い長崎から市民レベルでも関係築いていけるはず。核の傘の役割減らして核兵器廃絶をもっと強く訴えて欲しい。」

このようなかんじ。

日中関係について発表準備しながら思ったこと。

—核兵器廃絶！ていつてる大人でも中国とか中国人の悪口？言う人いっぱいいる...（日本が核の傘から抜けるために、そして国の安全のために中国との信頼情勢って大事ってわかるのになんでだろう！）

—ヒトラーの右腕の人の言葉「国民を戦争に向かわすのは簡単だ。国を脅かす脅威をちらつかせればよい。」...怖くない？

—市民レベルでも関係築けないのに政府同士って難しい

—しかし政府が仲悪いから市民同士も悪いのかな...？

—どんな悪口？悪いイメージはどこから来たの？

—仲が悪い原因は何か、具体的にどうやったら仲良くなれるのか、核問題に限らず視野を広げて考える必要ありそうだ。

Go back to top

No.8 Tuesday, 5 May

ドイツ学生との交流会—エネルギーを考える。

今年のディスカッションのテーマは「エネルギー政策」

ここでの私の問いは

「3.11後のドイツと日本の判断の違いはなにか？」

「日本では原発必要って人と絶対反対！て人とで意見が割れている。ドイツ人はグリーンピース的なイメージがあるけど、本当にみんなが原発に反対なのか？」

—
「昔はドイツでも意見が割れていた。でも3.11でみんな原発はやっぱりだめだって思った」そう。ドイツの脱原発政策には20年の歴史があることは知っていた...1986年チェルノブイリ原発事故はヨーロッパの多くの国にとって他人事ではなかったらしい...

ドイツと日本の大きな違いの一つはココにあると思った。

3.11以前、ドイツでは原発の是非について20年以上議論がされていた。日本では多くの人が、原発は二酸化炭素を出さないクリーンなエネルギーとして特に疑問を持たなかった。

3.11後、ドイツでは国民による原発反対の大規模なデモが起きた。日本では原発の必要性やリスク、運営のあり方について多くの人が議論するようになった。

「3.11後のドイツと日本の判断の違いはなにか？」という問いについて。

確かにドイツ人がグリーンピース(エコに関心が高い国民性?)ってのもあるだろうけど、議論の歴史が全然違うというのが大きいのでは！というのが一つの今回の気づき。議論のスタートが、ドイツはチェルノブイリだったけど、日本は3.11だった。

—
原発について是非論はあまり本質的でないのでは？

ドイツ人とお話していて改めてすごく思った。

事故後の放射能汚染というリスク、放射性廃棄物の処理問題

原発があまり望ましい選択でない理由はこの二つで十分だと思うんだよね...

その上で経済性とか安定供給とかいう代替エネルギーの「課題」を解決する方法を考える。そっちに頭使った方がいいのでは！

環境科学部での勉強もっとがんばろう！るん

Go back to top

No.7 Monday, 4 May

大変だ———！

今日は一日の最後の一週間の振り返りをするMTGをゆかさんと江島さんが企画してくださりました!ユースメンバー各個人が会議を通して見聞きしたことをシェアしたりそこでわからなかったことについて桂子先生からコメントをもらったりしました。

NGOセッションのときの在外被爆者の弁護士の質問、それからオーストリア政府との対談。ほかのメンバーの報告を聞いて特に興味深かった二つ。どちらも他のとかぶってて行けてなかったなので話がきけてよかった！

1. 在外被爆者の補償をめぐるはなし。

強制的に連れてこられた異郷の地で強制労働を強いられた拳句、ヒバク。日本に頼れる身内もないし祖国に帰ったら帰ったで被爆の差別。在外被爆者の方々の苦労や怒りは計り知れない...

でも、在外被爆者の話はじめ強制労働や慰安婦などの補償に関する中国韓国の主張をなんだかあさましく(お金目当てに)感じてしまう...

日中韓の深い深い溝をどう捉えたらよいのか...

2. オーストリアプレッジの意図

「核の傘の国日本にとっては過激！で、ニュージーランドでさえ署名できてない内容、どうして賛同もとめたんだろう...」「プレッジに賛同を求めた意図は

？」「今後プレッジへの賛同国を増やすのか？」

私は行けなかったけど他のメンバーが聞いてくれたみたいです！！

前のブログにかいたけど私の予想は「この国はここまでなら乗れる、この国はここからはのれない、と図っているのでは?!」でしたが...

政府の答えは「核兵器の非人道性や、禁止条約について各国に議論してほしかった」「あれはあくまで”オーストリア”の姿勢書いたもの。あれだけ賛同を得たのは逆に驚きだった」「ほんとに賛同するなら自国のステートメントにプレッジの文言入れたらいい」とのこと。

なるほど。オーストリア。

Go back to top

No.6 Friday, 1 May

「思考回路は...ショート寸前」

今日は日本政府の方と直接話す機会があり、NYに来る前から疑問に思っていたことについてぶわっと考えを進めるいい機会となりました。日本政府の人と話した後に参加した学生同士であーだこーだ議論したのもよい刺激になりました！しかし考えれば考えるほどなんとも....

今回のブログは長いし内容も人によんでもらうためというより自分の頭を整理するために書きましたので....

「日本が核の傘に依存し人道性の動きに積極的になれないのはどうして？」

「同じ核の傘の国だけど立場の異なる日本とノルウェーの違いは？」

・NYに来る前から自分の中で仮説が立ってきていた。...核の傘政策もノルウェーとの違いも実は周辺国との関係というよりアメリカとの関係が大きいのではないか...「政府関係者は周辺諸国との関係を挙げる。日本の核の傘政策の根拠に“核抑止論”をいう人は多い。でもその議論ってどこまで本質的なのかな?」「周辺国との関係が仮に完全によくなったとして日本は本当に核の傘を抜けられるのだろうか」「実は周辺国との関係よりアメリカとの関係が大きいのではないか」...じゃあその漠然とした日米の関係ってなんだろう?

・「例えば日本がオーストリアプレッジに賛同したとして、日米関係で具体的にどんな変化がありますか?」日本政府の方に質問する機会があった。詳細に文字にすることは多分できないので私の印象を。...具体的な変化は、ない。ただ、日米の信頼関係が損なわれるという変化が、ある。そしてその“変化”は日本にとってかなり重要重大なもの!みたい...

・2つわかったことがある。1つは日米関係が日本にとって(漠然と)重要重大だ!てこと。もう1つは今のところその“漠然とした変化”って(大きいか小さいかもよくわからない)代償を払ってまで“方針を変えよう”ってほどのメリットを日本政府が感じてないこと。...国の方針を決める材料に“国民の声”は確かにある。だけど”ヒロシマ・ナガサキの声“が政府に”国民の一部の声“といわれてしまうのはどうしてでしょう?(平和市長会議の日本国内の賛同自治体数で一部じゃないよ!っていえないかな...)

・ここで2つ疑問が...。1つは日米の(漠然と)重要重大だ!て関係はなんだろう!!! 2つ目が、政府はじゃあ何にメリットを感じるのだろうか?この二つ目の疑問は安全保障とMONEYとメンツじゃないかな?!政府って意外に人間くさいな!って話に落ち着きました。笑

・1つめの疑問。西日本新聞上野記者に聞いてみると、簡単にいうと戦争に勝った国と負けた国って関係。ちなみにアメリカから見て日本は敵国との防波堤みたいな位置にある。らしい。ロシア・中国・北朝鮮。日本。アメリカ。この位置関係。なるほど。広瀬先生曰く、日本と中国があまりに仲良くなりすぎようとするのにアメリカが横やりを入れるってことは多々ある、らしい。

・これじゃあ周辺国との関係が悪いから核の傘に頼ってるのか、核の傘に頼ってるから周辺国との関係が悪いのかわかんないじゃないかー! 日本と中国の関係を良くするよりアメリカと中国の関係良くした方が根本的なのでは...?

・こんなことを私がいうと。上野記者...じゃあロシアはどうすんの?それからアメリカと中国の関係が良くなるのが日本にとってよくないことだという人もいる。アメリカから見捨てられたら日本はやってけない、って。

・米・露の関係…。結局ここに行きついてしまった…。どうしてアメリカとロシアは仲が悪いんだろう？NPTの本会議でも今年は派手に喧嘩していたらしいけど…。共産主義と資本主義の対立？大きな国同士の対立？大きなコンプレックスを抱えた国同士の対立？はたまた武器商人の陰謀？

・ここら辺で私の脳味噌はショート寸前だし、日米関係や米ロ関係についてはいろいろこれまた議論がありそうで調べるとなかなか不毛な作業になりそう…。てところで今のところ私の探求心はパタリ…。

Go back to top

No.5 Thursday, 30 April

子供たちの素朴で鋭い問い、ぞくぞく！

今日は育英学園での溝越先生(!)の授業に参加させてもらいました！育英学園はNYにある日本人学校。溝越先生は私たちの同級生！笑 授業をした溝越先生も授業をうけた5年生も本当に素晴らしかった！ 溝君&子供たちが挙げる素朴で本質的な問いにはっとさせられる場面がいくつもありました。

特に印象に残ったやり取り

生徒「今まで核兵器が落とされたのは日本だけ？」

溝君「日本だけじゃない。いろんな国が核兵器を持っていて今まで実際に実験などで何度も使われている。ただ、人を殺すために使われたのは広島、長崎だけ。」

生徒「どうして日本だけ人を殺すために原爆が落とされたの？」

生徒「なんで日本は核兵器持ってないの？」

溝君「なんでだと思う？じゃあなんで持ってる場所は持ってるんだろう？」

生徒「強い国だってアピールしたいから！」

「前の戦争で作りすぎたのが残ってるから！」

「核兵器がひどいってことわかってないから！」

「悪い人だから！」

溝君「悪い人だから？アメリカも持ってるよ。アメリカ人って悪い人？」

「…」

溝君

「今日は長崎の原爆がとてもひどいものだってことだけをいいに来たわけじゃない。被爆者の話を聞いて原爆がとてもひどいものだ！ってすぐなくすべきだ！ってみんな思ったと思う。ねえ、でももしみんながそう思うなら、どうしてこんなに今核兵器がいっぱいあるんだろう。どうして核兵器はなくならないんだろう。……（略）」

授業自体は、「ひとつの物事であっても個人によって思うことや持つ意見は異なるからこそ、きちんと相手の話に耳を傾け、理解しようと努めることが大切である、ということ伝えるものだった」(じょーくんのブログより引用)そう。

Go back to top

No.4 Wednesday, 29 April

今日はメキシコとイランの政府！

日本での勉強や会議での傍聴でたまもやもやをきけるチャンス。国際会議の場に足を運ばないとできないこと。気合いがはいる。(個人的にこれはウィーン会議のリベンジ。)

イラン政府の方は、「法と宗教」についてかなり丁寧にお話しされた。「我々はときに法よりも宗教の決まりを重んじる。そしてその考え方は法が中心の欧米諸国にはあまり理解されない...。」と。いいたいことはわかったし重要なことだとは思うけどそれがどうNPTとか核問題につながるのか、それで何を言いたかったのか、未だに謎。

話をそらされた気がしてちょっと嫌な気分。実際彼は「中東非核兵器地帯」や「3+3の合意」について自分からは話さなかったし...

Go back to top

No. 3 Tuesday, 28 April

会議2日目！オーストリアプレッジの賛同状況が非常に興味深い！

賛同国76か国。

「核の傘」の国は日本も含め不賛同。それに加えていままで人道性の動きを引っ張ってきたノルウェーやニュージーランドも不賛同なのが興味深い。

ノルウェーはNATOだし保守政権なったらしいしわからんでもない！

でもなんで核禁条約！NACのニュージーランドも賛同できないの！

方向性の違いかな...

やっぱりアメリカの圧力かな...

そもそもオーストリアはどういう意図でプレッジに賛同をもとめたんだろう...

賛同国、質も量も集まってないようだけど今後プレッジはどうするんだろう...

(賛同国の数が多くないし、賛同してる国は小国ばかりだし)

今まで出された共同声明とかオーストリアプレッジとか各国の反応を図ってるように見えてきた！この国はここまでならのれる、ここまでするとこの国はのれない、、、みたいな。

核兵器禁止条約を含め人道性の動きが今後どうなっていくのか...

どんな風に世界を巻き込んでいくのか...

注目！！！！です！



Go back to top

No.2 Monday, 27 April

—会議スタート！私の目標

- ・事前勉強でできた”もやもや”を解消すること
- ・”もやもや”が最初より深くなること
- ・長崎に帰ってこの問題についてより多くの人と考えられるようなヒントを探すこと

* 会議開始前のもやもや

- ・核兵器問題のゴールって何？

—ゼロにすること？核兵器禁止条約をつくること？核兵器が二度と使われないこと？戦争をしないこと？

- ・日本が核の傘に依存し人道性の動きに積極的になれないのはどうして？

—例えば日本がオーストリアプレッジに賛同したら何が変わるの？政府の方針で変えなければならぬことが本当に出てくるの？

—周辺国との関係？中国？北朝鮮？どんな脅威を感じている？

—アメリカとの関係？それってどんな？

—周辺国との関係とアメリカとの関係、日本にとって大きいのはどっち？

* 今日の会議を終えての未解決もやもや

・”核兵器の問題のゴール”のためのNPTはどれくらい役に立っているのか。今後の発展は果たしてあるのか。

・日本のステートメントと演出は他の国にどう見えたのか。

* その他会議の注目点

・人道性、禁止条約への動きはどこまで高まるか

・中東問題や北朝鮮など地域の問題がどう動くか

p.s. 夜はひろちゃんとあゆみんがご飯をつくってくれました!!! ご飯を囲んで今日の会議について、夜までお話してました(笑)



[Go back to top](#)

No.1 Sunday, 26 April

26日はデモに参加してきた。

8000人規模とかなり大きなものだったそう。

より多くの人に少しでも核兵器の問題について考えてもらおうとどの参加者も派手な格好をしたり歌ったりと工夫をしていた。その雰囲気は私は楽しんだ。

楽しんだ勢いで行進の先頭を見てみたくて走った。先頭を率いる被爆者の三人方の表情はパレード全体の雰囲気とは違って陰しかった。一人の女性はゴール間近で顔をくしゃくしゃにして少し泣かれているようだった。

パレードの雰囲気と被爆者の方の表情の違いに今でもどうそれをとらえたらいいのかわからないでいる。私の気持ちが浮わついていたのを反省すべきなのか、ただ被爆者の方は疲れていただけなのか。聞けるタイミングがあるといいです。



[Go back to top](#)

No.0 Thursday, 23 April

長崎を出発し、現在中継地点の韓国にいます！

昨日は不安と不安と不安とでてんやわんやそわそわしていました

英語わかるかな、準備間に合うかな、メンバーとうまくやれるかな、まだまだ調べたりないこといっぱいある！そもそも自分がここでやりたいことってなんだっけ!!!

準備を何ヵ月もかけてしてきた分、いざスタートが目の前に来ると不安が大きいです。移動時間が長いのもう一度じっくり自分と向き合ってから、NYでの日々を迎えたいと思います。

[Go back to top](#)

[このページのトップへ](#)

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015/chisa-blog-2015

Chisa's Blog 【Chisa's NPT blog in 2015】

No.10

この投稿が私のブログの締めくくりです。

これまで私のブログを読み、応援してくださった全ての皆さんに、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。「いいね!」やコメントの一つずつに、いつも元気を頂いていました!

ユースとして活動した二年間を通し、本当に色んなものを得ることが出来ました。中でも一番の収穫は、やはり人とのつながりであり、そのつながりを実感した時に感じられた、たくさんの喜びだと思えます。

この2年間、政府代表から同世代の若者まで、本当に多くの人々と知り合うことが出来ました。肩書きも専門も年齢も、さまざまであった分、核問題に対する意見も取り組み方も本当に多様で、自分に無かった新たな視点に驚かされ、大きな刺激を受けました。

これらの出会いの中で、自分の意見を伝えることにも、とても大きな意義を見出せました。個人レベルの意見交換も勿論ですが、とりわけ、自分の思いをスピーチにして現地NYで発信したことは、何事にも代え難い経験になりました。「本当に伝えたいことは何か」「どんな言葉を選べば聴き手にしっかり伝わるか」・・・二回とも、とにかく悩み苦しんで生み出したスピーチでしたが、スピーチを終えた後、多くの方の笑顔に囲まれ「心のこもったスピーチを本当にありがとう。一緒に頑張ろうね」と声をかけていただいた時は、夢のようでした。何の肩書きもないただの大学生であっても、心を開き、精一杯の発信をすれば、政府代表であれ現地 New Yorkerであれ、ちゃんと受け取ってもらえること、そして、このようにリスペクト(相手の存在を尊重し、しっかりと向き合うこと)を持って相手に接することが「平和の種」となるかけがえのない出会いを生むのだと実感しました。人前で話すのが得意でなく、伝えたい気持ちはあるものの、どうしよう・・・とウジウジ悩んでいた昔の私が今の私を見たら、きっとすごくびっくりすることでしょう。笑

2年目の今回はさらに、去年植えた「平和の種」がしっかりと育っていることを感じられた喜びもありました。国連でのプレゼンに来てもらった6人のゲストスピーカーは全員、去年知り合って連絡を取り続けていた友人、あるいはそのつながりで紹介してもらった友人の友人でした。そして私達も、お返しに、彼らのプロジェクトに協力しました。去年彼らに出会った時は、一年後、このように具体的に協力し合える日が来るとは想像もしていませんでした。

また、先日のブログでお伝えしたように、マウントサイナイ医科大学のロバート柳澤先生と一年ぶりにお会いでき、さらに、ブログでは触れていませんでしたが、実は去年ロバート柳澤先生に繋いでいただいた9/11 tribute centerの館長さんにも再会することが出

来ました。なんと、ご自宅に招いていただき、じっくりたくさんのお話をさせていただきました。ここで全てをお伝えすることは出来ませんが、心と心の通い合った、本当に素晴らしい時間を過ごすことができました。

一つ一つの出会いや経験は、それぞれが単独で存在する小さな「点」のように感じられます。しかし、それらはお互いに繋がって綺麗な線に出来るし、その点自体をどんどん大きくしていくこともできるのだと、この二年間を通して感じました。

これまでブログを読んでくださった皆さんのほとんどは直接お会いしたことの無い方ですが、これも大事な出会いの一つです。私のブログはここで終わりますが、これからもなんらかの形でこのご縁を大切に育てていきたいです。

私のユースとしての活動は、終わりましたが、ここからが、またはじまり。これからこの経験や出会いが、どんな点と結びついていくかはまだ分からないけれど、その過程を楽しみながら、一步一步大切に進んでいきます。

これまで本当にありがとうございました。



ゲストスピーカーの1人と打ち合わせを兼ねてディナー^^

デモで知り合った歴史の先生との一枚

[Go back to top](#)

No.9 Thursday, 7 May

ついに今日は、NGOルーム発表の日。そして同時に、私のユースとしての活動最終日でもあります。

まず、プレゼン内容についてもう少し詳しくお話しします。以前のブログでも簡単にお伝えしましたが、私のグループのテーマは「核問題に対する若者の意識」です。私達はこれまで、長崎という日本で最も平和・核問題に熱心な場所の中ですら、同世代のこの問題への関心はかなり低いと感じることが度々ありました。そこで、グループ1の秀君&河野君グループと一緒に長崎大学の学生を対象にアンケート調査を行い、その回答から、多くの若者がこの問題に関心を持たず、行動を起こせない理由を見出すことにしました。

また、それと並行して、これまで知り合った核問題に熱心に取り組む海外の若者達に連絡を取り、ゲストスピーカーとしてイベントに来てもらえるよう交渉していました。日本の私達よりもずっと核や被爆の問題に馴染みの薄いはずの彼らが、一体どうしてこんなに熱心に取り組みはじめたのか。それぞれのきっかけや思いを共有してもらうことで、周りの若者を取り込んでいくためのカギを見つけられるのではないかと考えたからです。そしてこれは、三期生の自己紹介 (https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/.../nagasaki-y.../member_third)でも書いたとおり、私が今回のユースの活動を通して一番達成したかったことでした。去年の活動からずっと考えていたことだったので、まさしくこれは私の2年間の集大成のイベントでした。

ここで結果を書いてしまうと、報告会に来ていただけないので（笑）敢えて詳しくはお伝えませんが、私達がアンケート分析を通して見出した”若者が関心を持ってない原因の仮説”（＝逆に言えば、ここを改善すれば若者を巻き込んでいけるというポイント）と、6人のゲストスピーカーの話から見えてきた共通のカギは、一致していました。このイベントは、周りを巻きこみ行動を起こしていくための着実な一歩になったと思います。全てを終えた今、達成感を噛み締めています。やって良かった。

最後に、総合責任者として、決して表には出ない大量の仕事をこなしながら、グループワークも絶対に手を抜かず、イベントをここまでまとめ上げて下さった荒倉さんに、心から感謝です。みんな、本当にお疲れ様でした！



右から6人が私達のグループのゲストスピーカーのみなさん。
左端の男性は全体の講評をいただいた被爆者の平田さんです。みなさんありがとうございました！

[Go back to top](#)

No.8 Wednesday, 6 May

とうとう明日はユースのサイドイベントの日ですが...

正直「やばい...」の一言です。朝9時には国連に出向き、サイドイベント参加や本会議傍聴をこなして帰宅すると、もうすでに夜。それから毎日ほぼ徹夜で準備をしていますが、しなくてはならないことが多過ぎて、終わる目処が立ちません。それぞれブログも溜まってきました...（更新が遅れてすみませんでした...泣）疲労と食欲は比例するの
か、ついには朝4時からNYチーズケーキを半分寝ながら食べてしまいました...(-.-;) 笑

今日は自分達のサイドイベントを宣伝出来る最後の日だったので、中村先生のアドバイスを元に、ある”奇策”に出ました！これまで日本で作っておいたビラを色々なサイドイベントのテーブルに置いておくなどしてきましたが、それだけでは各国政府代表には届きにくい。というわけで・・・本会議に乗り込みました！！笑

まず、私を含む有志の宣伝隊は、Main committee 1：核軍縮についての議論が行われている会議場の2階傍聴席に待機。それぞれイヤホンを片耳に入れて「それでは本日の会議はここまで」と議長が言うのをじっと待っていました。いざその言葉を聞くと、みんなビラを手に階段を駆け下り、会議場から出ようとしている各国代表に片っ端から声をかけて、ビラを渡しながら説明をしていきました。

私はというと...この会議の議長であるエンリケ・ロマン・モレイ大使がまだ議長席にいらっしゃるのを見つけ、真っ直ぐにそちらへ！モレイ大使は去年の第三回準備委員会のトップを務めた方です。実は私は、大使が議長就任直前に来崎された際にユース二期生としてお会いしていました。また前回、あるレセプションでスピーチをした際、同じ会にモレイ大使も出席されていて、わざわざスピーチの感想を伝えに来てくださったこともあったので、もしかして覚えてくださっていないかな...とドキドキしながら大使の元に走りました。「お久しぶりです、覚えていらっしゃらないかもしれませんが、私はあなたに何度かお会いしたことがある長崎の大学生で...」そう声をかけると「久しぶりだね！忘れてるわけないだろう。今年も頑張ってるね。出来るだけ時間を作るよう努力するし、もし少しでも時間が出来たら、サンドイッチを引つつかんででも君達のイベントに行くよ！」

ほんの数分の会話でしたが、本当に嬉しかったです。非常にお忙しい方なので、実際に来ていただくのは難しいかもしれないけれど、大使のお言葉で、本番まで頑張りきろうとあらためて思えました。決戦は、木曜日！笑



[Go back to top](#)

No.7 Tuesday, 5 May

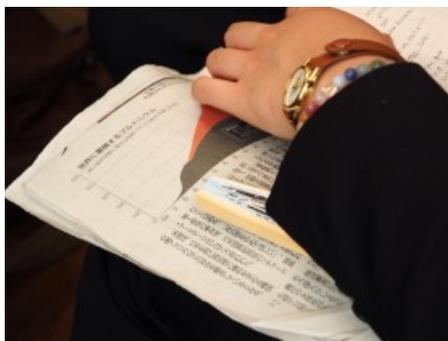
今日は、NPTに来ているドイツ人大学生30人とディスカッションでした。この企画は去年に引き続き2回目です。このディスカッション会がユースの伝統企画になっていければいいなと思います。

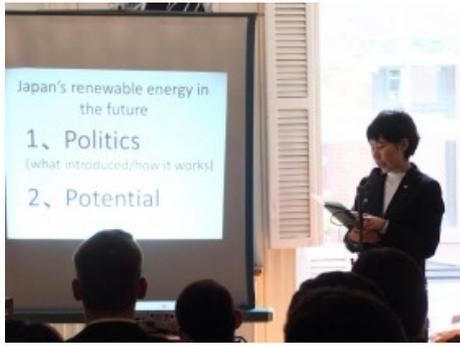
今回のテーマは「原発と再生可能エネルギーについて」。担当のユースメンバーは日本にいる時からあちらと連絡を取り合ってテーマを議論したり、専門の先生を招いて、みんなの知識を深める事前学習会を開いてくれたりと、一生懸命準備を進めてくれました。そんな彼らのプレゼンはすごかったです！

「再生可能エネルギー固定価格買取制度」「高速増殖炉もんじゅ」など日本語でも説明の難しい、国のエネルギー政策や現状を、図やグラフを交えながらしっかり伝えていました。そのおかげで、その後の小グループに分かれたディスカッションも、要点を絞ってスムーズに進めることが出来たと思います。

私のグループメンバーの専門分野は医学、環境科学、国際政治学、工学などとても多様でした。だからこそ、原発に対する視点も多様で、それぞれの専門分野からの質問や意見が出ました。あるメンバーから「自分が学んできたことに限って原子力を見ると、頼らずに生きていく道はあるし、そうすべきとはっきり言える。でも、医学の面から見ると、放射線は僕たちの生活になくってはならないものなんですよ？だから君は一概に“NO 原子力”とは言えないよね？」と質問されました。私は「そうなの、レントゲンは放射線を使わなければ撮れないし... (あ、そういえば、この間授業で心臓の血液の流れを見る時にも放射線分野を使うって習ったな。でも心臓核医学って英語でなんて説明すればいいかわからん...) 」と、色々悩んだ結果、結局誰でも知っているありきたりなことしか言えませんでした。何かについて議論する時には、メリットとデメリット両方を出し尽くした上で結論を出さないといけないのに、メリット面をしっかりと話すことが出来なくて残念でした。去年は原発についてあんまり語れなかったもどかしさがあったので、今回はそれなりに勉強して行ったつもりだったのですが...まだまだ学ぶことはたくさんありそうです(^_^;)笑

もうひとつとても印象的だったことがあります。「ドイツの反原発運動は誰がはじめたの？」と質問した時のこと。「大学生が始めたんだよ！チェルノブイリの事故で汚染されたミルクを多くの子どもが知らずに飲んで内部被爆してしまった。それを受けて『今後また同じようなことが起きた時、犠牲になるのは自分の子どもだ』とみんな思って声を上げ始めたんだ」と言われ、驚きました。カナダが非核化したのも、そのきっかけは大学生だったという事実があります。何かが大きく変わる時、その鍵になるのは若者のようです。それなら、私達ナガサキユースも...！





Go back to top

No.6 Monday, 4 May

2週目に入りました。1週目で大方の発表は終わったので、残るは明日のドイツディスカッションと5/7（木）のNGOルームのプレゼンのみ！今日から担当者はそれぞれ一極集中で準備を進めます。NPTの会議では、本会議と同時並行して国連内で様々な催しが開かれています。（これまでのブログでも出てきた”サイドイベント”のこと）主催はNGOだったり、あるいはどこかの国の政府だったりもしますが、なんと今回は、ユースも3時間のセッションを主催することになっているんです...！

内容は大きく3つのパートで構成されています。

1. 【秀君 + 河野君 + 松本君（頼もしいレクナサポーター①：ビデオ出演）】

アンケート調査による日本の”平和教育”の現状分析と、若者による新たな平和教育の在り方の提案

2. 【川崎さん + 中原さん + 豊田くん（頼もしいレクサポ②：日本から応援）】

日本を取り巻く安全保障環境の現状と、若者からの打開策提案

3. 【荒倉さん + 西田 + Lynn（頼もしいサポーター③：いっしょに発表）】

若者の意識～若者が核問題に関心を持つ/持てない理由～（アンケート調査 + 海外ゲストスピーカー）

そして、これら全体のコーディネートは荒倉さんが担当します。

実はこのNGOルーム、まずやるかやらないかで大きな議論になりました。私達の声が届けるには絶好の機会だけど、プレゼン経験の乏しい私達にはあまりに壮大すぎる話では？それぞれが他の発表も抱えている中でちゃんとやり遂げられるのか？と何度も話し合いました。そして、すると決めてからは、とにかく大忙しでした。夜中まで話し合いが続くこともしばしばで、それだけでもみんな本当に疲れたと思います。それでも、上に名前のある3人のレクナサポーターをはじめ、忙しい中でアンケート調査や集計まで一緒にやってくれた川崎有希ちゃん、機材の準備を全て請け負ってくれた佐々木君や一期

生の江島さん、プレゼンを見るために遅くまで残ってくださった先生方やレクナ事務のみなさんなど、たくさんの方に支えていただいたことに心から感謝しています。この思いを胸に、なんとかやり遂げたいと思います。

まだまだするべきことは山積みですが、ロジックはしっかりしているし、気持ちも充分！後は残りの日数どれだけ頑張り切れるかです。眠れない1週間が始まります！



[Go back to top](#)

No.5 Friday, 1 May

午前中はBANgの主催のイベントがありました。BANgとは、Ban-All-Nukes generationの略で、核兵器廃絶を目指す世界中の若者の団体です。ナガサキユースは一期生の時からBANgと深く繋がっていて、お互いのイベントにゲストスピーカーとして出たり、各国政府の代表との非公式面会と一緒に参加したりしています。彼らの知識量は専門家顔負けで、政府代表に対しても非常に鋭い質問をします。

今日のイベントのテーマは「どうやって若者を核問題に巻き込んでいくか」。ユースからは、河野君がゲストスピーカーとしてプレゼンをしました。河野君の考えは「核問題をそれぞれの若者の趣味や好きなことと結びつけて、考える機会をつくること」。会場全体が頷きながら聞いていました！参加者の言葉で私が印象的だったのは、「No age is too young to start learning about nuclear weapons」その通りだと思います。「幼い子どもに見せるとトラウマになってしまうから」と被爆の実相を子供に伝えなかったり、同じ理由で広島平和祈念資料館の蠟人形の撤去が検討されたりという話を耳にします。確かに、私も小さい時は原爆の写真が怖くて号泣した覚えがありますが、怖くてたまらなかったからこそ、こんなことが2度と起こってはいけなくて小学生ながらに強く感じました。「怖がるから見せない」ではなく、たとえ怖がったとしても、現実としっかり向き合わせて「じゃあ、こんな怖いことが2度と起こらないように、どうしていくべきか」という話につなげていくことが必要なのではないでしょうか。

イギリス出身のBANgのメンバーは、「イギリスではヒロシマやナガサキについてはおろか、自分の国が核兵器を持っていることすら教えられない」と言っていて、とても驚きました。軍縮・平和教育というのは本当に重要なトピックだと感じます。

午後はNGOセッションでした。たくさんの方のNGO団体の中で、IALANA（核に反対する弁護士団体）からは、なんと90歳のおじいちゃんが発言しました。「核兵器の法的禁止の実現を求める。私がまだ生きてるうちにね！ははは笑」と冗談めかして言っていたけれ

ど、実際笑い事ではなく、それを切望していると思います。こんなに年をとってもまだ勢力的に活動続ける彼を心から尊敬するとともに、彼や被爆者の方々が亡くなる前に「自分の努力が報われた」と思えるような進展が欲しい、と思いました。



[Go back to top](#)

No.4 Thursday, 30 April

今日の午前中は平和首長会議のイベントに参加しました。ユースからは秀君&佐々木君ペアが発表しました。2人の発表は、数日前のヒロシマナガサキアピール集会から、また一段と良くなっていました！ギリギリまで一生懸命スライドを改良している姿を見ていたので、その努力が実を結んで本当に良かったと思いました。

また、さらに嬉しいことに、今年はまだ一組、私がかつて所属していた広島の地元紙「中国新聞」のジュニアライターも発表していました。大舞台でしっかり発表する後輩達をととても頼もしく感じました！♪

(Website: <http://www.hiroshimapeacemedia.jp/hiroshima-koku/>)

仲間や後輩の発表からたくさんの刺激を受けた私自身も、夜は地球市民集会長崎実行委員会主催のイベントで、長崎の若者としてスピーチをさせていただきました。

No.0でも少し触れましたが、私は去年、ユースになってはじめて核問題の複雑なしがらみに直面し、とてもショックを受けました。それ以降どこか「私のようなただの大学生が声を上げて無意味なのでは...」という思いを拭いきれず、モヤモヤを抱えたまま渡航しました。しかし、実際に現地に来て、自分達の力を信じて活動続ける多くの市民団体の人々や「市民の声が大きくなれば政府も無視できなくなるから、決して諦めないで」と声をかけて下さったある国の政府の方との出会いを通じ、モヤモヤを吹き飛ばすことが出来ました。スピーチでもこの話を共有させていただきました。実際、最近「核兵器の非人道性」という観点が注目されるようになってきたのも、被爆者をはじめとした市民団体の地道な訴えが大きいといえます。

国同士の議論には「核の抑止力」「国家の安全保障」...そんな難しい言葉が山ほど並んでいるけれど、そこに「市民の姿」は全く見えません。しかし、実際に核兵器が使われた時に犠牲になるのはそこに生きる人々の生活であって、誰かの大切な人や物、場所で

あって...本当の意味で核兵器について議論をするには、まず核兵器をできる限りミクロな話に落とし込まないといけないと思います。そうすると、やっぱり必要になるのは非人道性の観点で、市民団体の役割は大きいと感じます。

核問題を出来るだけミクロに、個人的な問題にすることは、市民の声を大きくしていく際にも、とても大事ではないかなと思います。実際、周りの友人のほとんどはこの問題に関心がありません。確かに、私のように幼い頃からずっと被爆者を身近に感じる環境にいないければ、原爆は単に歴史の授業で習う昔の出来事で、「平和が大事」「記憶の継承を」と言われても、ピンとこないと思います。楽しい話ではないし、興味が持てないのもすごくよく分かります。でも、この問題は決して過去の話ではなく、もし使われたら自分の大切なもの全てが奪われてしまうということを、一人一人が感じられたなら、もっともっと多くの友人と、この問題について一緒に考えていけるのではないかと思います。そのためには、核問題の敷居を下げて、若者が興味を持てるようなアプローチをしていかないといけないと思います。同世代の私が書くこのブログは、敷居下げに少しは貢献できているのかなあ...?(^_^)



[Go back to top](#)

No.3 Wednesday, 29 April

更新が遅くなり、すみません。29日(水)の振り返りをば・・・^^;

今日の本会議では、ウクライナが発言しました。去年の第三回準備委員会では、ロシアがクリミア侵攻をして日が浅かったので、その件について会議中に他の国がロシアを非難し、それにロシアが噛み付いて喧嘩がスタート...議論が進まなくなったことがありました。その時私は「確かにひどいけど、NPTとは関係ないのでは?今はちゃんと核兵器の議論をして...」と思ったのですが、実はこのロシアーウクライナ問題、核兵器とかなり深く関係していたのです!驚きました。まだまだ知らないことがいっぱい困惑の毎日です...

今回ウクライナの発言でも他の国のものでも、「ロシアの行動はブダペスト覚書に違反している」というフレーズが何度も出てきました。ブダペスト覚書という言葉、今まで聞いたことがありませんでしたが、(もしや去年も話されていたけど聞きとれてなかったのか...?(~_~;))これはどうも、1994年にウクライナとロシア・アメリカ・イギリスの四カ国で合意された文書のようなようです。

ソ連が崩壊したとき、ウクライナには、ソ連時代の大量の核兵器が残されていました。（短期間ではあったものの、一時は世界3位の核保有数だったとか...。）アメリカなどは、連邦崩壊の混乱の中で核兵器が使われてしまうのではと不安に思い、ウクライナにNPTへ入るよう迫りました。NPTに入るには、持っている核兵器をすべて放棄しなくてはなりません。ウクライナは、要求に応じて核兵器を手放す代償に、ウクライナの安全保障がしっかり守られることを求め、3カ国がそれに応じたことでNPTに正式加盟しました。

だから、ロシアがクリミアに侵攻したことは、ブダペスト覚書で約束した「ウクライナの安全保障の確約」を明らかに違反していると責められているのだけれど、当のロシアは、素知らぬ顔...この件に全く触れようとしません。あれだけ批判されていてよくこんな態度を取れるなど、その強硬姿勢にとても驚きます。そして、この国が核廃絶への動きに立ち向かう大きな障壁になっていることもひしひしと感じます。先日プーチン大統領がクリミア併合の際に核使用の準備を整えていたことを明らかにしましたが、このような姿勢を見ていると、いつか本当に使ってしまいそうで...とても怖いです。

午後は、マウントサイナイ医科大学のロバート柳澤先生と一年ぶりの再会を果たしました。詳しくは私の去年のブログにあります。ロバート先生はアメリカ在住でありながら東日本大震災の被災者支援に尽力されている、笑顔の素敵な先生です。この一週間でも、また新しく多くの素敵な出会いがありました。やっぱりこうして去年からの絆を実感できるのは、OGならではの特権だなあ...！とほっこりしました ^^ ♪



[Go back to top](#)

No. 2 Tuesday, 28 April

今日の午前中は本会議の傍聴、午後からは国連を出て、原水協主催のイベント「No Nukes! 青年交流集会」に行ってきました。開会数時間前にたまたまこのイベントの存在を知り、同じ目標を持つ同世代との素敵な出会いにワクワクしながら会場に向かいました♪

会場には180人を超える参加者が集まっていて、そのほとんどが日本の若者（20~30代くらい）でした。26日のデモ行進でも感じていたことですが、あらためて、この被爆70年の節目を本当に多くの日本人が意味深く捉え、アクションを起こそうとしていると感じました。

参加者は職種（学校の先生、医療従事者、大学生 etc）も出身（広島・長崎だけでなく、高知や三重の人も...！）バラバラでしたが、それぞれがシェアしてくださった「この問題に関心を持って一緒に考える同世代がなかなかいない。友達にこの話をしようとする
と浮いてしまい、悩んでいた」「原爆は決して過去のものではなく、今現在私たちの生活に大きく関わる問題。核問題を一人一人がいかに自分事として捉えることができるかが重要だと思う」などの意見は、どれも私がこれまで感じて来た思いや考えと全く同じで、心から共感できるものでした。参加出来てよかった！

その一方でわざわざNYまで来ないと出会えなかったというのは、かなりの遠回りでもったいないなとも思いました。もっともっと日本国内で、この問題に取り組む団体同士の出会いの場、あるいはそれぞれが他の団体の活動情報を簡単に得られるような統合サイトなどがあれば、「日本の市民の声」として一つにまとまって、より強いメッセージが発信できるのになあ・・・と感じました。

<おまけ>

イベント会場の帰りに通りかかったタイムズスクエアで、巨大スクリーンにユースメンバーがバッチリ映り込んでいました（笑）さまざまな誘惑になんとか打ち勝ち、おとなしく帰りました^^（笑）



[Go back to top](#)

No.1 Monday, 27 April

ついに2015年NPT再検討会議の幕開けです。初日の今日は、朝からたくさんの国や組織が順番にスピーチを行いました。その中でも印象的だったものについて、いくつか振り返ろうと思います。

①マーシャル諸島

渡航前から注目して追っついていこうと決めていた国の一つです。マーシャル諸島は昨年4月の第三回準備委員会の開会直前に、5つのNPT加盟核兵器国とインド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮の計9カ国が核兵器を保有していることは、NPTや国際法に違反するとして、国際司法裁判所に提訴しました。さらに、準備委員会の本会議でも、被曝経験国として気迫のこもった力強いスピーチを行い、拍手喝采を浴びました。去年私はそのスピーチに感動したので、帰国してからマーシャル諸島の被爆について少し調べてみました。

調べて分かってきたのは、マーシャル諸島の強い覚悟と勇気でした。

マーシャル諸島は過去67回にも及ぶ米国の核実験の影響に現在も苦しみながらも、同時に米国の経済支援に大きく依存しています。驚くべきことに、国の予算の6割を米国からの経済援助が占めています。こんな状態では、普通、何が何でも米国と良好な関係を死守しようと思うと思うのですが...マーシャル諸島は、経済支援を切られる可能性も承知の上で、米国に”謀反”を起こしたのです。日本が二の足を踏んでいる、核の非人道性についての議論にも積極的に参加しています。

「核の恐ろしさを知っていれば、当然の行動ではないか。核軍縮が遅々として進まない中で、声を上げない理由はない。核被害国としての責務を我々は全うする。我々はアメリカの長年の友人として、もっと真剣に取り組むべきだと助言したのだ」

デブルム外相のこの言葉に胸を打たれると同時に、これが日本政府の言葉であれば...と口惜しくも感じました。日本は被爆国としての立場を強調しつつも「日本を取り巻く緊迫した国際情勢から国を守るため」と米国の核の傘に依存し、明確な言動を避けています。でも、マーシャル諸島のように経済的な安定を保つことも、国を守る大きな要因です。被爆国として本当に心の底から核の無い世界を望むなら、マーシャル諸島のように安定を捨てる覚悟で臨むことが必要なのではないかと思います。言うは易し、でしょうか・・・？

②IAEA & 岸田文夫外務大臣

今日は二人の日本人が壇上に上がりました。お一人はIAEAを代表して天野之弥事務局長、もうお一方は日本政府を代表して、岸田文夫外務大臣でした。

IAEAが原子力の平和利用を推進するための機関であるということはもちろん分かっているし、実際にレントゲンなど、私も日常生活でかなりお世話になっていることもわかっています。しかし、天野事務局長が原子力の有用性と安全性の強化を強調し、岸田大臣が「福島第一原発事故の教訓を踏まえ、国際的な原子力安全の強化に貢献していく考えです」とおっしゃったのを聞き、天野事務局長は日本人としてではなくIAEAの立場から話しているとはいえ、なんだか「日本は福島事故を受けて、原子力から離れるのではなく、よりセキュリティを上げて密着していくのだ」と世界に暗示してしまったように感じてしまいました。



Go back to top

No.0 Friday, 24 April

無事NYに着きました！

去年、二期生としてこの日を迎えた時は、不安と緊張でいっぱいだった覚えがありますが、今回は心に余裕を持って渡航することが出来ました。それは、2回目の慣れももちろんあるでしょうが、自分の活動に自信と意義を見出せたことが大きいと思います。

恐れ多くも、去年は帰国してからたくさんの講演依頼をいただきました。中でも印象的だったのは、修学旅行で長崎に来た中学生への講演でした。核軍縮や核不拡散など、難しい言葉をたくさん使った講演でしたが、どの子も真剣に聞いてくれ、講演後、矢継ぎ早に質問をされたことは一番嬉しい驚きでした。引率の先生から「あんなに質問が出るとは意外だった。歳が近いあなたの言葉だからこそ、中学生にもここまで響いたんだと思う」と言われました。それまで私は、この分野に関しては自分が最後尾で、被爆者の方々をはじめとした「先輩方」を追いかけ、ひたすら教えていただく立場だと思っていたけれど、この講演を機に、自分はすでに追いかけられる立場、伝える立場にもあるのだと意識するようになりました。

今回は、去年までよりも多くの方々が私達のブログを読み、応援してくださっていることを感じています。また、講演後に「ブログ、読みます」と言ってくれた子達のこと頭浮かびます。

核問題を学べば学ぶほど、そこに深く根付く国益や多国間関係の複雑なしがらみに直面し、自分の無力さを感じていましたが、このブログを通して自分の等身大の言葉を発信していくことに、大きな意義を感じています。二週間の長丁場になりますが、どうぞよろしくお願いします！(^_^)

Go back to top

[このページのトップへ](#)

長崎大学 核兵器廃絶研究センター (RECNA)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015/tomoya-blog-2015

Tomoya's Blog 【ひとこと、ふたこと。。】

No.10 Thursday, 7 May

今日はとうとうNGOルームでの発表です！

みんな本当に長い時間をかけてそれぞれが準備していました。

発表者は前日の夜まで発表をより良いものにしようとずっと話し合っていました。

みんなが何ヶ月も前から話し合っ準備して来ていたのを見ていたので、聞くのを楽しみにしていました！

3つのテーマそれぞれが素晴らしい発表で、大人数が協力して準備して、発表するとこんなにスゴイことが出来るんだと、ユースの仲間たちには尊敬しっぱなしです(笑)

そして、夜には日本でもニューヨークでもお世話になりっぱなしのPIKADON PROJECTのみんなどお別れ飲みでのごちそうをいただきました。

僕は去年の終わりから本当にお世話されまくりで、やりたいことをさせてもらいました。

ユースになってから出会った多くの人に本当に感謝の思いでいっぱいです。

これからもお世話になると思うのでよろしくお願いします！

[Go back to top](#)

No.9 Wednesday, 6 May

昨日に続いて今日も原発の話です。

今日はRECNAセンター長の鈴木達治郎先生の話の話を聞きました。

六ヶ所村の再処理工場とMOX工場の話を中心に聞きました。

なんとなく知ってるようで、知らないことばかりでした。

やっぱりどんな問題もだと思っけど、核問題は政治的な視点だけでなく科学的な視点の両方の視点が重要だと改めて思いました。

そして、六ヶ所村の問題は技術的な問題、科学の発展の歴史、研究に対するプライドや省庁の利害関係、予算の問題など多くの問題が絡んでいて難しいなと感じました。

そんなの夢物語でお金の無駄だと思っこともあるけど、夢を見た科学者が科学を進展させてきたという事実もあるし・・・。

僕は政治的なことはあまり分からないけど、科学で言えば今までは科学の発展が人類の為になってきたけど、これからは必ずしも科学の発展が人類に良いことをもたらすわけではないのかなと感じます。

これからは科学技術との付き合い方を真剣に考えるて成熟させる必要がある思う。

そして、核問題はその内の一つの大きな問題として多くのものが詰め込まれているなど感じます。

Go back to top

No.8 Tuesday, 5 May

今日は朝からMC III（平和利用）とお昼からはドイツ人学生との原発についてのディスカッションでした。

原発だらけの1日です（笑）

まず朝のMC IIIについてですが、一番印象に残ってるのはイランのステートメントです。

とにかく長い（笑）

基本的にはどこの国も原子力の平和利用はNPTが保証している権利で、同時に不拡散との両立をしなければいけないという感じでした。

（まあ、それ以外には言いようがない気がしますが、、）

そして、福島事故は改めて多くの国が原子力の平和利用を推進していく中で起きた事故だったのだと再認識した気がします。

それだけ人類にとってエネルギー問題は重要なのが表れていると思いました。

午後からはドイツの学生とのディスカッションでした。

ドイツは2022年に原発0になる予定です。その通りにドイツ人学生のほとんどは原発反対の立場でした。

ドイツでは福島事故がキッカケで議論が起こり、一度頓挫した脱原発への歩みを再び歩き始めました。

同時に多くの問題があることもドイツの学生から学びました。

しかし、「そんなのはしがらみが多くて難しくて当たり前だし、分かっていることだ。だからこそ僕たちの気持ち、意思表示が政府を後押しして進めていく必要があるんだ。」と言われて、日本がなかなか脱原発に進めない理由がなんとなく分かった気がします。

日本では福島後に一気に脱原発に進んだけど、色々と曖昧なもので萎んでいった気がします。

これは僕だけかもしれませんが、「政府が、、」「電力が、、」「地球温暖化が、、」と、意見があるようで事実しか言っていないことが多いので、色んな人から聞きながら話しながらしっかり自分の意見を持てるようにしたいと思います。

せっかく工学を勉強しているので、どちらの意見にしても根拠やベースがしっかりした意見を持てるようにしなければいけないなと思いました。

日本とドイツは似ているとよく言われます。確かに一緒にいてなんとなく似ている所を感じるし、第二次世界大戦の後の歴史もどこか似ている気がします。

だけどいくつかの国の大きな意思決定がここまで日本と反対になるのはなんでだろうなと、僕の中ではリーマン予想並の謎です。

工学部ネタぶっ込みました (笑)

まあとにかく勉強したいことがたくさんあります。

P.S.

ユースの女の子たちがご飯を作ってくれています！

美味しすぎてすぐ食べてしまうので、写真はありません (笑)

いつもありがとうございます。



[Go back to top](#)

No.7 Monday, 4 May

今日は会議の傍聴の後に一週間分のみんなの共有ができました。

先週は僕はあまり会議の傍聴ができていなかったのので、みんなの意見を聞いて整理ができたので良かったです。

みんなそれぞれ違う場所に行っていたし、それぞれ違うことをしていたので色んな経験をシェアできました。

その中でもやっぱり各国の外交官の方に直接色々聞けるのは楽しいです。

今回は僕は2ヶ国しか行けなかったのので、他のメンバーからシェアしてもらいました。

今回はメキシコ、イラン、オーストリア、フィリピン、日本と非核兵器国で積極的に動いている国が多かったので、もう少し色んな国から聞けたら良かったです。

今回話ができなかった国はそれぞれ少しずつ違う立場、アプローチを取っているのので違いが分かり易くて面白かったです。

そして、けいこ先生のプレゼンが今日はありました！

佐野大使や各国政府の外交官の中で輝いていました！

改めてすごい先生から学ぶ環境があって感謝です。

そして、これからもよろしくお願いします（笑）

P.S.

夜はブロードウェイでシカゴを見てきました！

あまりのセクシーさに男性陣には鼻血ものでした（笑）

あと、前日にお肉を食べに行きました！

江島さんありがとうございました！





[Go back to top](#)

No.6 Friday, 1 May

今日は花の金曜日です。（はい、予想通りドンちゃん騒ぎです^^）

まずは、まじめな話から。

今日の最初は、はやと君のプレゼンでした。

周りの人みんなはやと君のプレゼンを絶賛していました！

前日のスピーチから続いてみんなスゴすぎる！

そして、お昼からはNGOプレゼンテーションでした。

なんとステージにはたくさんの日本人がいました。

世界の川崎哲を始め、田上市長、松井市長、朝長先生、被爆者の方など被爆国日本の市民団体の存在感を感じると共に、政府もこの位存在感を出してほしいし、出せる可能性があるはずだからもったいないなと思ってしまいます。

夜にはプロジェクションマッピングをしました。

これは4月の始めに長崎・広島でアートワークショップを行いました。

日本からは長崎・広島・福島などから15名、アメリカから6名でそれぞれがアート作品を作りました。

そして今回はその映像とみんなの作品をNYで流しました！

アメリカ人学生の何名かも参加して同窓会もしました。

P.S.

そして夜はもちろん・・・。

何人かは眠らない街NYの夜へと繰り出しましたとさ。

おしまい。



[Go back to top](#)

No.5 Thursday, 30 April

今日はユースの活動が盛りだくさんの日です！

まず今日は例の平和首長会議のプレゼンの日です。

前回のトラウマ “Nagasaki weapon abolition” があるのでとても緊張しました。まあ、結果としてはそこそこ噛みました（笑）

そして終わる前に、オーストリアの政府との話し合いが決まったのでホッとする間もなく外交官の人に会いに行きました。

オーストリアとの話はけっこう面白かったです。

基本的には「非人道性」が話の中心でした。

オーストリアは今までに共同声明とプレッジの二つを出しています。

共同声明は過去に5回出されていて、現在では160ヶ国ぐらいが賛同しています。

プレッジは12月に行われた非人道性に関する会議で出されて現在80ヶ国ぐらいが賛同しています。

内容はプレッジの方が要求が高いので、プレッジは共同声明の次の一步だと思っていたのですが、僕の考えは浅かったようです（笑）

オーストリア政府としては、プレッジを通して非人道性の議論を活発にして広める狙いがあるようです。

でも、非人道性の議論を活発にするためなら共同声明では不十分なのかなと疑問が残りました。

プレッジの方が内容は強いので、核兵器国や傘の国は無視しようとするはずだからどうするのかと思いました。

オーストリアは結構苦労しているのかなと個人的には思いました。

もうちょっと詳しくオーストリア政府の方に聞いてみようと思います。

そして平和首長会議の終わった会場に戻ると、市長が頑張ったご褒美をくれました（笑）

市長ありがとうございます！

そして夜は地球市民集会へ参加しました。

もうこれはちさちゃんともえちゃんのスピーチしかないです！

僕の言葉では伝えられないので、実際の映像がアップしてあるのでそれを見てください！

ハンカチ必須です！

P.S.夜は調先生のポケットマネーが炸裂して居酒屋に行きました！

そして、男子のお決まりトークも炸裂してました（笑）



No.4 Wednesday, 29 April

今日も1日会議の傍聴でした。

その中でも一番面白かったのは、イラン政府の外交官との面談。

今回の僕のNPTでの注目は中東なのですが、まさかイランの方と会ってお話しできると思いませんでした！

なので今日はひとことふたことでは済みません（笑）

イランは前のブログでも書いたようにとっても話題の国で、ほとんどの国がステートメントで基本的な枠組みの合意について言及しています。

話した内容を書くと終わらないので話したポイントと思ったことを書こうと思います。

まず話した内容としては、

- ・イランにおける法と宗教に対する姿勢とそれが核兵器（特に人道性）にどのように影響するか

- ・イラン + P5の基本的な枠組みの合意について

- ・中東大量破壊・非核兵器地帯の交渉について

ということについて大まかに話しました。

ここでは、中東大量破壊・非核兵器地帯について書こうと思います。

僕のイランの印象は核開発疑惑とイラン・イラク戦争のイメージが強いです。

しかし、実際にはイランは最初に中東大量破壊・非核兵器地帯のアイデアを提案した国の一つでもあります。

そのため、中東大量破壊・非核兵器地帯には思い入れが感じられました。

このように一つの国でいくつかの顔・表情があるので、その国の立場を的確に捉えるのは難しいなと感じました。

そして、交渉が進まないことに対しての静かな怒りとどこか諦めのようなもの、そしてそれによる不信感を感じました。

やはり非核兵器国の核兵器国への不満は強いのだと改めて感じる場でした。

まだ核兵器国の政府の人とは会ったことが無いので、これに対してどのように思っているのかや、反対に核兵器国の不満は何なのか改めて聞いてみたいと思いました。

そして中東大量破壊・非核兵器地帯はどのようにこれから進んでいくのか全く予想が付きません。

もっと他の中東の国、そしてフィンランドに話を聞いてみようと思います。

色々思ったことはあるんですが、中東の問題はいろんな根源的な問題が表れている気がして面白いなと思いました。

P.S.真剣な会議の後はみんなではしゃいでます (笑)



[Go back to top](#)

No.3 Tuesday, 28 April

今日は初めてしっかりと会議を傍聴しました。

基本的にはどの国も準備してあるステートメントを読むだけなので、会議は坦々と進んでいきます。

なので今週1週間は主要ないくつかの国のステートメントを読んで立場を理解して、金曜日から軍縮・不拡散・平和利用と分かれて具体的な話し合いになるのでついていけるように勉強しようと思います。

お昼に「核兵器による影響と禁止条約」的な感じのサイドイベントに行きました。ここでは核兵器が使われた時にどのような状況になるかのシミュレーションなどの発表がありました。

そして、その発表の最後は「信じてください、私は医者ですから」とウケをとって終わりました(笑)

この時に「信じてください、私は科学者ですから」と言ったらどうなるのかな？と思ってしまいました。

福島事故の後、本当は科学者の放射線への知識が必要でした。でも原発事故で信頼を失ってました。

皮肉にも信頼を失うと同時に、必要とされました。

しかし、信頼がないものが何を言っても助けになりません。

その時から状況は変わったのでしょうか？

長い時間をかけて、やらなければいけないことがたくさんあると思います。

科学と政治は別物だと言われることがあります。政治は信用できないと言われることがあります。

科学は信用されているのでしょうか？

もう信頼は失われているのでしょうか？

そしてもしそうだとすれば、これは日本の将来にとって良いことなのでしょうか？

なぜか最後の一文に変なことを考えた工学部の学生でした(笑)

P.S. ニューヨークには癒しの動物たちがたくさんいます(^ ^)



[Go back to top](#)

No. 2 Monday, 27 April

いよいよ今日からNPTが始まりました！

僕が今回気になってるのは中東大量破壊・非核兵器地帯についてです。

これまでの合意文書には必ず書かれているけど、ずっと進んでない問題です。

今回はNPTの直前にイランの問題が基本的な枠組みに合意したので、それがどのように影響するのか注目していきたいです。

そして今日はヒロシマ・ナガサキアピール集会でのプレゼンがありました。

なので本会議にはほとんど参加できませんでした。

プレゼンは、はい、緊張しました。嘸みっ嘸みでした。

“Nuclear weapon abolition”を“Nagasaki weapon abolition”と言っていました（笑）

次は、平和首長会議でプレゼンをするのでしっかり練習します。

発表直前で忙しいにも関わらず原稿を手伝ってくれたり、応援の声をかけてくれたり、実際に見に来てくれたユース、レクサポのメンバーには感謝しかないです。



[Go back to top](#)

No.1 Sunday, 26 April

今日はデモが行われました！

僕が印象的だったのはデモの先頭にいた3名の被爆者の方でした。

長崎・広島では被爆者が先頭に立つのを何度も見てきたけど、このような大きなデモでも変わらず先頭に立っているのを見ると改めて影響力の大きさを見た気がしました。

それと同時に、10年後、20年後、あるいはその後のデモで先頭を歩いているのは誰なのだろう？と考えました。

今、先頭に立っている被爆者がいなくなるのはそう遠いことではありません。

その時に先頭に立って「ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ」と言っているのは誰なのだろうか？そして、それは日本人なのだろうか？と全く想像ができませんでした。

たぶんここで「それが私たち若者だ」と言わないといけないと思うんですが、どこか言えない自分がいます。

P.S.

日本で集めた色々な人の平和に対する思いがPDPのハトとなって見事に羽ばたきました！服にみんなの思いを刻まれているメンバーもいます！



[Go back to top](#)

No.0 Saturday, 25 April

なんとかニューヨークに今つきました。

なんと5人しか引っかからない保安検査に見事に引っかかりました！動きが怪しかったのかな？それとも顔??

11月から今回のために色々準備してきましたが、やっぱり準備万端とはいきませんでした。

ユースのプレゼンを初日にしなければいけないのですが、実はまだ原稿ができていません・・・。

去年の12月に「核兵器の人道性に関する会議」に参加したのですが、その時は色々なことが初めてで知識も英語力も全然足りなくて、パツパラパーの状態でした。

今回はその時よりも準備をしたしある程度は知識も英語力も？ついていると思うので、これからは現地でしか経験できないことを良いものにできるように、心にちょっとした余裕を持ちながらチャレンジしていきたいと思います。

そのためにもとにかくプレゼンの原稿を仕上げて練習しなければ・・・

P.S. 広瀬先生と同じ飛行機だったので写真上げときます。

ちなみに広瀬先生はちょっと広めの席に座ってました（笑）



核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015/jo-blog-2015

Jo's Blog 【Time in NY】

No.11 Friday, 8 May

今日は私の国連最終日です。と同時にRECNA主催のサイドイベントがおこなわれる日でもありました。主題は「北東アジア非核兵器地帯」の提案でした。元米国政府高官で核兵器戦略の専門家であるハルペリン氏、モンゴルの非核兵器地帯的地位を立案・確立に貢献したエンクサイハン元国連全権大使という2人の大物ゲストを招いての開催でした。余談ですが、ハルペリン氏はこのイベントのためだけに国連パスを取得したらしいです(笑)。「日本、韓国、北朝鮮の非核兵器地帯候補に米国、ロシア、中国の核兵器保有国3カ国を加えた6カ国での協議の再開が北東アジア非核兵器地帯の実現につながる」と梅林先生がおっしゃっていました。この他、停戦中の朝鮮戦争の終結、日本、韓国、北朝鮮の3カ国に核兵器を使用しないという宣言の要請など、7つの具体的な提案がされていました。ニューヨークにきてこれだけ具体的なステップを含んだ発言を聞いたのは正直これが初めてでした(笑)。ハルペリン氏は、「北朝鮮が核攻撃受けないということが保障されれば北東アジア非核兵器地帯の実現可能性は十分にある」と評価されていました。日本が非核兵器地帯のひとつとなれば、日本にとって米国の核兵器の価値が下がり、核兵器廃絶に積極的に動きやすくなるのではないかと思います。このような、核兵器の「質的」削減が核の傘の国にとっては大きな鍵になるでしょう。「北東アジア非核兵器地帯」の話がNPTを通じて進んでほしいと思います。

ニューヨークでは、多くの「現実」を見てきました。NPTの歩みが非常に遅いという現実、それでも核兵器廃絶に向けて強い思いを持って動き続けている人々が政府、NGO含め世界中にいるのだという現実などなど...。私自身の中でもここには書ききれないほどの様々な思いが巡り、考え込むこともありました。ただひとつ言えることは、こういった活動を続けていきたいという思いが固くなったということです。長崎での事前勉強やニューヨークでの活動で出会った人達がそうさせてくれたと思っています。そして本当に感謝しています。これからは自分も周りの人々を巻き込み、みんなの思いの実現に近づけていきたいと思っています。

最後に、このブログを読んでもらった方々、ありがとうございました。これから別の形で再会できることを楽しみにしています。



Go back to top

No.10 Thursday, 7 May

ナガサキ・ユース代表団第3期生の集大成の日を迎えました。そうです。NGOroomでの主催イベントです。多くのメンバーがこの日のために必死に準備をしてきました。15時からなので、今日も朝から集まって最終確認や原稿を読み上げる練習などをおこないました。その様子を見ていると、サポートや雑務しかできないのが少しもどかしくもなりました(笑)。

内容は、平和教育の在り方、日本がとるべき政策方針、なぜ若者が核問題に興味を持つのか・持たないのか、の3本立てです。完成形として見るのは私も初めてでした。どのトピックもひとつの答えを出すのは簡単ではありませんが、それぞれの担当のメンバーが努力してひとつの提案を絞り出したことがよくわかりました。本当に立派なメンバーに囲まれているんだな、と改めて感じました。会場に来てくださった方からもコメントを頂くこともできました。長崎の若者の声として、このプレゼンのメッセージが何か・誰かを動かすきっかけとなってほしいと強く思います。

多くのメンバーが明日、日本に向けて出発するというので、サイドイベントの後には今いるメンバーと桂子先生でラストミーティングをおこない、最後は一本締めでした。

P.S. 全て終わったということで夜はメンバー数人でパーリナイでした(笑)。





[Go back to top](#)

No.9 Wednesday, 6 May

今日は初めて”Main Comittee”を傍聴しました。私が傍聴したのは、軍縮についてのものです。”General Assembly”に比べて格段に活発な議論になるだろうと期待していましたが、GAと同じようにステイトメントの発表で午前中の会議は終わりました。4週間しかない会議の期間の多くをステイトメントに費やして、不毛な時間を過ごしているように思えて仕方ありません。本当にあと2週間程で少しでも前に進めることができるのだろうか。非公開にされていた午後の会議で何かしら動きがあっていることを切に願うばかりです。

さて、明日はナガサキ・ユース代表団が主催するサイドイベントがあります。このイベントの準備に膨大な時間をかけてきて、今も必死におこなっているメンバーが多くいます。私自身は直接関わってきたわけではありませんが、サポート面でできることをしっかりとやります！

[Go back to top](#)

No.8 Tuesday, 5 May

今日はユースのニューヨークでの3大プロジェクトとして掲げているもののひとつ、ドイツ人学生との交流会がありました。主な内容は、日本、ドイツそれぞれの原子力発電の政策についてミニプレゼンの後、小グループ別れてディスカッションをおこなうというものでした。ドイツには8基の原子力発電所がありますが、そのうち4基は現在活動停止していて、動いている4基も2022年までに全て停止させる方針をとっています。これはチェルノブイリでの事故を受けて脱原発の機運が高まり（ドイツとウクライナは近いので）、福島第一の事故がそれを助長しました。ここで思ったのが、経験や見聞がその後の動きに与える影響は大きいな、ということです。たとえば、オーストリアは核兵器の非人道性を強く訴えています。そうなった大きな理由は冷戦時代に、地理的に西陣営と東陣営（ソ連と西欧）の間に位置していたため、ソ連の核兵器の脅威がとても大きく、現実的なものであったというものです。こういったことを考えると、核兵器の被害を直接受けた日本が核廃絶を強く推し進めないのは妙なものです。確かに、長崎と広島では核廃絶を訴えるこえが大きいですが、その他の地域ではそうでもないというのが現実です。都道府県が違えば経験していないということになりうるのでしょうか。ここは明らかに教育が不十分であることが原因なのではないでしょうか…。さて、本題に戻ります。ドイツ人学生と話していて印象的だったのが、ドイツでは原発についての議論

が市民間では活発でないということです。私は、脱原発を強く推し進めているドイツでは国民もよく考えていると思っていたので、肩すかしをくらった感じがしました。ただ、ドイツの政策について聴いていると、日本と決定的に違うのは目先の赤字にはすこし目を瞑り、長いスパンで考えられているという点でした。そういった点は日本も見習うべきだ！....と言いたいところですが、電力会社が半分民営であることを考えれば言い切れないものです。考えれば考えるほど次の問題やネックが出るばかりです。

Go back to top

No.7 Monday, 4 May

NPT RevCon 2週目に入りました。各国がなステイトメントを発表する”General Assembly”は終わり、今日からはNPTの3本の矢である核軍縮、核不拡散、平和利用の分野に別れておこなわれる”Main Committee”が始まりました。今日はその場に行くことはできませんでした。7日(木)にユースが主催するNGOroomでのサイドイベントのミーティングをしたり、明日に控えたドイツ人学生との交流会の準備を進めたりしていました。

今日唯一参加したのが、Action22という平和教育に関するサイドイベントです。そのときに聴いた言葉でひとつ印象に残ったものがあります。広島で高校生を主な対象に平和教育をおこなわれている方が言われた言葉です。”We are the ones who make the world without nuclear weapons.” シンプルですがとても力強いメッセージを感じました。そして思いました。このように本当に強い思いを持った人がNPTを進めればよいのに、と。General Assemblyを聞いた限りでは、本気で核兵器ゼロの世界を目指していると感じられた国は数えられる程度にしかありませんでした。正直なところニューヨークに来てから私自身の中でNPTの存在意義を見失っています。5年後の再検討会議がおこなわれている時には今回の再検討会議がバネとなった大きな進歩があるのか。その可能性は政府にNPTを任せるよりNGOに任せたほうが圧倒的に高いでしょう。そういったことを考えているときにこの言葉を聞いてピンとききました。政府とNGOの違いはこれなんだと。今日Action22の場にいた数人の政府関係者を少しでも動かすきっかけにこの言葉がなればと思いました。

p.s. Action22では中村桂子先生もお話しされる時間があり、RECNAの教育活動やユースの紹介をされました。

Go back to top

No.6 Friday, 1 May

今日もとある学校を訪問させてもらいました！今日訪問した学校は、ニューヨークにある私立学校で、一般的な学校と違って生徒が自分の興味にあわせて受ける授業を選択するという、まるで大学のような高校でした。なぜここを訪問することになったのかというと、26日(日)のPeace Rally, Festivalで知り合った方がその学校で歴史を教えていらっしゃっていて、26日のことを数人の生徒に話したところ、私達に是非会いたいと言ってくれた生徒がいるということでオファーくれたからです。私達の活動にすこしでも興味を持ってくれているということがとても嬉しく、二つ返事でOKしました(笑)。彼らはNPTの存在も、世界の核兵器の数を知らないくらいに知識がなかったのですが、私がNPTについて簡単に説明すると、「なぜ5カ国(米露英仏中)だけが核兵器保有が認められているのか」「なぜ非核兵器保有国はこの不公平な条約に加盟しているのか」など、と

でもクリティカルでとても高校生とは思えない質問を飛ばされました！昨日から年下に頭が下がってばかりです(笑)。余談ですが、その生徒に年齢を訊かれ、19だと答えると、「私より年上なのか！」驚かれました(笑)。

夜はニューヨークの長崎県人会「ばってん会」の会食に参加させていただきました。様々なキャリアをもつ人のお話をお聴きすることができたり、田上市長とお話ししたりできて、貴重な時間でした！会長の山口さん、私とお話して下さった皆さん、ありがとうございました！

Go back to top

No.5 Thursday, 30 April

今日は私はほとんど国連にはおらず、ニューヨーク育英学園という日本人学校を訪問していました。そこでは、レクナサポーターとしてニューヨークに来ている溝越史恭さんが小学5、6年生20人を対象に平和に関する授業をおこないました。私も授業の企画に関してサポートさせてもらっていたので、非常に楽しみにしていました。授業の内容は、ひとつの物事であっても個人によって思うことや持つ意見は異なるからこそ、きちんと相手の話に耳を傾け、理解しようと努めることが大切であるということを伝えるものでした。授業といっても講義のような形はとらず、あくまでも主体は児童たちでした。児童たちはとてもアクティブで飲み込みも早かったため、授業は活気があるものになっていました。長崎の被爆者である吉田勲さんの講話を聴いたり、BB弾を使って現存する核兵器がどれだけのものなのかを感じたりするセッションもありましたが、それを受けた児童たちは、私もハッとさせられるような意見や感想を持っていました。授業の後に中村桂子先生もおっしゃっていましたが、大学生である私たちは彼らから感じたことを受けて反省できる部分もあると思いました(笑)。

夕方からは、地球市民集会という長崎からニューヨークに来ている人々主催のイベントに行きました。そこでは我らがユースから、ちささんとともえさんがスピーチをおこないました。2人のスピーチの訴える力はとても強く、カッコよかったです！

そして夜はユースメンバーと調先生でJapanese Izakayaに！調先生、ごちそうさまでした(笑)。





[Go back to top](#)

No.4 Wednesday, 29 April

今日は、アメリカ政府代表、メキシコ政府代表、イラン政府代表との面会の予定が入っていました。渡航前から、政府関係者との会合を一番の楽しみにしていた自分にとってこの上ないスケジュールです！が、一発目のアメリカ政府代表とのものがキャンセルに！！集合時間を過ぎた後のドタキャンでした(笑)。John Kerry氏に会えるのかとワクワクしていたのですが、残念！

メキシコ、イランは無事に行われました。内容をここで書くことはできませんが、いくつか思ったことを書きたいと思います。これらの会合は、他の国の若者も参加していました。僕自身はその彼らに完敗したと感じています。積極性や勢い、質問のクリティカルさなどの面においてです。知識量やクリエイティブさの違いを見せつけられた感じがしました。彼らの中には既に大学をはじめとする卒業している人もいましたが、ここではそういったことは関係なく、核兵器や平和に関して活動している人間として同じように見られます。そこで他の人に負けていたら淘汰されるだけです。もう負けたくない、と単純にそう思いました。少なくとも、今回の国連滞在期間では二度と負けないように、日々成長していきたいと思います。

※会談の内容は外で話さないようにと相手方から言われました。

[Go back to top](#)

No. 3 Tuesday, 28 April

NPT Review Conferenceの2日目です。今日は特に大きな行事があったわけではありませんが、NGOroomという、本会議場とは別の部屋（写真）で行われるサイドイベントに初めて参加しました。内容は、核兵器の影響を飢餓や気候変動などといった医学・科学の面から見るというものでした。自分はこの分野に関してまったく知識がないので、英語が分かっていても内容が理解できない部分が非常に多かったです。これは本会議の傍聴をしても思うことがあります。各国のスタンスや考えを知ることが大切ですが、浅くてもよいので他の分野の知識も幅広く持つておく必要があると痛感しました。

本会議に関してですが、今日は、英国がNZのオークランド諸島に軍を配備して力を持っていることを、アルゼンチンが非難するという場面がありました。昨日も米国とロシアがステイトメントで非難しあっていました。ロシアに至っては、パラグラフまるまる1

つ分を米国批判にあてていました。レクナの広瀬先生に聞いたところ、これまでの再検討会議や準備委員会ではここまであからさまに批判があることはなかったそうです。今回の再検討会議、不穏な空気が漂っています…。



[Go back to top](#)

No.2 Monday, 27 April

NPT再検討会議が本日、開幕しました。私は本会議場での各国代表によるステイトメントの発表の傍聴を主に行いました。

感じたことをひとつを挙げると、論点がずれていないか、ということです。とりわけ核兵器保有国に関してです。核兵器保有国は、核軍縮に向けたこれまでにおこなってきた努力を強調して話します。しかし、NPTは核兵器のない世界を目指すものが多く参加している、未来に向けた条約です。故に、ゼロにならないければ努力が高く評価されることはありません。非核兵器保有国も含め、NPT加盟国はその存在意義や目標をもう一度目を向け、それに見合った努力を真摯におこなわなければならないと感じました。



[Go back to top](#)

No.1 Sunday, 26 April

今日は、午前中は国連に入るための許可証を受け取りに行き、午後は核廃絶や平和を訴える”Peace & Planet Rally, Festival”というデモ行進に参加しました。国連パス取得の時にもデモの時にも感じたのが、日本人が予想以上に多いということです。被爆70年というものの意味の大きさを強く感じました。

また、そのときには外国人の方とも話し、友達になることもできました！彼らのなかにも私達と同じようにNPT Review Conferenceに参加する方がいました。明日からは彼らと協力し、また、会議には参加できない方の熱い想いを背負って有意義な時間を過ごしたいと思います。



[Go back to top](#)

No.0 Friday, 24 April

こんにちは。ナガサキ・ユース代表団第3期生の竹田稔（たけだじょう）です。現在成田空港で1時間遅延した飛行機を待っています。

昨年の11月にナガサキ・ユース代表団に選ばれてから、勉強会やMTGなどを重ねてきました。その成果を発揮する時が近づいていて、ワクワクしています！不安もありますが、期待や楽しみの方が上回っています。

これまで準備したことを全部出し切れるように最大限の努力を尽くしたいと思います！

[Go back to top](#)

[このページのトップへ](#)

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/third_activities/youth-blog-2015/tomoe-blog-2015

Tomoe's Blog ~葛藤の中で~

No.11 Wednesday, 20 May

帰国報告です！

I arrived in Nagasaki on May 9th ! I really appreciate everyone.

We will report on activities in NY on June 1st at Nagasaki University. I'm looking forward to seeing you at the event.

5月9日に帰国してから、あっという間に10日以上経過しました。帰国後のblog更新遅くなりすみません(._.)

日本に到着して最初に口にしたのはやっぱり日本食...ではなく、ともやくんが羽田空港で買ってくれたチャイ（インド式ミルクティー？）でした（笑）

私のNPT参加は2週間ほどで終わりましたが、会議自体はまだ続いているんですね。たしか22日までだったかと思います。私もNGOのツイッターやFBで流れる情報を見るようにしています(^^)

「RECNAでの活動は君にとって人生のスパイスのようなものだろう？」ということ言われたことがあります。

RECNAにはユース2期生として採用された2013年の秋ごろから足を運ぶようになりました。これまでの大学生活約2年間のうち、1年半はRECNAに関わっていました。この1年半の間にユース代表団として2度もNPTに参加する機会をいただき、とても恵まれていたと思います。私にとってこの1年半は「スパイス」以上の価値があったと思います。私の大学生活を彩り、豊かなものにしてくれました。

帰国してからは皆切り替えて、6月1日の報告会に向けて準備を始めています！たくさんの方に足を運んでいただけると幸いです。Blogに書きたいことがまだまだたくさんあるので、中間試験終わったらまた更新したいなあ~と思ってます(° °)!

最後になりましたが、ユース代表団をご支援くださった皆様に心から感謝申し上げます。



Go back to top

No.10 Thursday, 7 May

It is the last day for me to go to the UN.

I did a presentation at the event hosted by Peace Boat and Hibakusha stories. I was so happy that some of my friends from Germany came to see there!

Also, we held the session at the UN from 3pm.

英語短くてすみません(^-^);

今日が私の国連での活動最終日でした。ナガサキ・ユース代表団としてはconference room Cでのナガサキ・ユース主催イベントがある日で、全員にいつになく緊迫感が張りつめていました。

私かというと、その1個前のイベントでのプレゼンが最大の仕事でした。川崎哲さん率いるpeace boatと、キャサリン率いるHibakusha storiesによるサイドイベント。トルーマン大統領の孫にあたるダニエルさんや広島で被爆されたセツコ・サーローさんもゲストスピーカーとしていらっしゃる企画です。

私はナガサキ・ユース代表団についての紹介を、歩海ちゃんはユースとして活動する中で感じたパーソナルな話をそれぞれしてきました！去年の自分の活動と比較して、スピーチやプレゼンをした後に私に話しかけてfeedbackをしてくださる方々が今年は圧倒的に多くなったと実感しています。自ら発信することに意味を見いだせたのは、今年の私にとっての貴重な収穫です。そして仲良くなったドイツ人学生の中には私が発表すると知って、ミュージアムの観光を早めに切り上げて見に来てくれた子もいて本当に感謝です(^O^)

そのあとに続くユース代表団主催のイベントでは、雑務を手伝う以外はみんなの発表を見守っていました。BANgやYoung pugwashなど、NPTに来て核問題に取り組んでいる若者もゲストスピーカーとして協力してくれました。

昨年まで、ユース代表団はBANgなどのほかの国の若い人から教えてもらうことばかりな気がしていました(私が受け身な姿勢だっただけで、ほかの人はそんなことなかったのかもしれないので、これはあくまで個人的なフィーリングです)。でもこの今年特にこのイベントでは長崎の大学生が積極的に発信していて、他の国の若者とお互いに良い影響を与え合っているように感じられました。うまく言えないけれど、これは大きな変化だと思います。もう少し考えを整理できるようになったら、メンバー内でこの感動をシェアしたいと思います。

今日が国連最後になる人が多く、帰宅後は荷物をパッキングするするのも後回しにしてご飯に行きました (^ u ^)



歩海ちゃんとプレゼンしてきました

ユース代表団によるイベント

Peace Dove Project

[Go back to top](#)

No.9 Wednesday, 6 May

From today, I will try writing in English a little.

Thanks to Kevin, I joined the session on New START Treaty this afternoon with some students from Germany. I have learned the treaty before in Nagasaki, but I didn't know exactly the detail about that. I have become more motivated to learn the relationship between the United States and Russia after I took part in the conference. I feel happy because German students are friendly and provide me a new perspective! Thank you very much.

From 1:15-2:30pm on May 7th, the side event which I give a presentation in conclusion will be held at Conference Room C in the UN. Peace Boat and Hibakusha stories planned this session. My presentation is very short(maybe 5 minutes or so), but I will do my best. Please join us!

「ユースのFBを『いいね!』したけど日本語で書いてあって読めない(´・ω・`)」と、ケビンに言われました。(ケビンは昨日仲良くなったドイツ人学生の一人です!)そこで、一言だけでも英語で書く努力をすることにしました。細かいことは気にせず思いのまま書いているので、意味を正確に表現できていないかもしれませんが(´o´)でもせっかく興味をもって読もうとしてくれる人がいるので、私も少しがんばってみようと思います!

カフェテリアで一人ぼっちだった私を、New START条約に関するサイドイベントにケビンが誘ってくれました。彼らは来週するシミュレーションでロシア役をするらしく、よりリアリティをもって臨むためこの会議を傍聴しようとしていたのです。

新START条約については中村桂子先生から習ったことがありましたが、その詳細まで深く知ろうとしたことはありませんでした。昨日出会った子が今日も声をかけて仲良くしてくれるのがうれしくて、その誘いにのりました。自分は何て単純なんだろうと思うのですが、彼らのおかげでロシアやアメリカの核問題にも興味がわくようになりました！友人は、ときに自分とは違う、新たなものの見方を教えてくれます。お互いに刺激を与えあえる関係でいられたらいいなと思います！

そういえば、今朝government briefingの会場に向かうとき国連内で人だかりができていたのを見ました。あとでツイッターで知ったのですが、パンギムン国連事務総長と吉川国連大使がいらしたようです。去年のNPTでそのお二人にお会いする機会をいただいたのですが、それからもう1年経ったんですね。時間が経つのは本当に早いなと実感です。

何があったのか知らないのですが、知っている方いらっしゃればぜひ教えてください (^_^)



3階のECOSOCにて。人が少なくて充電できる席に座れました^_^

イベント後、ロシア政府の人（？）に話しかけるドイツの友だち。

[Go back to top](#)

No.8 Tuesday, 5 May

今日の目玉はドイツ学生とのディスカッション！これは昨年が続いての活動なので、私にとっては1年ぶりのリベンジとなります。

ドイツ・日本の学生からのプレゼンが終わると、小グループに分かれて与えられた原発に関する3つの議題についてディスカッションです。

英語力的に不十分だと感じる部分は多々ありましたが、昨年よりドイツ学生の発言をもっと理解できたのは良かったです。日本語でディスカッションするときと変わらないくらいに英語を操るレベルにはまだまだほど遠いので、これからも頑張ろうと思います。

「ナガサキにはまだ放射線が残っているのか？」とドイツ学生から尋ねられたときは少し驚きました。昨年参加した放射線のサマーセミナーでその答えは習っていたので回答することはできましたが、私自身、広島長崎はなぜ除染することなく放射線は低く抑えられているのかということのことをちゃんと考えたことはありませんでした。相手が納得するようにもっと詳細まで話せるようにしたかったな...と思いました。

ディスカッションの場が終わったあとには数人のドイツ学生とハイラインを散歩しました！お互いの国の文化の話から将来の目標まで、色々語り合うことができました。昨年はディスカッションだけしてそのあと交流する時間が取れませんでした。今回はお互いのことを知り合って連絡先を交換した子もいるので、日本に帰ったあとも交流を続けられそうです(^O^)

P.S.今日のgovernment briefingはフランスでした！会場に私が入ったときにはすでに、立ち見や地べたに座り込む人もいるくらいに会場に人が集まっていました。



ハイライン

[Go back to top](#)

No.7 Monday, 4 May

国連での活動も2週目が始まりました！朝9時からのGovernment Briefing、今日はオーストリア政府が来ていました。英語をすべて理解できたわけではありませんが、中村桂子先生を含めたミーティングで疑問を解決させることができました。

オーストリアは3回目の非人道性会議を開催した国。核問題の解決に積極的に動いている国の一つで有名です。

☆なぜオーストリアが非人道性の議論に積極的なのか？

- ・東西を外国に挟まれる小国で、地理的に過去に紛争が多かった。特に冷戦時は核の脅威を感じていた。
- ・中立性がある(スイスみたいな)
- ・チェルノブイリの事故がヨーロッパに多大な影響を与えた。

ポイントを言うと、こんな感じです。

面白かったのは、NPT第4条の核の平和的利用について。核エネルギーの平和利用は認められています。オーストリアは「使う権利もあるが使わない権利もある」と判断。ウィーンは今では第3の国連都市になりました。

午後は核の平和利用に関するカンファレンスへ。途中から参加したのですが、ほとんどすべてといってもいい数の国が福島第一原発のことを言及していました。しかし、フクシマの事故はほとんどの国にとっては「原発はやめるべき」ではなく「よりセキュリティを高める」という教訓でしかないことを知ったときはショックでした。残りの数日で、もう少し丁寧に核の平和利用の会議を傍聴しようと思います！



[Go back to top](#)

No.6 Friday, 1 May

NYに来てから1週間が経ちました！

...ブログをため込んでしまったのでこの週末に振り返りながら書きます、すみませんΣ(°Д°)ついでにブログのタイトルが普通すぎて面白くなかったので今回から変えました。

まずは金曜日からいきますね。

☆スケジュール☆

- ・ BAN-gのサイドイベント
- ・ NGOプレゼンテーション
- ・ ばってん会の方と交流

☆NGOプレゼンテーション

私たちは通称で「NGOプレゼンテーション」と呼んでいますが、reaching critical will のイベントカレンダーには'Civil society presentations to the NPT'と表記されていますね。

普段は外交官等が座る席に、この3時間だけは私たち市民社会の者が座ります。

司会はPeace Boatの川崎哲さん。さらに会議の冒頭に発言する4人のうち3人は日本人！

一人目はセツコ・サーローさん。広島で被爆され、今はカナダに在住の方です。そして2、3人目は広島市長と長崎市長です。広島市長と長崎市長はそれぞれ「平和首長会議」の会長と副会長という立場にもあります。

そのあとに質疑応答をはさんで17人のステートメントが続きます。

国際会議は周到に準備され、トラブルもなくスムーズにすすむと思込んでいましたが、そんなことはありませんでした。時に的外れな質問や発言が出ることもありました。日本政府への批判や、原爆を落としたアメリカに責任を問い詰めるような発言。これには田上市長がうまく対応してくださいました。こういった場面は、実際に国連に来て参加するからこそ見れる瞬間なのだと思います。

共感したこと。それは、被爆者の方がご存命のうちに核兵器禁止の明確な動きを示す必要があるということです。日本人の被爆者の平均年齢は80歳になろうとしています(「日本人」と書いたのは、朝鮮半島などから日本に労働のため連れてこられて被爆した方もいらっしゃるからです)。

1月に立花隆さんが長崎にいらして、被爆者なき時代がいつかはやってくるのだというお話をしてくださいました。今の私たちにとっては被爆体験を直接きけることが当たり前でも、そう遠くない未来にはそれができなくなる時代が訪れるのです。そうしたら、ヒロシマ・ナガサキの原爆はあくまで過去の話となっていってしまうのでしょうか？国家間の緊張がますます高まる中で、核弾頭は世界にまだ16400もあります。今NYで私たちが議論しているのは、過去の話ではなく現在・未来の話なんだということを忘れてはいけないと思います。

17人のスピーチの中には、長崎外国語大学に留学していたサムソン(今も大学生)もいました。理想主義に思われるかもしれないけれども、世界をより良くしたいという気持ちを忘れてしまっていないかと大人に問いかけることができるのはやはり若者なのでしょう。誰しも若いときがあって、そのような理想を追いかけた時期があるはず。同席していた外交官に、その想いが届いていたら良いなと思います。

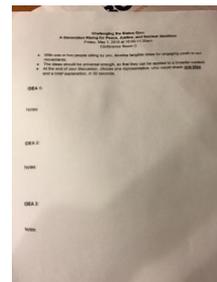
☆ばってん会の方と交流

昨年が続いて、今年もばってん会の方と夕食をご一緒させていただくことができました。ばってん会はNY在住の九州にゆかりのある方が集います。田上市長をはじめ今回NPT参加のため渡米された方も多く参加されました。

大学で普通に過ごしているだけでは起こりえない出会いを経験できるのもユース代表団として活動する醍醐味でもあると思います。私は4年制の薬学部に通っていて、進路でいえばほぼ全員がそのまま薬学系の院に進学します。ばってん会の方とお話していると、こんな生き方・暮らし方もあるんだと新たな気づきが生まれて良い刺激になりました。皆様昨晚はありがとうございました！

思いつくまま書いてたら長文になってしまいました。いつも読んでくださる皆さま、ありがとうございます (^ u ^) 自分の中での気づきや想いを言語化するのはなかなか難しいですが、少しずつでも形にできたらいいなと思います！日本の皆さまはGWですね。

楽しい休日をお過ごしください♪



大学生をはじめ若者がつくるサイドイベント。BAN-gのイベントで、はやとくんがプレゼン頑張っていました*(^o^)*

BAN-gのイベントで配られたプリント。



NGOプレゼンテーションの会議場で、田上市長発言中です。ここは充電しながらパソコンできる席です(^)いつもはワンフロア上の席に座ってるのですが、今日だけは特別です。

サムソン発言中です (^_ ^)

Go back to top

No.5 Thursday, 30 April

～主なできごと～

日本人学校訪問

Nagasaki in New York(Japan societyでのイベント)

☆日本人学校訪問

ニュージャージーにある、日本人学校(ニューヨーク育英学園)を訪問しました。教育学部のフミくんが先生役となって小学生に授業をしました！

まず、ふみ先生は本当に頼もしかった！きっと多大な時間をかけて授業計画を練ったのだと思います。彼の努力に拍手です。相手の主張が自分と違ったとしても、否定せずまずは受け入れること。ふみ先生が子供たちに伝えたメッセージはとても大事な事だな

と思いました。

日本人の子供でも、アメリカで生活するという事は彼らに大きな影響を与えていると思います。中には生まれたときからアメリカに住んでいるという子も。9.11同時多発テロの跡地(現在は滝のようになっています)の写真を見せると、「あー！！」と子供たち。きっと実際に見に行った経験のある子もいたのでしょう。日本の小学生に見せても、きっとそれが何なのかわかる子はほとんどいなかったと思います。

子供たちの「核兵器は怖い」「いつ落とされるかわからないからなくしてほしい」という言葉はストレートで心に響きました。

☆Nagasaki in New York

夜、国連すぐそばのJapan societyという会場でイベントがありました。プログラムは以下の通りです。

被爆者証言/田上市長、朝長万左男先生のお話/被爆者歌う会「ひまわり」合唱

「ひまわり」の方の歌声がとても心に残りました。日曜日のpeace festivalでも感じましたが、改めて音楽の威力を実感です。

イベントの終わりに、千紗ちゃんとスピーチの機会をもらいました。千紗ちゃんのスピーチは昨年、今年と続いて聴きましたが圧巻でした！2期生のときから一緒に活動してきましたが、千紗ちゃんのひたむきに努力する姿勢を心から尊敬します。NY現地に来て、こんな素敵なお仲間がいてよかったと思える瞬間が毎日たくさんあって、今とてもハッピーな気持ちです(^O^)

私は核問題を自身の問題として捉えるようになった体験談をスピーチしました。福島原発のことを口にした瞬間、なんとなーくですが会場の雰囲気はちょっと変わったように私には感じられました。

スピーチの経験を含めNPTに来て気づいたのは、長崎では当たり前とされていることも、ほかの地域で実践すると大きな価値がでる場合もあるということです。(うまく言葉で表現できないのですが...。)

たとえば私自身、地方大学に通う普通の学生の2年間のストーリーがスピーチする価値のある内容だとは思わずにいました。それだけに、閉会后たくさんの方から声をかけていただけたのはうれしい驚きでした。NYでphotographyを専攻している学生は私の話を聴いて声をかけてくれ、彼女のビデオプロジェクトにも協力させてもらいました。自分の体験を話したことで、新たに友達ができました！彼女は今年日本に行きたいと考えているとのこと。ぜひ再会したいです。

私にとって、忘れられない1日になりました。



フミくんが授業で見せた、WTCの跡地。今年のNY滞在期間中に私も行ってきました。

[Go back to top](#)

No.4 Wednesday, 29 April

今日はイラン政府の外交官の方とお会いすることができました。

せっかくの機会、少しでも話を理解できるようにしたかったのでイランがスピーチしたステートメントを探しました。今年の方は水曜日の時点でイランのみの原稿はありませんでした。代わりに初日のGeneral DebateでNAC(Non-Aligned Movement)を代表してイランがスピーチしたものに目を通しました。

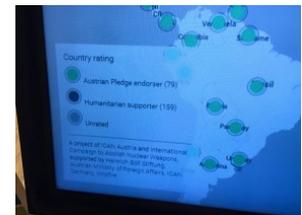
日本から地理的距離の離れた中東。ヨーロッパのように旅行に頻繁に行く地でもないの、知らないこと・勘違いしていることはたくさんありそうです。意外だなと思ったのは、イランはウィーンでの非人道性の会議に出席し、さらにオーストリア・プレッジにも賛同しているということです。(ちなみに日本はこのプレッジに賛同していません。)ニュースでP5+1とイランの核協議のニュースがよく新聞やテレビをにぎわせていたためか、勝手にイランはNPTに消極的なイメージを持ってしまっていたことに気づきました。

話した内容はオフレコなので詳しく書けませんが、印象的だったのは宗教と法についての話です。日本にも神社やお寺、教会はあって宗教があることはあります。でも、それが政治に結びつくことは(基本的には)ないですね。イランでは法よりも宗教が重んじら

れることがある。同じようなことが日本でもあったらどうなるのか想像するのは難しいですね。それが良い悪いという話ではないですが、宗教が彼らの暮らしに根付いているということの理解が私たち日本人には必要なのかなと思います。宗教の信仰の違いで、戦争が起こることだってある。宗教を理解することは相互理解に必要な要素だと改めて感じました。

P.S.

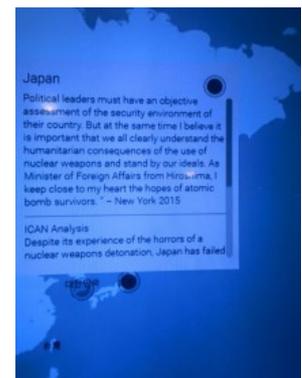
国連のなかで、また一人友達ができました(^O^)ジャズ音楽を専攻している学生で、彼は専攻の楽器の話を、私は長崎の絵葉書をあげて長崎の紹介をして仲良くなりました。核問題を勉強しているという共通点のおかげで、国を越えてつながりが生まれています (^v^)



国連内で発見したタブレット。タッチすると各国がオーストリアプレッジに賛同したかどうかなどを

色分けされています

知ることができる、優れものです！



イラン

日本

[Go back to top](#)

No. 3 Tuesday, 28 April

今日は個人的に印象に残ったイベントについて書きます。

午後のサイドイベント。

タイトル:Nuclear famine and the ban treaty: how prohibiting and eliminating nuclear weapons can prevent a climate disaster

主催はIPPNW(International Physicians for the Prevention of Nuclear War)、日本語で言うと核戦争防止国際医師会議。この団体はノーベル平和賞を受賞したこともあります。

現代の核兵器はヒロシマ・ナガサキに落とされた原爆よりさらに開発され、破壊力が増えています。核兵器使用により気候変動や飢餓が起ると言われていて、その研究も進んでいます。

軍縮や不拡散、核の平和的利用はNPTの3本柱として重要で、よく議論されています。私は国際保健(もっと言うと、人が人らしく生きていけるには?ということを考えることでしょうか...うまく説明できないけれど)にもともと興味があったので、今日のイベントのような核兵器が人体や環境に与える影響という視点で核問題を見つめた議論はますます学ぶ意欲が湧きますね (^ u ^)

ノルウェー、ナヤリット、ウィーンで開催された核の非人道性に関する議論が近年活発になっていて、ユース代表団のメンバーの中には自費で参加した子もいます。今日のサイドイベントに参加して、今年は個人的に非人道性の議論にもっとフォーカスをあてて勉強していこうと考えました。自分の中での柱ができると少し不安な気持ちが減りました! NPTは一つの条約ですが、軍縮・不拡散・平和的利用のことをそれぞれ議論するので、まだまだ知識の浅い私はあれもこれもとなると混乱してしまうのです。自分ひとりで理解できないところはメンバーに聞いたりして、私ができるところは皆にシェアする。このサイクルがうまくできたらと思います。



[Go back to top](#)

No.2 Monday, 27 April

〈スケジュール〉

- ・ ICANの記者会見を見学
- ・ 開会式

・ General Debate

ICANの会見には、広島で被爆され現在はカナダ在住のセツコ・サーローさんも同席されていました。初めて直接セツコさんのお話を聴き、その力強さに圧倒されました。(被爆者の方のお話を直接聴く機会がなかなかない方もいらっしゃると思います。外務省のHPからセツコさんをはじめ被爆者の方のお話を動画で聴くことができるページを見つけたのでリンクを掲載いたします。)

今年の会議場は昨年と違って、国連の中で最も規模の大きいところでした。また開会式ではアルジェリアのフェルキ大使が議長になりました。今まで勉強会で読んできたステートメントには、「議長」のことを'Mr.Chairman'と表現されることがほとんどでしたが、今年は'Madam President'と呼ばれていて新鮮でした！

午後のGeneral Debate、トップバッターは日本のスピーチでした。日本の外務大臣がNPTに参加するのは10年ぶりのことだそうです。外務省のつくった「ユース非核特使」のメンバーとして、私たちもスピーチの中で紹介されました。

～日本のステートメントの内容について思ったこと～

- ・ステートメントの冒頭に、広島出身の大臣であるということが強調されている
- ・「もちろん政治指導者は自国を巡る安全保障環境について冷静な認識を持たなければならない」←これはアメリカの核の傘に守ってもらうという選択も認めるということ？
- ・例年通り、北朝鮮に対しては国名を名指しして核・ミサイル開発を批判していた
- ・「福島第一原発事故を踏まえ、国際的な原子力安全の強化に貢献していく」←福島事故を経てもなお、そこから得るほとんどの国の教訓が「原発は危険だからやめよう」ではなく「原子力の安全性をより高めよう」であることを再確認して、少し残念に思いました。



[Go back to top](#)

No.1 Sunday, 26 April

スケジュール〉

- ・ 国連パス取得
- ・ Peace Rally & Festival (デモ行進 & お祭り)

NPT再検討会議の会期にあわせて大勢の日本人がNYに集っていることを実感できました。デモ参加者をよく観察してみると、各々が主張する内容に少し違いが出ていました。広島・長崎の人は核兵器廃絶を。福島の人には核兵器に加えて原発の恐ろしさを、沖縄の人は'No base'をアピールしていました。

デモは初参加でした。人々の怒りが形として現れるのかなと想像していましたが、実際に参加してみるとコスチュームにこだわった人などもいて、想像以上に明るい雰囲気でした。

Festivalでは、ステージ企画の合唱が印象的でした。音楽は思想や人種などあらゆるものを越えて、人々の心に訴えることができるのだと実感しました。人種のサラダボウルとも表現される都市NYで聴く「imagine」(ジョン・レノン)が、心の底に響きました。

Imagine there's no countries

It isn't hard to do

Nothing to kill or die for

And no religion too

Imagine all the people

Living life in peace

(ジョンレノン・imagineより歌詞抜粋)





[Go back to top](#)

No.0 Thursday, 24 April

長崎大学薬学部3年の山中智絵です。今日の夕方、NYに無事着きました！今日のNYは日本より気温がずっと低く感じられます。

成田からJFK空港まで約13時間、お隣の席はなんと、長崎からNPTに参加される方でした！18日に原爆資料館であった結団式にもいらしていたとのこと。5年に1度のNPT再検討会議、さらには被爆70年ということもあってか、長崎からは100名近くがNYに結集します。「チーム長崎」を出発時から感じるのが嬉しかったです。

昨年2期生をさせていただいたので、NPTの参加は今回で2回目になります。緊張や不安な気持ちもありますが、今まで支えてくださった方への感謝の気持ちを忘れず学んでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします！



[Go back to top](#)

[このページのトップへ](#)